

2018 年度通訳案内士試験直前対策セミナー＜日本歴史＞補助資料

●外国人に人気の日本の観光スポット ランキング(2017年)(トリップアドバイザー)

- | | |
|--|--|
| 1位: 伏見稲荷大社 (京都府京都市) | 11位: 奈良公園 (奈良県奈良市) |
| 2位: アキバフクロウ (東京都千代田区) | 12位: 禅林寺 永観堂 (京都府京都市) |
| 3位: 広島平和記念資料館 (原爆ドーム) (広島県広島市) ... | 13位: 姫路城 (兵庫県姫路市) |
| 4位: 厳島神社 (広島県廿日市市) | 14位: 兼六園 (石川県金沢市) |
| 5位: 東大寺 (奈良県奈良市) | 15位: サムライ剣舞シアター (京都府京都市) |
| 6位: 清水寺 (京都府京都市) | 16位: 長谷寺 (神奈川県鎌倉市) |
| 7位: 新宿御苑 (東京都新宿区) | 17位: 大本山 大聖院 (広島県廿日市市) |
| 8位: 金閣寺 (京都府京都市) | 18位: 沖縄美ら海水族館 (沖縄県本部町) |
| 9位: 箱根彫刻の森美術館 (神奈川県箱根町) | 19位: 松本城 (長野県松本市) |
| 10位: 高野山 奥之院 (和歌山県高野町) | 20位: 東京都江戸東京博物館 (東京都墨田区) |

●日本三大がっかり名所

- (1) [高知のはりまや橋](#) (2) [札幌の時計台](#) (3) [守礼門](#) (沖縄) (4) [オランダ坂](#) (長崎)

●東大寺の「お水取り」

3月12日に奈良東大寺二月堂で行われる「お水取り」に先がけて、毎年3月2日に行われる小浜市神宮寺の「お水送り」は、奈良と若狭が昔から深い関係にあったことを物語る歴史的な行事です。奈良のお水取りが終わると春が来る。関西の人々は、毎年この春の兆しを待ちわびます。この奈良東大寺二月堂のお水取り(修二会のお香水汲み)は全国にも有名な春を告げる行事ですが、その「お香水」は、若狭鵜の瀬から10日間かけて奈良東大寺二月堂「若狭井」に届くといわれています。(両市は、この天平時代からの1,200年の歴史の輪廻により、昭和46年より姉妹都市盟約を締結しています。)

●伊勢神宮や出雲大社が世界遺産に登録しない理由

・伊勢神宮の回答

「神宮司庁へ意向を確認しましたところ、遷宮により20年に一度社殿を建て替える行為が、保護を目的とする世界遺産の趣旨にはそぐわないという理由で、登録申請することは難しい旨回答をいただきました」

・本当の理由

天皇陵と思われる古墳すべての発掘調査を拒否している宮内庁にとっては、伊勢神宮や出雲大社のあれこれについて詮索されることは、鬱陶しいだけなので、宮内庁と神宮司庁が協調して拒否していると考えられる。

●三名城: [姫路城](#)、[名古屋城](#)、[大坂城](#)(熊本城)

●天下餅

「織田がつき 羽柴がこねし 天下餅 座して喰らふは 徳の川」

●マルコポーロの「東方見聞録」

中国大陸から1,500海里(約2,500km)に王を擁いた白い肌の人々が住む巨大な島があり、黄金の宮殿や豊富な宝石・赤い真珠類などを紹介している。1274年、1281年の元寇についても触れているが、史実を反映した部分もあれば、元軍が日本の首都である京都[まで攻め込んだという記述や日本兵が武器にしていた奇跡の石など、空想的な箇所もある。

●♪女ひとり

- 京都 大原 [三千院](#) (天台宗)
京都 梅尾(とがのお) [高山寺](#) (こうざんじ) (真言宗)
京都 嵐山(らんざん) [大覚寺](#) (真言宗)

2018 年度通訳案内士試験直前対策セミナー
＜日本歴史＞資料

ハロー通訳アカデミー
植山源一郎

宮本武蔵の「五輪の書」に学ぶ勝利の鉄則

生涯無敗の”**剣聖**”である宮本武蔵に学び、”**受剣聖**”となり、合格必勝を勝ち取れ！



●わが兵法を学ぼうと思う人は、修行の法がある。

- 第一に、邪(よこしま)でないことを願うこと。
- 第二に、兵法の鍛錬に励むこと。
- 第三に、もろもろの芸(武芸・芸能)を学ぶこと。
- 第四に、さまざまな職能の道を知ること。
- 第五に、ものごとの利害・得失をわきまえること。
- 第六に、あらゆることについて鑑識力を身につけること。
- 第七に、目に見えないところを洞察すること。
- 第八に、わずかな事にも注意をすること。
- 第九に、**役に立たないことをしないこと。**

おおかたこのような道理を心がけて、兵法の道を鍛錬すべきである。

●何ごとにも勝つということは、道理がなくて勝つことはできない。

(本セミナーの道理に従って、勝っていただきたい)

●心に片時も兵法のことを忘れず、正しい道に励めば、技術的にも勝ち、ものを見る目において人に勝ち、また、鍛錬によって全身が自由自在になるので、身体的にも人に勝ち、さらにこの兵法に馴れ親しんだ心であるので、精神的にも人に勝つ。この境地まで到達すれば、どうして人に負けるということがあるだろうか。

(これより、片時も、受験のことを忘れてはいけない。道理に従って鍛錬すれば負けるということはない)

●**役に立たぬ事を、せざる事。**

(ダラリの法則(ムダ、ムラ、ムリ)に常に注意せよ！受験にムダなことは一切しないこと)

●**心、常に、道を離れず。**

(常在戦場！)

●千日の稽古をもって鍛となし、万日の稽古をもって錬となす。

(これをもって、鍛錬という)

●固く決意して、朝な夕な鍛錬して技を磨きつくして後、自然に自由になり、おのずから奇跡的な力を得、神通力の不思議があるのである。これが武士として兵法修行をする心意気である。

(道理に従い、鍛錬し、奇跡の神通力を手にせよ。これが受剣聖の心意気である)

●戦いの姿勢は、平常の姿勢を兵法の姿勢とし、兵法の姿勢を平常の姿勢とすることが肝要である。よくよく吟味すべきである。

(本試験は平常心で臨むこと。平常心で臨めるように、準備しておくこと)

●**構えあって構えなし。**

(準備万端整えば、自ずから、臨機応変、変幻自在に難問に対応できる)

- 人のまねをせずに、その身に应じ、武器は自分の使いやすいものでなければならぬ。
(武器は、自分の使いやすいようにして使え→武蔵は二刀流)
- 体の大きい者も小さい者も、心をまっすぐにして、自分自身の条件にとらわれないようにすることが大切。
(全科目得意な受験者などいない。本資料ほど卓越した武器はないので、ただひたすら努力せよ)
- 一理に達すれば万法に通ず。
(受験の極意が理解できれば、何も恐れるものはない)
- 敵に先手をとられたときと、自分から先手をとって敵にしかけたときとは、倍も違うものである。
(先手必勝)
- 打ち込む態勢をつくるのが先、剣はそれに従うものだ。
(万全の準備が勝ちにいく鉄則である)
- 我、事において後悔せず。
(後悔のない闘いを戦え！)
- 書物を読むばかりでは兵法の道に達することはできない。この書に書き付けたことを、自分自身のこととして、ただ書物を見るとか、習うとか思わず、物真似をするというのではなく、すなわち、自身の心の中から見出した道理とするよう、常にその身になって、よくよく工夫しなければならない。
(この資料を読むだけでは、受験の極意を得ることはできない。自ら、理解し、納得し、自分に合うように工夫して鍛錬しなければ、”受剣聖”になることはできない)
- 宮本武蔵から通訳案内士試験受験者へのメッセージ
 - (1) 試験に合格することを固く決心し、セミナーの教えに従い、
 - (2) 会社の仕事、家事は大いに手を抜き、有給休暇はすべて使い切り、できれば、ずる休みをし、
 - (3) 受験にムダなことは一切せず、「セミナー資料」を片時も肌身離さず、
 - (4) 朝な夕なに暗唱に努め、臨機応変、変幻自在の受験の極意を極め、
 - (5) ”受剣聖”たるべし。
- 心が折れそうになったら、動画「決心すれば、必ず実現できる」を見よ！
https://youtu.be/oXF9u2_7tqA

＜合格への道＞

「彼を知り己を知れば百戦殆からず」と申します。まず、既出問題(3～4 年分)を見て、出題傾向、自分の強い分野、弱い分野を知ることがすべての出発点になります。

●第1次筆記試験の【問題】と【解答】

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/2845f5d7a69a28560bf812b8df6e5a72>

次に＜合格体験記＞を読むことにより、合格者の足跡をたどり、合格への道のりを追体験してください。

＜合格体験記＞は合格への道筋を示してくれます。また、勉強に行き詰まったときに＜合格体験記＞を読むと、必ず道が開けます。

●2017 年度＜合格体験記＞(約 120 名分を掲載)

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/c/15e28f93d37c0b25e1252138afadf105>

＜無料学習サイト＞

- マラソンセミナー＜日本歴史＞動画学習コーナー
<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/aa9caa987007e8ef9f390a0a88c6e667>
- マラソンセミナー＜日本歴史＞音声学習コーナー
<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/89f4804d90b83a179d69e92565f0a210>
- 第 1 次邦文試験対策＜特訓 1800 題＞無料自習学習コーナー
http://hello.ac/streaming/clinic/clinic_houbun/index.html
- (写真問題対策)＜FlashcardsDeluxe＞による学習法
<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/35e45334cca19e6f8df802b215963d40>
- ＜FlashcardsDeluxe＞でも、＜特訓 1800 題＞を 4 択問題形式で学習できます。

<ガイドライン> (試験方法・合格判定)

●2015 年度と2016 年度は、下記で同じ。

(1) 試験方法

- ・試験は、日本の観光地等に関連する日本歴史についての主要な事柄(日本と世界との関わりを含む。)のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問うものとする。
- ・試験の方法は、多肢選択式(マークシート方式)とする。
- ・試験時間は、40分とする。
- ・試験の満点は、100点とする。
- ・問題の数は、40問程度とする。
- ・内容は、地図や写真を使った問題を中心としたものとする。

(2) 合否判定

- ・合否判定は、原則として 70点を合格基準点として行う。

●2017 年度と2018 年度は、下記で同じ。

<試験全体について>

日本地理、日本歴史及び一般常識についての筆記試験は、外国人観光旅客が多く訪れている又は外国人観光旅客の評価が高い観光資源に関連する地理、歴史並びに産業、経済、政治及び文化についての主要な事柄(日本と世界との関わりを含む。)のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問うものとする。

(1) 試験方法

- ・試験は、外国人観光旅客が多く訪れている又は外国人観光旅客の評価が高い観光資源に関連する日本歴史についての主要な事柄及び現在の日本人の生活、文化、価値観等につながるような日本歴史についての主要な事柄(日本と世界との関わりを含む。)のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問うものとする。
- ・試験の方法は、多肢選択式(マークシート方式)とする。
- ・試験時間は、40分とする。
- ・試験の満点は、100点とする。
- ・問題の数は、40問程度とする。
- ・内容は、地図や写真を使った問題を中心としたものとする。

(2) 合否判定

- ・合否判定は、原則として70点を合格基準点として行う。
- ・実際の平均点が、合格基準点から著しく乖離した科目については、I (4) (※)において記載した合格基準の事後的な調整を行うこともある点に留意すること。
- (※)筆記試験の合否判定については、科目ごとに合格基準点を設定し、すべての科目について合格基準点に達しているか否かを判定することにより行う。受験者には筆記試験の合否のほか、科目ごとに合格基準点に達したか否かを通知する。実際の平均点が、合格基準点から著しく乖離した科目については、当該科目の試験委員と試験実施事務局から構成される検討会を開催する。その結果、必要があると判断された場合には、合格基準の事後的な調整を行う。(⇒過去数年間、合格基準点が下げられることはあっても上げられることはなかった。)

●そもそも、「合格基準点」とは何か？

通訳案内士試験は、1949 年から約 70 年の歴史を持つ国家試験ですが、長年に渡り、「難問、奇問、珍問の通訳案内士」の異名を誇ってきました。下記は、その件で、私が AERA から取材を受けた記事です。

<https://dot.asahi.com/aera/2015113000038.html?page=1>

マスコミに叩かれるようになって初めて、観光庁も思い腰を上げ、「ガイドライン」の設定、改正を重ねてきましたが、その際、<合格基準点 = 出題者が、その科目の平均点となるように作成する基準点>ということが大前提となっています。つまり、平均点を取れば、合格ということです。それでも、一般常識、日本地理の合格基準点(=平均点)が、40 点台という「難問、奇問、珍問がなくなる現状」があります。まさに、それが難問の試験なのです。

＜日本歴史＞の問題作成委員の変遷

●問題作成委員

マークシート方式が採用された2004年度から2017年度までの出題形式、内容、配点構成を分析すると、＜日本歴史＞の問題作成委員は、3グループ(1グループ2名)が担当したと考えられる。

【Aグループ】2004年度～2005年度を担当

【Bグループ】2006年度～2014年度を担当

【Cグループ】2015年度～2017年度を担当

【Cグループ】が、2018年度を担当するかどうかは、不明であるが、2015年、2016年、2017年度の出題傾向はよく見ておくことが大切である。

年度別の大問、小問の配点構成、問題数

●2011年度～2014年度

【大問1】2点×10題＝20点

【大問2】3点×5題＝15点

【大問3】3点×5題＝15点

【大問4】3点×5題＝15点

【大問5】3点×5題＝15点

【大問6】2点×10題＝20点

2点×20題＋3点×20題＝100点

問題数：40題

●2015年度

【大問1】2点×5題＋3点×15題＝55点

【大問2】3点×10題＝30点

【大問3】3点×5題＝15点

2点×5題＋3点×30題＝100点

問題数：35題

●2016年度

【大問1】2点×14題＋3点×4題＝40点

【大問2】2点×9題＋3点×14題＝60点

2点×23題＋3点×18題＝100点

問題数：41題

●2017年度

2点×14題＋3点×24題＝100点

問題数：38題

●年度別＜正解の番号の個数＞

正解	2015年度	2016年度	2017年度
1	11	↘9	→9
2	5	↗11	↗12
3	8	→8	↗9
4	9	→9	↘5

※2017年度では、選択肢の2番が12個と一番多かった。2018年度は、迷ったら、2番を選べ!

★★★「写真・地図問題」、「世界遺産関連問題」、「寺神社関連問題」が合否のカギ

ガイドラインの「内容は、地図や写真を使った問題を中心としたものとする」に従ったものと考えられるが、2015年度、2016年度、2017年度には、「写真・地図問題」が多数出題された。

また、ジャンル別では、「世界遺産関連問題」と「寺神社関連問題」が多数出題された。

●「写真・地図問題」

2015年度には12題(59点)、2016年度には17題(64点)、2017年度には17題(100点)の「写真・地図問題」が出題された。

●「世界遺産関連問題」

2015年度には9題(41点)、2016年度には5題(10点)、2017年度には7題(38点)の「世界遺産関連問題」が出題された。

●「寺神社関連問題」

2015年度には8題(33点)、2016年度には10題(31点)、2017年度には8題(27点)の「寺神社関連問題」が出題された。

●対策

2018年度も、この傾向は引き継がれる可能性が高い。

従って、受験者は、<FlashcardsDeluxe>(暗記カードアプリ)の日本歴史にでる写真(138枚)(特に、寺神社)をしっかり勉強しておく必要がある。

●<FlashcardsDeluxe>(暗記カードアプリ)を使い倒せ！

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/5453925522e7fc930961b9911dac446a>

★★★2015年度、2016年度、2017年度に出題された「写真・地図問題」の内容と配点

下記の赤字の写真が出題されました。

●2015年度(写真問題12題(全体100点のうち59点))

【大問1】(1)問2: 興福寺(2点)(世界遺産1998)(古都奈良の文化財)

【大問1】(1)問3: 東大寺・大仏殿(2点)(世界遺産1998)(古都奈良の文化財)

【大問1】(1)問4: 唐招提寺(2点)(世界遺産1998)(古都奈良の文化財)

【大問1】(2)問4: 高舞台(厳島神社)(3点)(世界遺産1996)(厳島神社)

【大問1】(3)問1: 姫路城(6点)(世界遺産1993)(姫路城)

【大問1】(3)問4: 富岡製糸場(9点)(世界遺産2014)(富岡製糸場と絹産業遺産群)

【大問1】(4)問4: 富岡製糸場の錦絵(5点)(世界遺産2014)(富岡製糸場と絹産業遺産群)

【大問2】(1): 慈照寺(6点)(世界遺産1994)(古都京都の文化財)

【大問2】(2): 達谷窟毘沙門堂(6点)

【大問2】(3): 八坂神社(6点)(祇園祭が世界無形文化遺産2016)(山・鉾・屋台行事)

【大問2】(4): 伏見稲荷大社(6点)

【大問2】(5): 桂離宮(6点)

・寺神社の占める割合: 12問中8問で、67%。

・世界遺産が8個。

・世界無形文化遺産が1個。

●2016年度(写真問題17題、地図問題1題の合計18題(全体100点のうち64点))

【大問1】(1): 法隆寺夢殿(2点)(世界遺産1993)(法隆寺地域の仏教建造物)

【大問1】(2): 薬師寺(2点)(世界遺産1998)(古都奈良の文化財)

【大問1】(3): 東大寺正倉院(2点)(世界遺産1998)(古都奈良の文化財)

【大問1】(4): 阿修羅像(興福寺)(2点)

- 【大問1】(5): [教王護国寺\(東寺\)](#) (2点)
- 【大問1】(6): [平等院\(鳳凰堂\)](#) (2点) ([世界遺産1994](#)) ([古都京都の文化財](#))
- 【大問1】(7): [大覚寺](#) (2点) ([世界遺産1994](#)) ([古都京都の文化財](#))
- 【大問1】(8): [四天王寺](#) (2点)
- 【大問1】(9): [赤間神宮](#) (6点)
- 【大問1】(10): [札幌市時計台](#) (7点)
- 【大問1】(11)問4: [神宮寺\(若狭神宮寺\)](#) (9点)
- 【大問2】(1): (A)銅鐸、(B)埴輪、(C)土偶 (2点×9=18点)
- 【大問2】(5): [蒙古襲来絵詞](#) (6点)
- 【大問2】(8): [長崎港図\(丸山応挙\)](#) (3点)
- 【大問2】(9): [支倉常長の肖像画](#) (9点)

- ・寺神社の占める割合: 18問中9問で、50%。
- ・[世界遺産](#)が5個。

●2017年度(写真問題16題、地図問題2題の合計17題(全体100点のうち100点))

- (1): [鎌倉大仏\(高德院\)](#) (4点)
- (2): [富岡製糸場](#) (11点) (世界遺産2014) ([富岡製糸場と絹産業遺産群](#))
- (3): [伊勢神宮](#) (6点)
- (4): [仁和寺五重塔](#) (3点)
- (5): [二条城](#) (3点) ([世界遺産1994](#)) ([古都京都の文化財](#))
- (6): [唐招提寺](#) (3点) ([世界遺産1998](#)) ([古都奈良の文化財](#))
- (7): [萩](#) (6点) (世界遺産2015) (明治日本の産業革命)
- (8): [会津若松城](#) (5点)
- (9): [織田信長](#) (7点)
- (10): [五街道](#) (地図と写真問題) (12点)
- (11): [中尊寺金色堂](#) (3点)
- (12): [彦根城](#) (4点)
- (13): [天龍寺](#) (8点) ([世界遺産1994](#)) ([古都京都の文化財](#))
- (14): [厳島\(宮島\)](#) (3点) (世界遺産1996) (厳島神社)
- (15): [大宰府天満宮](#) (8点)
- (16): [石見銀山](#) (地図問題) (4点) (世界遺産2007) ([石見銀山遺跡とその文化的景観](#))
- (16): [倉敷](#) (地図問題) (4点)
- (17): [ザビエル](#) (6点)

- ・寺神社の占める割合: 17問中7問で、41%。
- ・世界遺産が7個。

★以上、まとめると下記ようになります。

年度	写真問題	地図問題	寺神社問題	世界遺産	京都の文化遺産	奈良の文化遺産	世界文化遺産	点数
2015年度	12	0	8	8	1	3	1(祇園祭)	59点/100点
2016年度	17	1	9	5	2	2	0	64点/100点
2017年度	16	2	7	7	2	1	0	100点/100点

★写真・地図問題の出題傾向と予想

- (1)2018年度も写真・地図問題が、18題程度出題されるだろう。
- (2)うち、寺神社問題が、7～9題出題されるだろう。
- (3)うち、[世界遺産](#)問題が、7～8題出題されるだろう。
- (4)[京都の文化遺産](#)「[奈良の文化遺産](#)」が、3～4題出題されるだろう。
- (5)「奈良の文化遺産」で、[東大寺\(大仏殿\(2015\)、正倉院\(2016\)\)](#)、[唐招提寺\(2015\)\(2017\)](#)が、それぞれ、各2回出題されている。出題者は、[奈良がお好きなようである。](#)

★★★出題が予想される「[古都京都の文化財](#)」([世界遺産](#)) (1994年登録)

●出題されたもの

- (1)慈照寺(銀閣寺) (2015)
- (2)清水寺(2016)
- (3)教王護国寺(東寺) (2016)
- (4)仁和寺(2016)
- (5)平等院・鳳凰堂(2016)
- (6)高山寺(2016)
- (7)西芳寺(別称・苔寺) (2016)
- (8)天龍寺(2017)
- (9)二条城(2017)

●まだ出題されていないもの

- (10)★[鹿苑寺](#)(金閣寺)
- (11)★[龍安寺](#)(石庭が有名)
- (12)★[延暦寺](#)
- (13)★[西本願寺](#)(本願寺)
- (14)★[醍醐寺](#)
- (15)[賀茂別雷神社](#)(上賀茂神社)
- (16)[賀茂御祖神社](#)(下鴨神社)
- (17)[宇治上神社](#)



[西本願寺](#)



[醍醐寺](#)



[教王護国寺\(東寺\)](#)

●平安時代から江戸時代までの文化が引き継がれている京都

古都京都は延暦 13 年(794 年)、中国の都城を規範に、日本の首都・[平安京](#)としてとして建設され、平安時代から江戸時代まで 1000 年の長きにわたり繁栄してきた。

[世界遺産](#)に登録されている資産は、いずれも芸術的価値が高く、建造物 38 棟が[国宝](#)に、建造物 160 棟が[重要文化財](#)に、庭園 8 箇所が[特別名勝](#)に、庭園 4 箇所が名勝に指定されている。

※794 年の覚え方: [鳴くよ\(794\)](#)ウグイス平安京

●平安時代から 1000 年の建造物群が創建当初に近い姿で保存されている

創建当時の建造物は、しばしば発生した大火や兵火のため、相当部分を焼失したが、再建をくり返し、現在も日本文化の象徴として守られている。

時代の荒波にほんろうされながらも、創建当初に近い姿で保存され、外国からの侵略を受けなかったことから異文化による破壊がなく、第二次世界大戦でも空襲をまぬかれ、[世界遺産](#)への登録につながった。

★ ★出題が予想される「[古都奈良の文化財](#)」([世界遺産](#)) (1998年登録)

●出題されたもの

- (1)[唐招提寺](#) (2015) (2017)
- (2)[興福寺](#) (2015)
- (3)[東大寺・大仏殿](#) (2015)
- (4)[東大寺・正倉院](#) (2016)
- (5)[薬師寺](#) (2016)

●まだ出題されていないもの

- (6)★[春日大社](#)
- (7)★[平城宮跡](#)
- (8)[元興寺](#)
- (9)[春日山原始林](#)



●奈良時代の都市の様子を知ることができる貴重な史料

古都奈良は同和3年(710年)、唐の長安を規範に日本の首都・[平城京](#)として建設された。その後74年間、政治、経済の中心地であり、同時代に花開いた天平文化の中心地となった。

[世界遺産](#)に登録されている資産は、個別に評価されたのではなく、8資産全体で奈良時代の都市の様子を知ることができる貴重な史料として評価されたもの。

※710年の覚え方: [なんと\(710\)](#)美しい[平城京](#)

●この時代の木造建造物は世界史的にも重要

[世界遺産](#)に登録されている資産のうち、建造物群 25棟が[国宝](#)、53棟が[重要文化財](#)に、[平城宮跡](#)が[特別史跡](#)に、[春日山原始林](#)が[特別天然記念物](#)に指定されている。この時代の木造建造物は、中国や朝鮮半島に残っていないことから世界史的にも重要とされている。

【世界遺産とは】

世界遺産(World Heritage)とは、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて世界遺産リストに登録された、遺跡、景観、自然など、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」をもつ物件のことで、移動が不可能な不動産やそれに準ずるものが対象となっている。

日本では、文化遺産 18 件、自然遺産 4 件の合計 22 件が登録されている。(2018 年 7 月現在)

【文化遺産】(Cultural Heritage)(計 18 件)

- (1)法隆寺地域の仏教建造物(奈良県)(1993年登録) (「夢殿」2016)
- (2)姫路城(兵庫県)(1993年登録) (2015)
- (3)古都京都の文化財(京都府、滋賀県)(1994年登録)
(「慈照寺」2015) (「平等院鳳凰堂」「大覚寺」2016) (「二条城」「天龍寺」2017)
- (4)白川郷・五箇山の合掌造り集落(岐阜県、富山県)(1995年登録)
- (5)原爆ドーム(広島県)(1996年登録)
- (6)厳島神社(広島県)(1996年登録) (「高舞台」2015) (2017)
- (7)古都奈良の文化財(奈良県)(1998年登録)
(「唐招提寺」「興福寺」「東大寺大仏殿」2015) (「薬師寺」「東大寺正倉院」2016) (「二条城唐招提寺」2017)
- (8)日光の社寺(栃木県)(1999年登録) (2015)
- (9)琉球王国のグスク及び関連遺産群(沖縄県)(2000年登録)
- (10)紀伊山地の霊場と参詣道(奈良県、和歌山県、三重県)(2004年登録)
- (11)石見銀山遺跡とその文化的景観(島根県)(2007年登録) (2017)
- (12)平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群(岩手県)(2011年)
- (13)富士山—信仰の対象と芸術の源泉(山梨県、静岡県)(2013年)
- (14)富岡製糸場と絹産業遺産群(群馬県)(2014年登録) (「錦絵」2015) (2017)
- (15)明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業(2015年登録) (「萩」2017)
- (16)ル・コルビュジエの建築作品—近代建築への顕著な貢献(国立西洋美術館=東京都)(2016年登録)
- (17)★『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群(2017年登録)
- (18)★『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』(長崎、熊本両県) (2018年7月登録)

【自然遺産】(Natural Heritage)(計 4 件)

- (1)屋久島(鹿児島県)(1993年登録)
- (2)白神山地(青森県、秋田県)(1993年登録)
- (3)知床(北海道)(2005年登録)
- (4)小笠原諸島(東京都)(2011年登録)

※覚え方⇒(小笠原君が、屋久杉の前で、白装束で、『知床旅情』を歌った。)

※「日本の世界遺産」詳しくは、下記をご覧ください。

<http://nihon-sekaiisan.com/>

★★★出題が予想される「[世界遺産](#)」

●まだ出題されていない下記は要注意である。(重要度順)



(1)★『[神宿る島](#)』宗像・沖ノ島と関連遺産



(2)★[富士山](#)—信仰の対象と芸術の源泉



(3)★[日光の社寺](#)(東照宮陽明門)



(4)★[平泉](#)(中尊寺金色堂)



(5)★[白川郷合掌造り集落](#)



(6)★[ル・コルビュジエの建築作品](#)
(国立西洋美術館)

(7)[琉球王国のグスク及び関連遺産群](#)

(8)[紀伊山地の霊場と参詣道](#)

(9)[原爆ドーム](#)

★[日本の無形文化遺産](#)

【[無形文化遺産](#)とは】

[無形文化遺産](#)(Intangible Cultural Heritage)とは、ユネスコの事業の一つ。

同じくユネスコの事業である世界遺産が建築物などの有形の文化財の保護と継承を目的としているのに対し、[民族文化財](#)、[フォークロア](#)、[口承伝統](#)などの[無形のもの\(無形文化財\)](#)を保護対象とすることを目指したものである。現在、日本には、[21](#)の[無形文化遺産](#)がある。

(1)能楽(2001年登録)

(2)人形浄瑠璃文楽(2003年登録)

(3)歌舞伎(2005年登録)

(4)雅楽(2009年登録)

(5)小千谷縮・越後上布(2009年登録)

(6)甕島のトシドン(2009年登録)

(7)奥能登のあえのこと(2009年登録)

(8)早池峰神楽(2009年登録)

(9)秋保の田植踊(2009年登録)

(10)チャッキラコ(2009年登録)

(11)大日堂舞楽(2009年登録)

(12)題目立(2009年登録)

(13)アイヌ古式舞踊(2009年登録)

(14)組踊(2010年登録)

(15)結城紬(2010年登録)

(16)佐陀神能(2011年登録)

(17)壬生の花田植(2011年登録)

(18)那智の田楽(2012年登録)

(19)和食日本人の伝統的な食文化(2013年登録)

(20)和紙(石州半紙<2009年登録>、本美濃紙<美濃和紙>、細川紙<小川和紙>)(2014年登録)

(21)[山・鉾・屋台行事](#)(18府県の計33件)(2016年登録)(「[祇園祭](#)」関連で「[八坂神社](#)」2015年出題)

- ★天龍寺(2008)(2010)(2016)(2017)
- ★富岡製糸場(2015)(2017)
- ★唐招提寺(金堂)(2011)(2015)(2016)(2017)
- ・二条城(2009)(2011)(2017)
- ・大宰府天満宮(2009)(2011)(2017)
- ・中尊寺金色堂(藤原清衡)(2009)(2017)
- ・伊勢神宮(2017)
- ・仁和寺五重塔(2017)
- ★巖島神社(2008)(2017)
- ・鎌倉大仏(2017)
- ・会津若松城(2017)
- ・彦根城(2017)
- ・岩見银山(2017)
- ★平等院鳳凰堂(阿弥陀如来像)(定朝)(藤原頼通)(2006)(2007)(2010)(2012)(2016)
- ・土偶(縄文時代)(2016)
- ・銅鐸(弥生時代)(2016)
- ・埴輪(古墳時代)(2016)
- ・四天王寺五重塔(2016)
- ★法隆寺夢殿(2016)
- ・若狭神宮寺(2016)
- ・薬師寺金堂(2016)
- ・興福寺(阿修羅像)(2011)(2016)
- ・赤間神宮(2016)
- ・教王護国寺(東寺)(2016)
- ★東大寺正倉院(2011)(2016)
- ・清水寺(2009)(2016)
- ★西芳寺(苔寺)(2016)
- ・広隆寺(2016)
- ・大覚寺(御影堂)(2016)
- ・札幌市時計台(2016)
- ★桂離宮(2012)(2013)(2015)
- ・蒙古襲来絵詞(2014)(2016)
- ・支倉常長の肖像画(2016)
- ・長崎港図(丸山応挙)(2016)
- ・姫路城(2015)
- ★東大寺大仏殿(2015)
- ・巖島神社(舞楽)(2015)
- ・興福寺(2015)
- ・達谷窟毘沙門堂(たっくくのいわや)(2015)
- ・富岡製糸場「錦絵」(2015)
- ★京都八坂神社(祇園祭)(2015)
- ★伏見稻荷大社(千本鳥居)(2015)
- ★慈照寺銀閣(足利義政)(2007)(2015)
- ・慈照寺東求堂(2008)(2015)
- ・荒神谷遺跡(こうじんだにいせき)(2014)
- ・空也上人像(2014)
- ・黒き猫(菱田春草)(2014)
- ★東京国立博物館(2014)
- ・中宮寺天寿国繡帳(2010)(2011)(2013)
- ★鑑真和上像(唐招提寺)(2013)
- ・大仙院庭園(大徳寺)(2013)
- ・麗子微笑(岸田劉生)(2013)
- ・瓢鮎図(ひょうねんず)(如拙)(妙心寺退院)(2008)(2012)
- ★春日大社(2012)
- ・収穫(浅井忠)(2012)
- ・仏涅槃図(高野山)(2011)
- ・松林図屏風(長谷川等伯)(2011)
- ・三菱一号館(2011)
- ★東大寺正倉院鳥毛立女屏風(とりげりつじょ)(2009)(2010)
- ・ニコライ堂(2010)
- ・雪松図屏風(丸山応挙)(2010)
- ★中宮寺半跏思惟像(2010)
- ★広隆寺半跏思惟像(2009)
- ・秋冬山水図(雪舟)(2009)
- ・風雲雷神図屏風(俵屋宗達)(2009)
- ・日光東照宮陽明門(日暮門)(2009)
- ・興福寺仏頭(2008)
- ・鷹見泉石像(渡辺崋山)(2008)
- ・西本願寺飛雲閣(2008)
- ・上賀茂神社(2008)
- ★法隆寺救世観音像(2007)
- ★法隆寺百済観音像(2007)
- ・池畔納涼(黒田清輝)(2007)
- ・三仏寺投入堂(2007)
- ★東海道五十三次(歌川広重)(2007)
- ★富嶽三十六景(葛飾北斎)(2007)
- ・悲母観音(狩野芳崖)(2006)
- ・見返り美人図(菱川師宣)(2006)
- ★法隆寺金堂釈迦三尊像(鞍作鳥)(2006)
- ★東大寺南大門(重源)(2006)
- ★法隆寺金堂(2009)(2011)
- ★法隆寺金堂壁画(白鳳文化)(2010)
- ・東大寺三月堂(2011)
- ・弾正台(2011)
- ★聚楽第(2011)
- ★五稜郭(2011)
- ・花沢館(2011)
- ・当麻寺当麻曼荼羅(2010)(2011)
- ★三十三間堂(2010)
- ・神護寺金堂薬師如来像(2010)
- ★平安神宮(2010)
- ★高松塚古墳壁画(2010)
- ・室生寺釈迦如来像(2010)
- ・法華寺十一面観音像(2010)
- ・赤坂離宮(2010)
- ・観心寺如意輪観音像(2010)
- ・洛中洛外図屏風(2010)
- ・下鴨神社(2009)
- ・醍醐寺三宝院(2008)
- ・鳥獣戯画(鳥羽僧正)(2008)
- 以下、ハロ―注意報発令!
- ★薬師寺東塔
- ★薬師寺薬師三尊像
- ★東大寺南大門金剛力士像
- ★東大寺不空罽索観音像
- ★円覚寺舍利殿(禅宗様)
- ★竜安寺石庭
- ★修学院離宮
- ★臼杵磨崖仏(大分県)
- ★紅白梅図屏風(尾形光琳)
- ★弾琴美人(鈴木春信)
- ★龍虎図(橋本雅邦)

●**縄文文化**

旧石器時代と縄文時代の違いは、**土器の出現**や**竪穴住居の普及**、**貝塚の形式**などがある。縄文時代の終わりについては、地域差が大きいものの、定型的な水田耕作を特徴とする弥生文化の登場を契機とするが、その年代については紀元前数世紀から紀元前10世紀頃までで、多くの議論がある。(2016)

●**弥生文化**

弥生時代の特徴は、**(1)稲作が始まったこと(2)金属器の使用が始まったこと(3)貧富や身分の差が表れ始めたこと**である。その**身分格差**は、弥生時代の墓の発掘により伺い知ることが出来る。(2016)

●**古墳文化**

古墳時代は3世紀半ば過ぎから7世紀末頃までの約400年間を指すことが多い。中でも3世紀半ば過ぎから6世紀末までは、**前方後円墳**が全国で造り続けられた時代であり、**前方後円墳**の時代と呼ばれる。7世紀に入っても、方墳・円墳、八角墳などが造り続けられるが、この時期を古墳時代終末期と呼ぶ。西暦266年から413年にかけて中国の歴史文献における倭国の記述がなく詳細を把握できないため、この間は「空白の4世紀」とも呼ばれている。(2016)

●**飛鳥文化(592～645)**

推古朝を頂点として大和を中心に華開いた**仏教文化**である。時期は、一般に**仏教渡来**から**大化の改新**までをいう。朝鮮半島の**百濟**や**高句麗**を通じて伝えられた中国大陸の**南北朝**の文化の影響を受け、国際性豊かな文化でもある。多くの大寺院が建立され始め、**仏教文化の最初の興隆期**であった。(2016)

●**白鳳文化(645～710)**

645年(大化元年)の**大化の改新**から710年(和銅3年)の平城京遷都までの飛鳥時代に華咲いたおおらかな文化である。唐との交通により、その影響を受けた仏教美術にすぐれた作品が多い。**薬師寺の東塔**や**薬師三尊像**、**法隆寺金堂壁画**などがその代表。また、国史の編纂が開始され、漢詩・和歌なども盛んとなった。**天智天皇(中大兄皇子:中臣鎌足と謀り、蘇我入鹿を殺害し大化の改新を実施)**のときに**最盛期**を迎えた。(2014)

●**天平文化(710～794)**

7世紀終わり頃から8世紀の中頃までをいい、**奈良の都平城京**を中心にして華開いた**貴族・仏教文化**である。**聖武天皇**のときに**最盛期**で、天平(729～749年)はその時期の年号に由来する。唐文化を介して遠く西域、インド、ペルシアなど世界各地の文化を受容し、**新羅(しらぎ)**や**渤海(ぼっかい)**との往来も行なわれた。(2014)(2016)

●**弘仁・貞観文化(810～877)**

主として美術史上用いられる名称。弘仁(810～824)、貞観(859～877)の平安時代前期を中心とした文化。美術史においては平安時代を2期に分け、後期を**藤原文化**とするのに対し、延暦13(794)年の平安遷都から**遣唐使**が廃止された寛平6(894)年までの約1世紀の平安時代前期の文化を呼ぶ。(2014)

●**国風文化(10世紀～12世紀)**

10世紀の初め頃から11世紀の**摂関政治期**を中心とする文化であり、12世紀の**院政期文化**にも広く影響を与えた。以前は894年の**遣唐使**停止により中国の影響を抜け出し、日本独自の文化が発展したと一般的に解釈されてきた。しかし、**遣唐使**廃止後も対外交流は盛んで中国の文物は多く日本に流入していた。そのため、遣唐使停止を国風文化の面期とすることは誤りであり、**遣唐使**停止は日本文化の国風化を加速させる要因であったとみることが適当である。(2014)

●**院政期文化**

平安時代末葉の11世紀後半から鎌倉幕府成立に至る12世紀末にかけての日本の文化。院政期は、日本社会史上、**貴族勢力の衰退と武士勢力の伸長**という過渡期に位置しており、文化の面でもこのような時代の気風を反映した新しい動きがみられた。

●[鎌倉文化](#)

鎌倉幕府の成立した12世紀末葉から幕府が滅亡した14世紀前半にかけての日本の文化。王朝国家からの自立を指向する本格的な武家政権が東国に開かれた時代であり、各方面で新しい文化的所産が生まれた。

●[北山文化](#)

室町時代初期の文化で、三代将軍[足利義満](#) (1358～1408)の[北山山荘](#)に代表され、14世紀末～15世紀前半までをさす。[東山文化](#)に対して使われる言葉である。ただし、今日の歴史学では[東山文化](#)と合わせて「室町文化」と呼ぶのが一般的である。

●[東山文化](#)

室町時代中期の文化で、八代将軍[足利義政](#) (1436～1491)が築いた京都の東山山荘を中心に、武家、公家、禅僧らの文化が融合して生まれた。[慈照寺](#)銀閣は東山文化を代表する建築である。

●[桃山文化](#)

[織田信長](#)と[豊臣秀吉](#)によって天下統一事業が進められていた[安土桃山時代](#)の日本の文化である。この時代、戦乱の世の終結と天下統一の気運、新興大名・豪商の出現、さかんな海外交渉などを背景とした、[豪壮・華麗な文化](#)が花ひらいた。

●[寛永文化](#)

寛永年間(1624～1645)を中心とする文化。寛永文化の中心は京都であり、中世以来の伝統を引き継ぐ町衆勢力と[後水尾天皇](#)を中心とする朝廷勢力が、封建制を強化する江戸幕府に対抗する形で古典文芸・文化の興隆を生み出し、後に江戸においても儒学・武家を中軸とした文化が形成された。

●[元禄文化](#)

元禄時代(1688～1707)、主に京都・大坂(大阪)などの上方を中心として発展した文化である。特色として庶民的な面が濃く現れているが、必ずしも町人の出身ばかりでなく、元禄文化の担い手として武士階級出身の者も多かった。上方から発生し、朱子学、自然科学、古典研究が発達した。[尾形光琳](#)らによる琳派、土佐派などが活躍、[野々村仁清](#)、[本阿弥光悦](#)等による陶芸が発展。

●[化政文化](#)

文化・文政期(1804～1830)を中心とする町人文化。政治・社会の出来事や日常の生活を風刺する川柳が流行した。また、文学では、[十返舎一九](#)の『[東海道中膝栗毛](#)』のように、庶民生活を面白おかしく描いた、滑稽な作り話が好まれた。版画では、多彩な色彩を表現できる技術が向上し、そのような技術で作られた版画は[錦絵](#)と呼ばれた。江戸から発生し、商人などの全国的交流や、出版・教育の普及によって各地に伝えられていった。また、これに伴い、内容も多様化していき、庶民へと浸透していった。風俗上で時代劇の舞台とされることが最も多いのがこの時代である。

●[文明開化](#)

明治時代の日本に西洋の文明が入ってきて、制度や習慣が大きく変化した現象のことを指す。さらに、「西洋のものなら何でもよい」という、考えが出ていた。

通訳案内士試験対策＜日本史の時代区分と各文化の特徴＞

西暦年	時代区分	文化	特徴	
数十万年前 ～約1万年前	旧石器時代	旧石器文化	石器時代のうちで最古の時代。利器として打製石器・骨角器を使用し、生活は狩猟・採集によった。30万年前にさかのぼるともいわれる。旧石器時代の社会は、群れまたは社会ごとに指導者が存在した。 男性・女性はおおむね平等 で、男性は狩猟、女性は漁労および育児を事としていたが、この役割はしばしば共有されており、明確な分業はされていなかったと考えられている。	
約1万年前 ～紀元前4世紀	縄文時代	縄文文化	旧石器時代と縄文時代の違いは、土器の出現や竪穴住居の普及、貝塚の形式などがある。縄文時代の終わりについては、地域差が大きいものの、定型的な水田耕作を特徴とする弥生文化の登場を契機とするが、その年代については紀元前数世紀から紀元前10世紀頃までで、多くの議論がある。	
紀元前3世紀 ～3世紀	弥生時代 「格差社会」開始	弥生文化	弥生時代の特徴は、(1)稲作が始まったこと(2)金属器の使用が始まったこと(3) 貧富や身分の差が表れ始めたこと である。その身分格差は、弥生時代の墓の発掘により伺い知ることが出来る。	
4世紀～6世紀	古墳時代 部民制(奴隸制社会)の発達	古墳文化	古墳時代は3世紀半ば過ぎから7世紀末頃までの約400年間を指すことが多い。中でも3世紀半ば過ぎから6世紀末までは、前方後円墳が全国で造り続けられた時代であり、前方後円墳の時代と呼ばれる。7世紀に入っても、方墳・円墳、八角墳などが造り続けられるが、この時期を古墳時代終末期と呼ぶ。西暦266年から413年にかけて中国の歴史文献における倭国の記述がなく詳細を把握できないため、この間は「空白の4世紀」とも呼ばれている。	
7世紀	飛鳥時代 (6世紀末～710)	飛鳥文化	推古朝を頂点として 大和を中心に華開いた仏教文化 である。時期は、一般に仏教渡来から大化の改新までをいう。朝鮮半島の百済や高句麗を通じて伝えられた中国大陸の南北朝の文化の影響を受け、国際性豊かな文化でもある。多くの大寺院が建立され始め、仏教文化の最初の興隆期であった。	
		白鳳文化	645年(大化元年)の大化の改新から710年(和銅3年)の平城京遷都までの飛鳥時代に華開いたおらかな文化である。 天智天皇のときに最盛期 を迎えた。	
8世紀	奈良時代 (710～794)	天平文化	7世紀終わり頃から8世紀の中頃までをいい、奈良の都平城京を中心にして華開いた貴族・仏教文化である。この文化を、 聖武天皇のときの元号天平を取って天平文化 と呼ぶ。あおによし奈良の都の。	
9世紀	平安時代 (794～1185) 荘園(権力者、有力寺社の私有地)が発達	弘仁・貞観文化	弘仁・貞観年間を中心とする平安時代前期(ほぼ9世紀に相当)の文化。弘仁(810～824)(嵯峨天皇、淳和天皇)貞観(859～877)(清和天皇)	
10世紀		国風文化	10世紀の初め頃から11世紀の摂関政治期を中心とする文化 であり、12世紀の院政期文化にも広く影響を与えた。以前は894年の遣唐使停止により中国の影響を抜け出し、日本独自の文化が発展したと一般的に解釈されてきた。しかし、遣唐使廃止後も対外交流は盛んで中国の文物は多く日本に流入していた。そのため、遣唐使停止を国風文化の画期とするのは誤りで、遣唐使停止は日本文化の国風化を加速させる要因であったとみることが適当である。	
11世紀				
12世紀	鎌倉時代 (1185～1333) 「御恩と奉公」による封建制成立。守護、地頭が荘園を侵食してゆく。	院政期文化	平安時代末葉の11世紀後半から鎌倉幕府成立に至る12世紀末にかけての日本の文化 。院政期は、日本社会史上、貴族勢力の衰退と武士勢力の伸長という過渡期に位置しており、文化の面でもこのような時代の気風を反映した新しい動きがみられた。	
13世紀		鎌倉文化	鎌倉幕府の成立した12世紀末葉から幕府が滅亡した14世紀前半にかけての日本の文化 。王朝国家からの自立を指向する本格的な武家政権が東国に開かれた時代であり、各方面で新しい文化的所産が生まれた。	
14世紀	建武の新政 (1333～1335)			
	室町時代 (1336～1573)	南北朝時代 (1336～1392)	北山文化	室町時代初期の文化で、三代将軍足利義満(1358～1408)の北山山荘 に代表され、14世紀末～15世紀前半までをさす。東山文化に対して使われる言葉である。ただし、今日の歴史学では東山文化と合わせて「室町文化」と呼ぶのが一般的である。
16世紀	安土桃山時代 (1573～1603)	戦国時代 (1493～1573)	東山文化	室町時代中期の文化で、八代将軍足利義政(1436～1491)が築いた京都の東山山荘 を中心に、武家、公家、禅僧らの文化が融合して生まれた。慈照寺銀閣は東山文化を代表する建築である。
		桃山文化	織田信長と豊臣秀吉によって 天下統一事業が進められていた安土桃山時代の日本の文化 である。この時代、戦乱の世の終結と天下統一の気運、新興大名・豪商の出現、さかんな海外交渉などを背景とした、豪壮・華麗な文化が花ひらいた。	
17世紀		寛永文化	寛永年間(1624～1645)を中心とする文化 。寛永文化の中心は京都であり、中世以来の伝統を引き継ぐ町衆勢力と後水尾天皇を中心とする朝廷勢力が、封建制を強化する江戸幕府に対抗する形で古典文芸・文化の興隆を生み出し、後に江戸においても儒学・武家を中軸とした文化が形成された。	
18世紀	江戸時代 (1603～1868) 貨幣経済の発展が、農業経済中心に構築された幕藩体制を揺るがし、明治維新の内的要因となる	元禄文化	元禄時代(1688～1707)、主に京都・大坂(大阪)などの上方を中心として発展した文化 である。特色として庶民的な面が濃く現れているが、必ずしも町人の出身ばかりでなく、元禄文化の担い手として武士階級出身の者も多かった。上方から発生し、朱子学、自然科学、古典研究が発達した。尾形光琳による琳派、土佐派などが活躍、野々村仁清、本阿弥光悦等による陶芸が発展。	
19世紀		化政文化	文化・文政期(1804～1830)を中心とする町人文化 。政治・社会の出来事や日常生活を風刺する川柳が流行した。また、文学では、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のように、庶民生活を面白おかしく描いた、滑稽な作り話が好まれた。版画では、多彩な色彩を表現できる技術が向上し、そのような技術で作られた版画は錦絵と呼ばれた。江戸から発生し、商人などの全国的交流や、出版・教育の普及によって各地に伝えられていった。また、これに伴い、内容も多様化していき、庶民へと浸透していった。風俗上で時代劇の舞台とされることが最も多いのがこの時代である。	
	明治時代 (1868～1912)	文明開化	明治時代の日本に西洋の文明が入ってきて、制度や習慣が大きく変化した現象 のことを指す。さらに、「西洋のものなら何でもよい」という、考えが出ていた。	
20世紀	大正時代(1912～1926)			
	昭和時代(1926～1989)			
21世紀	平成時代(1989～)			

●寺、神社

- ・**伊勢神宮(約 2000 年前)**:三重県伊勢市にある神社。なお「伊勢神宮」とは通称であり、正式名称は地名の付かない「神宮(じんぐう)」。他の神宮と区別するため「伊勢の神宮」と呼ぶこともあり、親しみを込めて「お伊勢さん」「大神宮さん」とも称される。神社本庁の本宗(ほんそう)である。(2017)
- ★**出雲大社**:出雲大社は杵築(きづき)大社ともいい、縁結びの神様としても有名な**大国主大神**(おおくにぬしのおおかみ)を祀っている。『記紀』には、国譲りの代償として、高天原(たかまがはら)側が大国主命に対し、壮大な宮殿を造り与えたが、これが**出雲大社**の始まりと記されている。
- ・**熱田神宮((伝)景行天皇 43 年)**:愛知県名古屋市中熱田区にある神社。式内社(名神大社)、尾張国三宮。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁の別表神社。宮中の四方拝で遙拝される一社。(2017)
- ★**広隆寺(603)**:京都市右京区太秦にある寺。宗派は真言宗系単立。京都最古の寺院である。国宝の**弥勒菩薩半跏像**を蔵することで知られ、聖徳太子信仰の寺でもある。毎年 10 月 12 日に行われる牛祭は、京都三大奇祭として知られるが、近年は不定期開催となっている。(2009)(2017)
- ★**法隆寺(607)**:古代寺院の姿を現在に伝える仏教施設であり、聖徳太子ゆかりの寺院である。**金堂、五重塔**を中心とする西院伽藍と、**夢殿**を中心とした東院伽藍に分けられる。西院伽藍は現存する「**世界最古の木造建築物群**」。(2015)(2016)
- ★**薬師寺(680)**:奈良県奈良市西ノ京町に所在する寺院であり、興福寺とともに法相宗の大本山である。奈良の文化財の一部として、世界遺産に登録されている。(2011)(2013)(2014)(2016)
- ★**興福寺(こうふくじ)(710)**:奈良市にある、南都六宗の一つ、法相宗の大本山の寺院である。南都七大寺の一つに数えられる。「**古都奈良の文化財**」の一部として世界遺産に登録されている。阿修羅像が有名。(2013)(2014)(2015)
- ★**東大寺(8 世紀)**:聖武天皇が建立した寺。「奈良の大仏」として知られる盧舎那仏(るしゃなぶつ)を本尊とし、開山(初代別当)は良弁である。大仏殿は現存する「**世界最大の木造建築物**」。宝物殿として正倉院が有名。(2015)(2016)
- ・**櫛田神社(757)**:櫛田神社は、古くより博多の氏神・総鎮守として信仰を集めている神社である。7 月の博多祇園山笠や 10 月の博多おくんちなどの祭事をおこなう。5 月の博多松囃子(博多どんたく)は厳密には櫛田神社の祭事ではないものの、松囃子一行は櫛田神社から出発するしきたりになっている。旧社格は県社。地元の人々からは「お櫛田さん」と愛称で呼ばれている。(2017)
- ★**唐招提寺(759)**:**鑑真**が建立した寺院。**南都六宗**の 1 つである律宗の総本山。本尊は盧舎那仏、開基(創立者)は**鑑真**である。(2015)(2016)(2017)
- ★**春日大社(768)**:中臣氏(のちの藤原氏)の氏神を祀るために創設された奈良県奈良市にある神社。旧称は春日神社。式内社(名神大社)、二十二社(上七社)の一社。神紋は「下がり藤」。全国に約 1000 社ある春日神社の総本社である。武甕槌命が白鹿に乗ってきたとされることから、鹿を神使とする。ユネスコの世界遺産に「**古都奈良の文化財**」の 1 つとして登録されている。春日大社がある奈良公園には神の使い「神鹿(しんろく)」としてその数およそ 1200 頭もの鹿が生息している。(2017)
- ・**高山寺(774)**:京都市右京区にある寺院。創建は奈良時代と伝えるが、実質的な開基は、鎌倉時代の明恵である。(2012)(2014)(2016)
- ★**東寺(796)**:京都市南区九条町にある東寺真言宗の仏教寺院。東寺は真言宗の根本道場であり、東寺真言宗の見解では、真言宗全体の総本山としている。「**教王護国寺**」(きょうおうごこくじ)とも呼ばれる。山号は八幡山。本尊は薬師如来。東寺は平安京鎮護のための官寺として建立が始められた後、嵯峨天皇より空海(弘法大師)に下賜され、真言密教の根本道場として栄えた。中世以降の東寺は弘法大師に対する信仰の高まりとともに「お大師様の寺」として庶民の信仰を集めるようになり、21 世紀の今日も京都の代表的な名所として存続している。昭和 9 年(1934 年)に国の史跡に指定、平成 6 年(1994 年)12 月には「**古都京都の文化財**」として**世界遺産**に登録された。(2017)
- ★**中尊寺(850)**:岩手県西磐井郡平泉町にある天台宗東北大本山の寺院。奥州三十三観音番外札所。山号は関山(かんざん)、本尊は釈迦如来。寺伝では円仁の開山とされる。実質的な開基は藤原清衡。奥州藤原氏三代ゆかりの寺として著名であり、平安時代の美術、工芸、建築の粋を集めた**金色堂**を始め、多くの文化財を有する。(2017)
- ・**毛越寺(もうつうじ)(850)**:岩手県西磐井郡平泉町にある天台宗の寺院。開山は円仁(慈覚大師)と伝える。本尊は薬師如来、脇侍は日光菩薩・月光菩薩。(2007)(2009)(2014)
- ・**仁和寺五重塔(888)**:京都府京都市右京区御室にある真言宗御室派総本山の仏教寺院。山号は大内山。本

尊は阿弥陀如来、開基(創立者)は宇多天皇。「古都京都の文化財」として、世界遺産に登録されている。(2017)

- **大宰府天満宮(917)**: 福岡県太宰府市宰府(さいふ)にある神社。旧社格は官幣中社で、現在は神社本庁の別表神社。神紋は梅紋である。菅原道真(菅原道真公、菅公)を祭神として祀る天満宮の一つ(天神様のお膝元)。初詣の際には九州はもとより日本全国から毎年 200 万人以上、年間によると 850 万人以上の参詣者がある。現在、京都の北野天満宮とともに全国天満宮の総本社とされ、また菅公の霊廟として篤く信仰されている。(2017)
- **北野天満宮(947)**: 京都市上京区にある神社。旧称は北野神社。二十二社(下八社)の一社。旧社格は官幣中社で、現在は神社本庁の別表神社。神紋は「星梅鉢紋」。通称として天神さん・北野さんとも呼ばれる。福岡県太宰府市の太宰府天満宮とともに天神信仰の中心で、当社から全国各地に勧請が行われている。近年は学問の神として多くの受験生らの信仰を集めている。(2017)
- **六波羅蜜寺(951)**: 踊り念仏で知られる空也が平安時代中期に造立した十一面観音を本尊とする道場に由来し、当初西光寺と称した。(2014)
- ★ **平等院(1052)**: 京都府宇治市にある藤原氏ゆかりの寺院。平安時代後期・11 世紀の建築、仏像、絵画、庭園等を今日に伝え、「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されている。山号を朝日山と称する。宗派は 17 世紀以来天台宗と浄土宗を兼ね、現在は特定の宗派に属さない単立の仏教寺院となっている。本尊は阿弥陀如来、開基は藤原頼通、開山は明尊である。(2016)(2017)
- **鶴岡八幡宮(1063)**: 別称として鎌倉八幡宮とも呼ばれる。武家源氏、鎌倉武士の守護神。鎌倉初代将軍源頼朝ゆかりの神社として全国の八幡社の中では関東界隈で知名度が高く、近年では三大八幡宮の一社に入ることがある。(2017)
- ★ **知恩院(1175)**: 京都府京都市東山区にある浄土宗総本山の寺院。本尊は法然上人像(本堂)および阿弥陀如来(阿弥陀堂)、開基(創立者)は法然である。浄土宗の宗祖・法然が後半生を過ごし、没したゆかりの地に建てられた寺院で、現在のような大規模な伽藍が建立されたのは、江戸時代以降である。徳川將軍家から庶民まで広く信仰を集め、今も京都の人々からは親しみを込めて「ちよいんさん」「ちおいんさん」と呼ばれている。(2017)
- ★ **建仁寺(1202)**: 京都府京都市東山区にある臨済宗建仁寺派大本山の寺院。本尊は釈迦如来、開基(創立者)は源頼家、開山は栄西である。(2006)(2007)(2017)
- **高德院(1243)**: 神奈川県鎌倉市長谷にある浄土宗の寺院。本尊は「鎌倉大仏」「長谷の大仏」として知られる阿弥陀如来像(国宝)。(2017)
- ★ **永平寺(1246)**: 福井県吉田郡永平寺町にある曹洞宗の本山寺院。開山は道元、本尊は釈迦如来・弥勒仏・阿弥陀如来の三世仏である。(2006)(2007)(2015)
- ★ **建長寺(けんちょうじ)(1253)**: 鎌倉市にある禅宗の寺院で、臨済宗建長寺派の大本山である。(2007)(2014)
- **久遠寺(1281)**: 山梨県南巨摩郡身延町にある、日蓮宗の総本山(祖山)。(2007)
- ★ **円覚寺(1282)**: 神奈川県鎌倉市山ノ内にある臨済宗円覚寺派の大本山であり、鎌倉五山第二位に列せられる。本尊は宝冠釈迦如来、開基は北条時宗、開山は無学祖元である。(2007)
- ★ **南禅寺(1291)**: 京都市左京区南禅寺福地町にある、臨済宗南禅寺派大本山の寺院である。(2008)(2017)
- **清浄光寺(1325)**: 神奈川県藤沢市にある時宗総本山の寺院。(2008)
- ★ **大徳寺(京都府)(1325)**: 臨済宗大徳寺派大本山である。本尊は釈迦如来。開基(創立者)は大燈国師宗峰妙超。(2006)(2015)(2017)
- ★ **天龍寺(1345)**: 京都府京都市右京区にある、臨済宗天龍寺派大本山の寺院。本尊は釈迦如来、開基(創立者)は足利尊氏、開山(初代住職)は夢窓疎石である。(2008)(2015)(2016)(2017)
- **相国寺(1392)**: 京都市上京区にある臨済宗相国寺派大本山の寺である。本尊は釈迦如来、開基(創立者)は足利義満、開山(初代住職)は夢窓疎石である。(2008)(2017)
- **総持寺(1322)**: 神奈川県横浜市鶴見区鶴見二丁目にある曹洞宗大本山の寺院である。本尊は釈迦如来。(2006)
- **本能寺(1415)**: 京都府京都市中京区下本能寺前町にある、法華宗本門流の大本山。本能寺の変の舞台として知られる。現在の寺院には、恵昇院、蓮承院、定性院、高俊院、本行院、源妙院、龍雲院の 7 院の塔頭がある。(2017)
- **石山本願寺(1533)**: 戦国時代初期から安土桃山時代にかけて、摂津国東成郡生玉荘大坂[注釈 1]にあった浄土真宗の寺院である[1]。戦国の当時は「大坂本願寺」「大坂城」と呼ばれており、後世「石山本願寺」というようになった。(2017)
- ★ **日光東照宮(1616)**: 栃木県日光市に所在する神社。江戸幕府初代将軍・徳川家康を神格化した東照大権現(とうしょうだいごんげん)を祀る。日本全国の東照宮の総本社の存在である。正式名称は地名等を冠称し

ない「東照宮」であるが、他の東照宮との区別のために、「日光東照宮」と呼ばれることが比較的多い。(2017)

・寛永寺(1625): 東京都台東区上野桜木一丁目にある天台宗関東総本山の寺院。開基(創立者)は徳川家光、開山(初代住職)は天海、本尊は薬師如来である。(2008)

●建築様式

★東大寺南大門: 天竺様(てんじくよう) → 大仏様(だいぶつよう)

★円覚寺舍利殿: 唐様(からよう) → 禅宗様(ぜんしゅうよう)

●京都五山

・南禅寺(別格)(2017)

・天龍寺(第一位)

・相国寺(第二位)

・建仁寺(第三位)

・東福寺(第四位)

・万寿寺(第五位)

※京都五山の覚え方

ナン(南禅寺) テ(天龍寺) ソウ(相国寺) ケン(建仁寺) トウフ(東福寺) マンジュ(万寿寺)

『京都五山、ナンテソーケントーフとマンジュウ』と発音して覚えます。ソウケン、は、壮健の意味。

カタカナの箇所が寺の名前の要素になります。

●鎌倉五山(重要)(2017年の京都五山の次は鎌倉五山か?)

・京都・南禅寺(別格)

・建長寺(第一位)

建長寺(けんちょうじ)は、神奈川県鎌倉市山ノ内にある禅宗の寺院で、臨済宗建長寺派の大本山である。鎌倉時代の建長5年(1253年)の創建で、本尊は地蔵菩薩、開基(創立者)は第5代執権北条時頼、開山(初代住職)は南宋の禅僧蘭溪道隆(大覚禅師)で、二世は同じく南宋の兀庵普寧である。

・円覚寺(第二位)

円覚寺(えんがくじ)は神奈川県鎌倉市山ノ内にある寺院。臨済宗円覚寺派の大本山であり、本尊は宝冠釈迦如来、開基は北条時宗、開山は無学祖元(仏光国師)である。鎌倉時代の弘安5年(1282年)に第8代執権北条時宗が元寇の戦没者追悼のため中国僧の無学祖元を招いて創建した。北条得宗の祈禱寺となるなど、鎌倉時代を通じて北条氏に保護された。

・寿福寺(第三位)

寿福寺(じゅふくじ)は、神奈川県鎌倉市扇ヶ谷にある臨済宗建長寺派の寺院である。本尊は宝冠釈迦如来、開基(創立者)は北条政子、開山(初代住職)は栄西である。鎌倉三十三観音霊場第24番。鎌倉二十四地蔵第18番。境内は「寿福寺境内」として1966年3月22日、国の史跡に指定された。

・浄智寺(第四位)

浄智寺(じょうちじ)は、神奈川県鎌倉市山ノ内にある禅宗の寺院。臨済宗円覚寺派に属する。中世から江戸時代にかけて「金宝山」と「金峰山」が混用されてきた。本尊は阿弥陀如来・釈迦如来・弥勒如来の三世仏で、それぞれ過去・現在・未来を象徴する。開基(創立者)は第10代執権北条師時、開山(初代住職)は南洲宏海、大休正念、兀庵普寧の3名が名を連ねる。境内は「浄智寺境内」として国の史跡に指定されている。

・浄妙寺(第五位)

浄妙寺(じょうみょうじ)は、神奈川県鎌倉市にある臨済宗建長寺派の禅宗寺院。本尊は釈迦如来。開基(創立者)は足利義兼、開山(初代住持)は退耕行勇。鎌倉三十三観音霊場第9番。境内墓地には足利貞氏の墓とされる宝篋印塔がある。また、裏山には、鎌倉の地名にまつわる伝説が残る「鎌足稻荷」がまつられている。

※鎌倉五山の覚え方

ケン(建長寺) エン(円覚寺) ジュ(寿福寺) チ(浄智寺) ミョウ(浄妙寺)

『鎌倉五山、ケンエンジュチミョー』と発音して覚えます。

浄智寺と浄妙寺は「浄」がダブっているので、「智」と「妙」を要素として使います。

●鎌倉新仏教(鎌倉六宗)

鎌倉時代は、武士の出現以降、源平争乱や相次ぐ天変地異など、社会不安が広がった時代でもありました。以前から続く天台宗・真言宗はこうした状況にあまり対応できず、仏教界は腐敗墮落し、大寺院は僧兵を増やし、俗権を求めて争い続けていました。こうした旧仏教は鎮護国家や貴族のための仏教であり、人々は庶民のための仏教の誕生を待ち望んでいました。

こうした中、鎌倉六宗という新しい仏教が登場しました。

鎌倉六宗	開祖	著書	中心寺院
浄土宗	法然	選択本願念仏集	知恩院(京都)
浄土真宗	親鸞	歎異抄, 教行信証	本願寺(京都)
時宗	一遍	一遍上人語録	清浄光寺(神奈川)
日蓮宗	日蓮	立正安国論	久遠寺(山梨)
臨済宗	栄西	興禅護国論	建仁寺(京都)
曹洞宗	道元	正法眼蔵	永平寺(福井)

鎌倉六宗の中でも、臨済宗と曹洞宗は禅宗として厳しい修行を必要としましたが、その他の4宗は困難な修行が必要ない易行を説き、経典の中から一つ選び(選択)、それをひたすらする(専修)という特色がありました。仏の救いを平易に説く新仏教は、武士や庶民など多くの人々に支持されていきました。

鎌倉時代の旧仏教(天台宗・真言宗)は世俗的な宗派となっており、僧界のトップは皇族・摂関家出身者で、その下に貴族出身の僧侶が奉仕していました。また、彼らは不便な山奥を嫌い、里に院家を設けました。院家には貴族と変わらない生活が営まれ、周りには荘園が付随し、僧侶たちは国家安寧と高貴な人々の無病息災を祈ることが仕事でした。

●遺跡

- ★吉野ヶ里遺跡(よしのがりいせき):佐賀県東部、吉野ヶ里丘陵周辺に所在する弥生時代主体の環濠集落の大遺跡群。(2014)(2016)
- ★登呂遺跡(とろいせき):静岡市登呂にある弥生時代後期の遺跡。(2014)
- ★稲荷山(いなりやま)古墳:埼玉県行田市にある前方後円墳。金錯銘を有する鉄剣(稲荷山古墳出土鉄剣)が出土したことで知られる。(2007)
- ★江田船山(えたふなやま)古墳:熊本県玉名郡和水町に所在する前方後円墳。日本最古の本格的記録文書である75文字の銀象嵌(ぎんぞうがん)銘をもつ大刀が出土したことで著名。(2007)
- ★高松塚古墳:奈良県高市郡明日香村に存在する古墳。藤原京期(694年～710年)に築造された終末期古墳である。1972年に極彩色の壁画が発見されたことで一躍注目されるようになった。(2010)
- ・荒神谷遺跡(こうじんだにいせき):島根県北東部、出雲市に所在する弥生時代の青銅器埋納遺跡。(2014)
- ・原の辻遺跡(はらのつじいせき):長崎県壱岐市東部の芦辺から石田にまたがる弥生時代中～後期の遺跡。(2014)
- ・大塚遺跡(おおつかいせき):横浜市港北区中川町、牛久保町にまたがり、早淵川中流左岸の標高約50mの台地上に位置した弥生時代中期の集落跡。(2014)

●城、史跡

- ★志賀島(しかのしま)(福岡県):江戸時代に、漢の皇帝が委奴国王に与えたとされる「漢委奴国王」の五つ文字が刻まれた金印が見つかった。(2010)
- ★大宰府:奈良、平安時代に対外防備および九州を総管するために筑前国筑紫郡(現在の福岡県太宰府市)におかれた役所。(2009)(2011)(2014)
- ・水城(みずき):664年大宰府防衛のために築造された土塁。(2014)
- ・胆沢城(いさわじょう):岩手県奥州市にあった古代の城。延暦21年(802)蝦夷(えぞ)征討に際し、坂上田村麻呂が築城。(2006)(2013)(2014)
- ★多賀城:大和朝廷が蝦夷を制圧するため、軍事的拠点として蝦夷との境界となっていた松島丘陵の南東部分である塩釜丘陵上に設置した。(2006)(2013)(2014)
- ★首里城(しゅりじょう):沖縄県那覇市にある旧琉球王城。昭和20年(1945)の沖縄戦で灰燼に帰したが、その後、守礼門・正殿などが復元された。(2006)(2014)
- ★二条城:京都市にある江戸時代の日本の城。城内全体が国の史跡に指定されている。さらに1994年には

ユネスコの世界文化遺産に「古都京都の文化財」として登録されている。(2012)(2017)

- ・**勝連城(かつれんぐすく)(かつれんじょう)**: 沖縄県うるま市勝連南風原(かつれんはえばる)にある城跡。(2006)(2014)
- ・**今帰仁城(なきじんじょう)(なきじんぐすく)**: 別名: 北山城(ほくざんじょう、ほくざんぐすく)は、沖縄県国頭郡今帰仁村に位置する城跡である。(2006)(2014)
- ・**志波城**: 岩手県盛岡市の西の郊外、現在の中太田・下太田にまたがる地域にあった古代城柵(日本の城)。(2006)(2013)
- ・**秋田城**: 日本の古代(奈良時代から平安時代)にかけて、出羽国秋田に置かれた城柵である。(2006)(2013)(2014)
- ・**彦根城**: 滋賀県彦根市金亀(こんき)町にある城。彦根藩井伊氏の居城。(2014)

●乱・事件・戦争など

- ・**壬申の乱(672)**: 大友皇子の近江朝廷側と吉野の大海人皇子とが皇位をめぐる争った内乱。大海人皇子が勝利し、後に天武天皇として即位した。
- ・**承和の変(842)**: 伴健岑(とものこわみね)・橘逸勢(たちばなのはやなり)らが謀反を企てたとして、二人が流罪となり、仁明天皇の皇太子恒貞親王が廃された事件。(2014)
- ★**応天門の変(866)**: 大内裏八省院の正門応天門が炎上した事件をめぐる宮廷の政変。(2008)(2014)(2016)
- ・**安和の変(969)**: 冷泉天皇の宮廷に起きた政変。この結果、源高明が失脚して、藤原氏の独占的地位が確立した。(2014)
- ★**壇ノ浦の戦い(1185)**: 源平最後の戦い(2011)
- ★**承久の乱(1221)**: 後鳥羽上皇による鎌倉幕府打倒の兵乱。幕府軍に上皇方は破れ、後鳥羽上皇ら 3 上皇が流罪となった。(2008)
- ★**文永・弘安の役[元寇](1274、1281)**: 2 度にわたる中国の元の日本来襲。暴風の助けもあり元軍は 2 度とも敗退。(2016)
- ★**元弘の変(1331)**: 後醍醐天皇が企てた鎌倉幕府討伐の計画。未然に露見し、天皇は笠置(かさぎ)寺や有王山中に逃れたが、翌年捕らえられ、隠岐(おき)に流された。(2014)
- ★**応仁の乱(1467~77)**: 細川勝元と山名持豊の対立に將軍継嗣問題と畠山・斯波家の家督争いがからんで起きた 11 年間の大乱。(2008)
- ・**三浦の乱(1510)**: 朝鮮の三浦に起った日本人居留民の暴動事件。これより前、朝鮮王朝(李朝)は海防を強化して倭寇にそなえ、懐柔や武力討伐などの倭寇壊滅策をとる一方、日本に使臣を送り倭寇禁圧を要請した。(2014)
- ・**寧波の乱(1523)**: 細川氏と大内氏の遣明船の入明に際し、ニンポー(寧波)で引起された武闘事件。(2014)
- ★**島原の乱(1637~38)**: キリシタン農民の一揆。天草四郎時貞を大将に 3 万 8 千人の農民が原城址に立てこもった。(2009)(2017)
- ・**由井正雪の乱(1651)**: 江戸幕府第 3 代將軍徳川家光の死の直後に、幕府政策への批判と浪人の救済を掲げ幕府転覆を計画した。決起の寸前になり計画の存在を密告され正雪は自刃した。(2009)
- ・**大塩平八郎の乱(1837)**: 大坂町奉行所の元与力大塩平八郎とその門人らが起こした江戸幕府に対する反乱。(2009)(2011)
- ・**生田万の乱(1837)**: 国学者の生田万が越後国柏崎で貧民救済のため蜂起した事件。天保の大飢饉や大塩平八郎の乱の余波。(2009)
- ★**蛮社の獄(1839)**: 江戸幕府による洋学者弾圧事件。渡辺崋山、高野長英らがモリソン号事件を批判したとして逮捕され、処罰された。
- ★**桜田門外の変(1860)**: 江戸城桜田門外で水戸藩からの脱藩者 17 名と薩摩藩士 1 名が彦根藩の行列を襲撃、大老井伊直弼を暗殺した事件。(2009)(2017)
- ★**坂下門外の変(1862)**: 江戸城坂下門外にて、尊攘派の水戸浪士 6 人が老中安藤信正を襲撃し、負傷させた事件。(2009)(2017)
- ★**寺田屋事件(1862)**: 薩摩藩尊皇派が薩摩藩主の父で事実上の指導者・島津久光によって鎮撫された事件。(2009)
- ・**生野の変(1863)**: 但馬国生野(兵庫県生野町)において尊皇攘夷派が挙兵した事件(2009)
- ・**八月十八日の変(1863)**: 会津藩・薩摩藩を中心とした公武合体派が、長州藩を主とする尊皇攘夷派を京都から追放したクーデター事件。(2009)
- ★**池田屋事件(1864)**: 京都三条木屋町の旅館・池田屋に潜伏していた長州藩・土佐藩などの尊王攘夷派志士を、新選組が襲撃した事件。(2009)

- ★[禁門の変\(=蛤御門の変\)](#)(1864): 京都で起きた武力衝突事件。(2009)(2011)(2017)
- ★[鳥羽伏見の戦い](#)(1868): 戊辰戦争の緒戦となった戦である。(2011)(2017)
- ★[戊辰戦争](#)(1868年～1869年): 王政復古を経て明治政府を樹立した薩摩藩・長州藩・土佐藩らの中核とした新政府軍と、旧幕府勢力および奥羽越列藩同盟が戦った日本の内戦。名称は慶応4年/明治元年の干支が戊辰であることに由来する。(2017)
- ★[箱館戦争\(五稜郭の戦い\)](#)(1868～1869): 戊辰戦争の局面のひとつで、新政府軍と榎本武揚率いる旧幕府軍との最後の戦闘。**土方歳三が戦死した**。(2011)(2017)
- ★[彰義隊の戦い\(上野戦争\)](#)(1868年7月4日): 戊辰戦争の戦闘の1つ。江戸上野(東京都台東区)において彰義隊ら旧幕府軍と薩摩藩、長州藩を中心とする新政府軍の間で行われた戦いである。(2017)
- ★[会津戦争](#)(1868年): 戊辰戦争の局面の一つであり、会津藩の処遇をめぐる、薩摩藩・土佐藩を中心とする明治新政府軍と、会津藩およびこれを支援する奥羽越列藩同盟などの徳川旧幕府軍との間で行われた戦いである。現在の福島県会津地方が主戦場となった。(2017)
- [甲州勝沼の戦い](#)(1868年3月29日): 戊辰戦争における戦闘の一つである。柏尾の戦い、勝沼・柏尾の戦い、甲州戦争、甲州柏尾戦争とも呼ばれる。板垣退助の軍勢と近藤勇の軍勢が戦った歴史に残る合戦。(2017)
- [血税一揆](#)(1873): 徴兵令に反対するために、農民を中心として行われた一揆。徴兵令反対一揆ともよばれる。(2007)
- [佐賀の乱](#)(1874): 江藤新平らをリーダーとして佐賀で起こった明治政府に対する士族反乱の一つ。(2011)
- [萩の乱](#)(1876): 山口県萩で起こった明治政府に対する士族の反乱。(2008)(2009)(2011)
- [秋月の乱](#)(1876): 福岡県秋月で起こった明治政府に対する士族の反乱。(2008)
- [神風連の乱](#)(1876): 熊本市で起こった明治政府に対する士族の反乱。(2008)
- ★[西南戦争](#)(1877): 明治新政府に対する不平士族最大の反乱。鹿児島島の私学校生徒を中心とした士族が西郷隆盛を擁して挙兵し、政府軍に鎮圧された。(2008)
- [福島事件](#)(1882): 自由民権運動のなかで、福島県の自由党员・農民が県令三島通庸の圧政に反抗した事件。(2009)
- [秩父事件](#)(1884): 埼玉県秩父郡の農民が政府に対して起こした武装蜂起事件。(2007)
- [飯田事件](#)(1884): 明治政府転覆を狙う挙兵が計画された事件。(2009)
- [大津事件](#)(1891): 日本を訪問中のロシア帝国皇太子・ニコライが、滋賀県大津市で警備にあっていた警察官・津田三蔵に突然斬りつけられ負傷した暗殺未遂事件。(2009)
- [日比谷焼打事件](#)(1905): 東京市日比谷公園で行われた日露戦争の講和条約ポーツマス条約に反対する国民集会をきっかけに発生した日本の暴動事件。(2007)
- [米騒動](#)(1918): 日本で発生した、米の価格急騰に伴う暴動事件。(2007)
- [横浜事件](#)(1942～1945): 雑誌に掲載された論文がきっかけとなり、編集者、新聞記者ら約60人が逮捕され、約30人が有罪となり、4人が獄死した事件。(2008)
- [松川事件](#)(1949): 福島県の日本国有鉄道(国鉄)東北本線で起きた列車往来妨害事件。(2008)
- [下山事件](#)(1949): 国鉄総裁下山定則が出勤途中に失踪し、死体となって発見された事件。(2008)
- [三鷹事件](#)(1949): 日本・東京都北多摩郡三鷹町(現・三鷹市)と武蔵野市にまたがる日本国有鉄道中央本線三鷹駅構内で起きた無人列車暴走事件。(2008)
- [砂川事件](#)(1957): 基地拡張に反対する砂川闘争をめぐる一連の事件。(2008)

●[遣隋使](#)

推古朝の倭国(倭國)が技術や制度を学ぶために隋に派遣した朝貢使のことをいう。**600年(推古8年)～618年(推古26年)**の18年間に5回以上派遣されている。なお、日本という名称が使用されたのは遣唐使からである。

●[遣唐使](#)

日本が唐に派遣した使節である。日本側の史料では唐の皇帝と対等に交易・外交をしていたとされるが、『旧唐書』や『新唐書』の記述においては、「倭国が唐に派遣した朝貢使」とされる。中国では619年に隋が滅び、唐が建ったので、それまで派遣していた遣隋使に替えてこの名称となった。**寛平6年(894年)に菅原道真の建議により停止された**。現在では中国側において派遣された遣唐使の墓が発見されたりしている。

●[法律・条約など](#)

- [貞永式目\[御成敗式目\]](#)(1232): 北条泰時が定めた鎌倉幕府の基本法律で、日本最初の武家法。源頼朝以来の先例や武家社会の慣習を基準とした。

- ・**武家諸法度(1615～)**:江戸時代の武家統制のための基本法。1615年の徳川秀忠の元和令を初めとし、家光の寛永令で整備された。
- ・**琉米修好条約(1954)**:琉球王国とアメリカ合衆国が締結した条約。(2010)
- ★**日米和親条約(1854)**:老中阿部正弘とアメリカのペリーとの間で締結された条約。神奈川条約とも呼ばれる。(2009)(2010)
- ★**日米修好通商条約(1858)**:江戸幕府が米国総領事ハリスとの間に調印した条約。下田・箱館の他、領事裁判権を認め、関税自主権がないなど極めて不平等な内容であった。
- ★**大日本帝国憲法発布(1889)**:通称、明治憲法。ドイツ憲法に範をとり、伊藤博文らの起草で欽定憲法として発布。
- ・**日米通商航海条約(1894)**:日本とアメリカ合衆国とのあいだの通商航海の自由と内国民待遇を原則とする条約(2010)
- ・**下関条約(1895)**:日清戦争の講和条約。日本全権伊藤博文・陸奥宗光と清国全権李鴻章が下関で調印。(2008)(2011)
- ★**日英同盟(1902)**:桂内閣の時に締結された、ロシアの南下策に対するイギリスとの同盟。(2011)
- ・**ポーツマス条約(1905)**:アメリカのポーツマスで調印した日露戦争の講和条約。(2008)(2009)
- ・**治安維持法(1925)**:加藤高明内閣の時に社会主義運動弾圧のために制定された法律。国体の変革、私有財産の否認を目的とする結社が禁止された。
- ・**普通選挙法(1925)**:治安維持法と引き換えに成立した法律。女性の参政権を認めないなど不完全な普通選挙法であった。
- ・**サンフランシスコ平和条約(1951)**:日本と連合国 48 カ国との間に結ばれた第 2 次世界大戦終結のための講和条約。日本全権は吉田茂。翌年、日本は主権を回復した。
- ・**日米安全保障条約(1951)**:対日講和条約と同時に日米間で結ばれた条約。講和による占領軍撤退後の日本の安全を保障するため、米軍の日本駐留を定めた。(2010)

●政治史関連人物

- ・**倭の五王(5世紀)**:中国の歴史書に記述のある倭国の五人の王、すなわち讃、珍、済、興、武をいう。倭の五王が誰であるかについては諸説ある。(2006)
- ★**厩戸皇子**:聖徳太子のこと。593 年推古天皇の摂政となり、**冠位十二階**や**憲法十七条**の制定、小野妹子を遣隋使として派遣するなどを行った。経典注釈書「**三経義疏**」を著した。(2008)
- ★**中臣鎌足**:大化の改新の中心人物であり、改新後も**中大兄皇子(天智天皇)**の腹心として活躍し、藤原氏繁栄の礎を築いた。(2012)(2016)
- ・**天武天皇**:飛鳥時代の天皇。天智天皇の弟。672 年壬申の乱で甥の大友皇子と皇位を争って勝利し、翌年即位。八色の姓を定めるなど、天皇を中心とする皇親政治を推進した。
- ・**吉備真備**:奈良時代の学者・公卿。(2012)
- ★**聖武天皇**:奈良時代の天皇。皇后は光明子。深く仏教を信じ、全国に国分寺を建立し、東大寺の大仏を造立した。数多くの遺品が東大寺正倉院宝庫に納められている。
- ★**坂上田村麻呂**:平安初期の武将。延暦 13 年(794)蝦夷(えぞ)を征討し、同 16 年征夷大將軍となった。その後、胆沢城(いさわじょう)を造営し、蝦夷地平定に功を残した。京都の清水寺の創建者と伝えられる。(2014)
- ・**阿弭流為(あてるい)**:奈良末から平安初頭の蝦夷(えみし)の族長。789 年(延暦 8)に胆沢(いさわ)(岩手県南部)を対象とする朝廷の征夷軍の侵攻に対し、強力な抵抗戦を指導して多大の損害を与えた。(2014)
- ★**藤原道長**:後一条・後朱雀・後冷泉の外戚。1017 年太政大臣となり、その子頼通とともに藤原氏の全盛期を現出した。「この世をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」
- ・**平将門**:平安時代中期の関東の豪族。(2013)
- ★**菅原道真**:平安時代の貴族、学者、漢詩人、政治家。遣唐使の廃止を建議した。(2010)
「東風(こち)吹かば匂ひをこせよ梅の花主なしとて春な忘れそ」(2017)
- ・**藤原清衡**:平安末期の陸奥(むつ)の豪族。後三年の役で源義家に味方して異父弟清原家衡らを討ち、陸奥六郡と出羽の管領権を握り、奥州藤原氏の基を築いた。平泉に中尊寺を建立。(2011)(2014)
- ★**後白河天皇**:保元 3 年 8 月 11 日(1158 年 9 月 5 日))は平安時代末期の第 77 代天皇。諱は雅仁(まさひと)。鳥羽天皇の第四皇子として生まれ、異母弟・近衛天皇の急死により皇位を継ぎ、譲位後は 34 年に亘り院政を行った。その治世は保元・平治の乱、治承・寿永の乱と戦乱が相次ぎ、二条天皇・平清盛・木曾義仲との対立により、幾度となく幽閉・院政停止に追い込まれるがそのたびに復権を果たした。(2017)
- ★**平徳子**:高倉天皇の中宮。安徳天皇の国母。父は平清盛、母は平時子。異母兄に重盛、基盛。同母兄弟に宗盛、知盛、重衡がいる。院号は**建礼門院(けんれいもんいん)**。安徳天皇の即位後は国母となるが、高

倉上皇と清盛が相次いで没し、木曾義仲の攻撃により都を追われ、壇ノ浦の戦いで安徳天皇・時子は入水、平氏一門は滅亡する。徳子は生き残り京へ送還されて出家、大原寂光院で安徳天皇と一門の菩提を弔った。

(2017)

- ★[高倉天皇](#): 平安時代末期の第 80 代天皇 (在位: 仁安 3 年 2 月 19 日 (1168 年 4 月 9 日) - 治承 4 年 2 月 21 日 (1180 年 3 月 18 日))。諱は憲仁 (のりひと) という。後白河天皇の第 7 皇子。母は皇太后平滋子 (建春門院)。安徳天皇、後鳥羽天皇らの父。(2017)
- ★[源頼朝](#): 鎌倉幕府初代将軍。1185 年に壇の浦の戦いで平氏を滅亡させた。同年、守護・地頭を設置して封建制度を確立。1192 年征夷大将軍となり鎌倉に幕府を開いた。
- ・[源頼家](#): 鎌倉幕府第 2 代将軍。頼朝の長男。母は北条政子。父の死後家督を継ぎ、征夷大将軍となった。北条氏の合議制による将軍権能の制限を嫌い、これを討とうとしたが失敗、伊豆の修禅寺に幽閉されて殺された。(2014)
- ★[後鳥羽上皇](#): 鎌倉幕府に対抗して 1221 年承久の乱を起こすが敗れ、隠岐に流された。歌人としては優れ「新古今和歌集」を編纂させた(1205 年藤原定家ら撰進)。「人もをし人も恨めしあぢきなく世を思ふゆゑにも
の思ふ身は。」(2010)
- ★[北条泰時](#): 鎌倉幕府 3 代執権。承久の乱で功を立て、初代六波羅探題となった。執権就任後、連署・評定衆を置いて合議制を制度化し、1232 年には貞永式目 [御成敗目] を制定して執権政治の確立に努めた。
- ★[北条時宗](#): 鎌倉幕府 8 代執権。文永の役・弘安の役では元軍の撃退に成功。禅宗に深く帰依し、蘭溪道隆の没後、宋より無学祖元を招いて建長寺の住持とし、のち円覚寺の開山とした。
- ・[北条高時](#): 鎌倉時代末期の北条氏得宗家当主、鎌倉幕府第 14 代執権 (在職: 1316 年 ~ 1326 年)。第 9 代執権・北条貞時の三男。(2017)
- ★[後醍醐天皇](#): 鎌倉末期 ~ 南北朝初期の天皇。院政を廃して天皇親政を行い、正中の変、元弘の乱を経て鎌倉幕府を滅ぼし建武新政を行った。(2017)
- ★[楠木正成](#): 鎌倉時代末期から南北朝時代にかけての武将。父は楠木正遠とされる。息子に正行、正時、正儀がいる。後醍醐天皇を奉じて鎌倉幕府打倒に貢献し、建武の新政の立役者として足利尊氏らとともに天皇を助けた。尊氏の反抗後は新田義貞、北畠顕家とともに南朝側の軍の一翼を担ったが、湊川の戦いで尊氏の軍に敗れて自害した。(2017)
- ★[新田義貞](#): 鎌倉時代後期から南北朝時代にかけての御家人・武将。鎌倉末期から南北朝の混乱の時代にあつて、足利氏と並び武家を統率する力のある家系であった新田家の当主で、足利尊氏の対抗馬であり、好敵手でもあった。鎌倉幕府を攻撃して事実上滅亡に追い込み、後醍醐天皇による建武新政樹立の立役者の一人となった。(2017)
- ★[足利尊氏](#): 鎌倉時代後期から南北朝時代の武将。室町幕府の初代征夷大将軍 (在職: 1338 年 ~ 1358 年)。足利将軍家の祖。(2017)
- ★[足利義満](#): 室町幕府 3 代将軍。京都室町に将軍邸宅「花の御所」を造営。1392 年には南北朝の合一を実現した。北山に金閣を建て、北山文化を現出。15 世紀初頭明と国交を開き、日明貿易 [勘合貿易] を行った。(2015)(2016)
- ★[足利義政](#): 室町幕府 8 代将軍。1467 年家督相続の争いなどから応仁の乱が起こると、将軍職を子の義尚に譲り、自らは東山に銀閣を建て、侘茶、水墨画など芸術三昧の隠居生活を送った。(2008)(2015)
- ★[織田信長](#): 安土桃山時代の武将。桶狭間の戦いに勝利して勢力を拡大、1573 年義昭を京都から追放し、室町幕府は滅亡した。1582 年本能寺の変で明智光秀に滅ぼされた。「人間五十年下天のうちを比ぶれば夢幻のごとくなり一度生を得て滅せぬもののあるべきか」(2017)
- ★[豊臣秀吉](#): 安土桃山時代の武将。織田信長に仕え、信長の死後、1590 年全国統一を達成。太閤検地によって近世封建社会の基礎を築き、刀狩によって兵農分離を徹底した。晩年、2 度の朝鮮出兵を行ったが失敗した。「露と落ち露と消えにし我が身かな浪速のことは夢のまた夢」(2008)
- ・[黒田如水](#): 戦国時代から江戸時代前期にかけての武将・大名。戦国の三英傑に重用され筑前国福岡藩祖となる。キリシタン大名でもあった。(2008)
- ★[徳川家康](#): 江戸幕府初代将軍。1600 年の関ヶ原の戦いで石田三成の西軍を破り天下の実権を握る。1603 年征夷大将軍となり江戸幕府を開いた。1615 年の大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼし、江戸幕府 260 年の基礎を固めた。「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。」(2008)(2017)
- ★[徳川家光](#): 江戸幕府の第 3 代将軍 (在職: 1623 年 - 1651 年)。2 代将軍秀忠の次男 (嫡男) である。母は浅井長政の娘で織田信長の姪にあたる江。乳母は春日局 (福) (2017)
- ★[徳川吉宗](#): 江戸幕府 8 代将軍。[享保の改革](#)を行い、定免法の採用、町火消の創設、目安箱の設置、上げ米の制、相対済し令、新田開発、公事方御定書の制定など、財政再建・幕政改革に努めた。(2012)
- ・[田沼意次](#): 江戸時代中期の旗本、のち大名、江戸幕府老中。遠江相良藩の初代藩主である。(2012)

- ★[新井白石](#):江戸中期の儒者・政治家。6・7代将軍の下で「[正徳の治](#)」を行う。著書に「[読史余論](#)」「[西洋紀聞](#)」など。(2007)(2010)(2011)(2014)
- ★[水野忠邦](#):江戸時代後期の大名・老中。肥前唐津藩主、のち遠州浜松藩主。(2012)
- ★[柳沢吉保](#):江戸時代前期の幕府側用人・譜代大名。第5代将軍徳川綱吉の寵愛を受けて、元禄時代には大老格として幕政を主導した。(2012)
- ★[間宮林蔵](#):江戸時代後期の隠密、探検家。樺太が島である事を確認した事で知られる。
- ★[伊能忠敬](#):江戸時代の商人・測量家である。足かけ17年をかけて全国を測量し「大日本沿海輿地全図」を完成させ、日本史上はじめて国土の正確な姿を明らかにした。
- ★[伊達政宗](#):出羽国と陸奥国の戦国大名・伊達氏の第17代当主。仙台藩初代藩主。支倉常長を欧州に派遣。
- ★[高杉晋作](#):松下村塾で学んだ長州藩士。奇兵隊を組織。功山寺挙兵。(2017)
- ★[坂本龍馬](#):土佐郷土株を持つ裕福な商家に生まれ、脱藩した後は志士として活動し、薩長同盟の斡旋、大政奉還の成立に尽力するなど倒幕および明治維新に影響を与えた。大政奉還成立の1ヶ月後に近江屋事件で暗殺された。
- ★[西郷隆盛](#):薩摩藩の下級武士として尊攘運動に活躍し、1866年薩長同盟を締結。戊辰戦争の参謀。1871年廃藩置県に尽力、征韓論に敗れ下野。1877年、薩摩の士族にかつがれて西南戦争を起こしたが、敗れて自刃した。「[ふたつなき道にこの身を捨小船 波たたばとて 風吹かばとて](#)」(2008)(2015)
- ★[勝海舟](#):江戸時代末期(幕末)から明治時代初期の武士(幕臣)、政治家。万延元年(1860年)には咸臨丸で渡米し、帰国後に軍艦奉行並となり神戸海軍操練所を開設。戊辰戦争時には幕府軍の軍事総裁となり、徹底抗戦を主張する小栗忠順に対し、早期停戦と江戸城無血開城を主張し実現。明治維新後は参議、海軍卿、枢密顧問官を歴任し、伯爵に叙せられた。(2017)
- ★[伊藤博文](#):松下村塾に学び、討幕運動に活躍。明治政府にあって、帝国憲法の制定、天皇制の確立に尽力。初代首相・枢密院議長・立憲政友会総裁などを歴任。組閣四度に及び、その間日清戦争を遂行。(2006)(2008)(2011)(2014)
- ★[森有礼](#):日本初代の文部大臣。(2008)
- ★[小村寿太郎](#):明治時代の外交官。日露戦争(1904~05)後のポーツマス会議では、第1次桂内閣のもと日本全権として講和条約を締結した。1911年には第2次桂内閣の外相として、[関税自主権の完全回復](#)に成功した。
- ★[陸奥宗光](#):日本の政治家、外交官、武士。明治初期に行われた版籍奉還、廃藩置県、徴兵令、地租改正に大きな影響を与えた。また、カミソリ大臣と呼ばれ、伊藤内閣の外務大臣として[不平等条約の改正](#)に辣腕を振るった。
- ★[原敬](#):1918年米騒動のため寺内正毅内閣が倒れると、その後を受けてわが国最初の本格的政党内閣を組織。「平民宰相」として国民に歓迎された。
- ★[加藤高明](#):憲政会党主。第2次護憲運動の後に、1925年「普通選挙法」とともに「治安維持法」を公布した。
- ★[東久邇稔彦](#):旧皇族、軍人。第2次大戦直後の首相。(2014)
- ★[吉田茂](#):第2次大戦後の占領体制下における日本の保守政治を代表する政治家。(2013)(2014)
- ★[鳩山一郎](#):政治家。戦時中大政翼賛会に反対した数少ない政治家。(2013)(2014)
- ★[片山哲](#):大正・昭和期の弁護士、政治家。戦後日本社会党結成に参加、書記長に就任、46年委員長となる。(2014)
- ★[幣原喜重郎](#):第1次世界大戦後のワシントン体制のもとで活躍し、当時の日本外交を代表する外交官。(2013)(2014)
- ★[岸信介](#):義弟松岡洋右や東條英機、その片腕の星野直樹、日産の鮎川義介らとともに満州の「ニキ三スケ」と呼ばれた。

●[キリシタン大名](#)

- ★[大友宗麟](#):(2007)(2009)
- ★[小西行長](#):(2007)
- ★[大村純忠](#):(2007)(2009)
- ★[有馬晴信](#):(2007)(2009)
- ★[高山右近](#):(2007)

※[キリシタン大名の覚え方](#):「おっと 小錦、おむつ ありません。高い高い、ば～」

おっと→大友宗麟、小錦→小西行長、おむつ→大村純忠、ありません→有馬晴信、高い→高山右近

●奥州藤原氏 4代 100年の栄華

藤原清衡:(2011)

藤原基衡:(2011)

藤原秀衡:(2011)

藤原泰衡:(2011)

※奥州藤原氏 4代の覚え方

清衡・基衡・秀衡3代のミイラ化した遺体(泰衡は首のみ遺る)が[中尊寺金色堂](#)内に現存することを思い出し「藤原四代、ミイラで**胆冷やす**」

き →清衡

も →基衡

ひ →秀衡

やす →泰衡

●僧侶・神道家

・**行基**:奈良時代の日本の僧。寺と僧侶を広く仏法の教えを説き人々より篤く崇敬された。そして行基集団を形成し、道場や寺院を49院、溜池15窪、溝と堀9筋、架橋6所、国家機関と朝廷が定めそれ以外の直接の民衆への仏教の布教活動を禁じた時代に、禁を破り畿内(近畿)を中心に民衆や豪族など階層を問わず困窮者のための布施屋9所等の設立など数々の社会事業を各地で成し遂げた。朝廷からは度々弾圧や禁圧されたが、民衆の圧倒的な支持を得、その力を結集して逆境を跳ね返した。その後、大僧正(最高位である大僧正の位は行基が日本で最初)として聖武天皇により奈良の大仏(東大寺)造立の実質上の責任者として招聘された。この功績により東大寺の「四聖」の一人に数えられている。(2017)

★**鑑真**:中国,唐の僧,日本律宗の開祖。大雲寺の智満について出家し,道岸,弘景,融濟らに師事して律と天台を学ぶ。のち揚州の大明寺で律を講じた。天宝1(742)年,入唐僧の栄叡,普照らの請いを受け,日本への渡航を企てること5回にも及んだが果さず,加えて失明し,同12年,6度目に成功した。来朝後は東大寺にあって授戒と伝律に専念し,聖武上皇をはじめ多くの貴紳に菩薩戒を授けた。天皇から賜わった新田部親王旧宅を**唐招提寺**とし,**戒律**研鑽に力を入れた。唐招提寺の『**鑑真和上坐像**』は奈良時代肖像彫刻の代表作とされる。(2017)

※**戒律**(かいりつ)とは、仏教において、修行者の生活規律のこと。自発的に規律を守ろうとする心のはたらきを指す戒(梵:sīla)と、他律的な規則を指す律(梵:vinaya)とを合わせた語。

・**円仁**:第3代天台座主。慈覚大師(じかくだいし)ともいう。入唐八家(最澄・空海・常暁・円行・円仁・恵運・円珍・宗叡)の一人。下野国の生まれで出自は壬生氏。(2017)

★**最澄**:平安初期の僧。天台宗の開祖。比叡山に**延暦寺**を建立。**山家学生式**を定め、大乘戒壇の設置を訴えた。(2010)(2017)

★**空海**:平安初期の僧。真言宗の開祖。高野山に**金剛峯寺**を建立。**綜芸種智院**を京都に開設した。三筆のひとり。(2010)(2017)

★**源信**:平安中期の僧。「**恵心僧都**」とも。比叡山に学ぶ。著書「**往生要集**」によって日本浄土教の祖とされる。(2011)(2013)

★**空也**:平安中期の僧。天台宗空也派の祖。常に市中に立って庶民に念仏をすすめ、貴賤(きせん)を問わず幅広い帰依者を得て、阿弥陀の聖・市の聖と尊称された。(2014)

★**重源**(ちゅうげん):鎌倉初期の浄土宗の僧。密教を学んだのち、法然から浄土教を学び諸国を遊行。東大寺再建のための大勸進職に任じられ、**天竺様式(大仏様)**をとり入れた大仏殿を完成。(2014)

★**法然**:平安後期～鎌倉初期の僧。**浄土宗の開祖**。専修念仏による往生を説いた。主著「**選択本願念仏集**」。(2006)(2013)(2016)

★**荣西**:平安後期～鎌倉初期の禅僧。**臨済宗(禅宗)の祖**。京都に建仁寺を建立。著書「**興禅護国論**」「**喫茶養生記**」。(2010)(2011)

★**親鸞**:鎌倉時代の僧。**浄土真宗の開祖**。師は法然。主著「**教行信証**」。「**歎異抄**」は弟子唯円の編による法話集。(2010)(2011)(2013)(2016)(2017)

★**道元**:鎌倉時代の禅僧。**曹洞宗(禅宗)の開祖**。越前に**永平寺**を建立。「只管打坐」を唱え、著書に「**正法眼蔵**」がある。(2010)(2011)(2013)

★**日蓮**:鎌倉時代の僧。仏法の真髄は法華経にあると悟り、**日蓮宗(法華宗)**を開いた。主著「**立正安国論**」。(2010)(2013)(2016)

★**一遍**:鎌倉時代の僧。**時宗の開祖**。踊念仏により時宗の普及に努めた。「一遍上人語録」は法話集。(2010)(2011)(2013)

- ・無学祖元:鎌倉時代の臨濟宗の僧。建長寺・円覚寺に兼住して日本の臨濟宗に影響を与える。(2006)(2008)
- ・蘭溪道隆:鎌倉時代中期の南宋から渡来した禅僧・大覚派の祖。(2006)(2008)
- ★夢窓疎石:鎌倉末期・南北朝時代の禅僧。後醍醐天皇、足利尊氏の帰依を得た。西芳寺、天童寺の庭園をつくる。(2006)(2008)
- ★蓮如:室町時代の浄土真宗(「一向宗」「門徒宗」)の僧。本願寺第8世。本願寺中興の祖。神仏をないがしるにし武力による天下統一を狙う織田信長を仏敵とみなし、全国の本願寺門徒に信長打倒を呼びかけて決戦を挑んだ。軍事的にも経済的にも圧倒的に有利な織田軍相手に、調略を巡らせて信長包囲網を築き10年以上にわたって激しい攻防を繰り返したことで知られる。(2010)(2013)
- ・吉田兼俱(よしだかねとも):室町時代の神道家吉田神社の神職。本地垂迹説に対して神主仏従説を唱え、陰陽五行説などを加えて吉田神道を大成。(2014)
- ・度会家行(わたらいいえゆき):南北朝時代、伊勢神道を大成した神道家。南北朝時代の勤王家として北畠親房に大きな影響を与えた。(2014)
- ・山崎闇斎:江戸時代前期の儒者、神道家。著作に「文会筆録」など。(2007)(2014)

※【真言宗—空海—高野山金剛峰寺】【天台宗—最澄—比叡山延暦寺】の覚え方

「真空状態、高野山」→ 真=真言宗、空=空海、高野山

「天才だ、ヒュー」→ 天=天台宗、才=最澄、ヒュー=比叡山延暦寺

●芸術家

- ★鞍作鳥止利仏師:飛鳥時代の仏師。代表作は飛鳥寺「釈迦如来像」[飛鳥大仏]、法隆寺金堂「釈迦三尊像」。(2008)
- ★紀貫之:平安初期の貴族・歌人。醍醐天皇勅撰の「古今和歌集」の撰者の一人。著作に「土佐日記」がある。(2008)(2009)(2010)
- ★定朝:平安中期の仏師。大量生産の可能な寄木造の手法を確立した。代表作は平等院鳳凰堂「阿弥陀如来像」。(2006)
- ★運慶:平安末期から鎌倉初期の仏師。豪放な力強さと写実性に特色があり、鎌倉新様式を築いた。代表作は快慶との合作による東大寺南大門「金剛力士像」。(2006)(2014)
- ★快慶:鎌倉時代の仏師。運慶の力強い作風と比べて、流麗で親しみやすく安阿弥様(よう)と称される。作品は、東大寺の阿弥陀如来・地藏菩薩像などが残る。(2014)
- ・湛慶:鎌倉時代の仏師。父とともに東大寺、興福寺の復興造仏に従事。また高野山の金剛力士像、三十三間堂本堂の中尊千手観音像なども制作。(2014)
- ★世阿弥:室町初期の能の大成者。父・観阿弥とともに足利義満の保護を受ける。「風姿花伝」[花伝書]を著す。
- ★雪舟:室町後期の画僧。日本の水墨画を完成させた。代表作は「四季山水図巻」[山水長巻]「秋冬山水図」。(2009)(2012)
- ★狩野永徳:安土桃山時代の画家。信長・秀吉に仕え、豪壮な障壁画を描いた。代表作に「唐獅子図屏風」。(2009)(2010)
- ★狩野山楽:桃山時代の画家。狩野永徳の弟子となり、師を助けて活躍した。代表作に、大覚寺宸殿・正寝殿の「牡丹図」「松鷹図」などの障壁画、「車争図屏風」「龍虎図屏風」などがある。(2011)(2014)
- ・海北友松:桃山時代の画家。画技は狩野元信・狩野永徳に学んだとされるが、永徳の気宇の大きさと宋元画の精神性を止揚した独特の画境を開拓した。(2011)(2014)
- ★長谷川等伯:安土桃山時代から江戸時代初期にかけての絵師。狩野永徳、海北友松、雲谷等顔らと並び桃山時代を代表する画人である。(2009)(2011)
- ★松尾芭蕉:江戸前期の俳人。蕉風俳諧を確立。東北地方を旅し、多くの紀行文を残した。代表作「奥の細道」。(2017)
- ★井原西鶴:浮世草子作者。代表作は「好色一代男」(好色物)、「日本永代蔵」「世間胸算用」(町人物)。(2013)
- ★菱川師宣:江戸前期の浮世絵師。浮世絵の祖とされる。代表作に「見返り美人」がある。(2008)(2010)
- ★尾形光琳:江戸中期の画家。俵屋宗達の画風の影響を強く受ける。代表作「紅白梅図屏風」「燕子花図屏風」。(2008)(2011)(2015)
- ★渡辺崋山:江戸時代後期の武士、画家。三河国田原藩の藩士であり、のち家老となった。蛮社の獄で処罰された。(2008)(2015)

※**蛮社の獄**(ばんしゃのごく)は、天保10年(1839年)5月に起きた言論弾圧事件である。**高野長英**、渡辺崋山などが、モリソン号事件と江戸幕府の鎖国政策を批判したため、捕らえられて獄に繋がれるなど罰を受けた。

- ・**司馬江漢**:江戸時代の絵師、蘭学者。浮世絵師の鈴木春重は同一人物。(2008)(2015)
- ★**歌川広重**:江戸時代末期の浮世絵師。代表作「**東海道五十三次**」(2011)(2017)
- ★**葛飾北斎**:江戸時代後期の浮世絵師。化政文化を代表する一人。代表作「**富嶽三十六景**」(2011)(2017)
- ・**喜多川歌麿**:江戸時代の浮世絵師。(2008)(2011)
- ・**鈴木春信**:江戸時代の美人画の浮世絵師(2008)(2011)
- ・**東洲斎写楽**:江戸時代中期の浮世絵師。(2011)
- ★**円山応挙**:江戸時代中期～後期の絵師。近現代の京都画壇にまでその系統が続く「円山派」の祖であり、写生を重視した親しみやすい画風が特色である。(2009)
- ・**仮名垣魯文**:江戸末期から明治初頭にかけての戯作者、新聞記者。江戸の京橋生まれ。「**甲州道中膝栗毛**」(2017)
- ・**滝廉太郎**:音楽家、作曲家。明治の西洋音楽黎明期における代表的な音楽家の一人。(2011)
- ・**菱田春草(ひしだしゅんそう)**(1874～1911):明治時代の日本画家。岡倉天心にまなぶ。のち天心らの日本美術院創立に参加。代表作に「落葉」「黒き猫」。(2014)
- ★**岡倉天心(1863～1913)**:美術行政家・思想家。日本及び東洋の文化の優秀性を内外に訴えた。著に『**茶の本**』『**東洋の理想**』『**日本の覚醒**』がある。(2006)(2010)(2014)
- ・**横山大観(1868～1958)**:日本画家。岡倉天心・橋本雅邦に師事し、日本美術院の創立に参加。天心没後は再興日本美術院を主宰。文化勲章受章。(2014)
- ・**竹内栖鳳(たけうちせいほう)**(1864～1942):戦前の日本画家。第1回文化勲章受章者。動物を描けば、その匂いまで描くといわれた達人であった。(2014)
- ・**池田遙邨(いけだようそん)**(1895～1988):倉敷市出身の日本画家。本名は池田昇一。(2014)
- ・**西村五雲(にしむらごうん)**(1877～1938):京都出身の日本画家。動物の生態を生き生きと捉える絵を描き、平和でのどかな動物画を得意としていた。(2014)

●**三筆**(9世紀)(遣唐使廃止前)(唐様)

- ・**空海**
- ・**橘逸勢**
- ・**嵯峨天皇**

※覚え方:「不出来なサガリ食うのは流行らず」

不出(三筆)来(な)サガ(嵯峨天皇)リ食(く)う(空海)のは流行(橘逸勢)らず

●**三蹟**(10世紀)(遣唐使廃止後)(和様)

- ・**藤原佐理**
- ・**小野道風**(2009)
- ・**藤原行成(ゆきなり、こうせい)**

※覚え方:「サリーちゃんは、豆腐屋へ、いくなり」

●室町時代に活動した水墨画家

- ・**明兆**(2008)
- ・**如拙**「瓢鮎図(ひょうねんず)」(2009)
- ・**周文**「寒山拾得図(かんざんじつとくず)」
- ・**雪舟**「四季山水図巻(しきさんすいざかん)」「天橋立図(あまのはしだてず)」(2008)

※覚え方:「明女(めいじょ)の周(まわり)りは、雪」

●**仏像**

- ★**空也上人像(くうやしやうにんぞう)**:空也の彫像は、六波羅蜜寺が所蔵する立像(運慶の四男康勝の作)が、最も有名である。(2014)
- ・**僧形八幡神像(そうぎやうはちまんしんぞう)**:薬師寺蔵の同神像(9世紀末)、および東大寺蔵の快慶作坐像(1201)が代表作例。(2009)(2014)
- ・**蘭溪道隆像(らんけいどうりゅうぞう)**:朗然居士(ろうねんこじ)(北条時宗の居士名か?)のために描かれたもの。(2014)

★[平清盛坐像\(たいらのきよもりざどう\)](#):京都市東山区の六波羅蜜寺蔵。重要文化財。(2014)

★**学者・文人**

- [阿倍仲麻呂](#):奈良初期留学生として入唐。帰国途上で暴風雨に遭い、帰国を断念。唐に留まり玄宗皇帝に仕えた。
- ★[菅原道真](#):平安前期の公卿・学者。894年遣唐使の廃止を建議し認められた。のち、讒言により大宰府に左遷。(2009)(2010)
- [一条兼良](#):室町中期の政治家・学者。関白太政大臣。有職故実(ゆうそくこじつ)・古典に通じた当代随一の学者。(2014)
- [北畠親房](#):南北朝時代の公家・武将・学者。後醍醐天皇に仕え、建武政権成立後、東北経営にあたった。「神皇正統記」を著した。(2008)(2014)
- [ト部兼方\(うらべかねかた\)](#):鎌倉中期の古典学者。ト部家は、もと神祇官(じんぎかん)の下級官僚家の一つであったが、しだいにその地位を固め、また古典伝承の家としても知られていた。(2014)
- ★[千利休](#):戦国時代から安土桃山時代にかけての商人、茶人。わび茶の完成者として知られ、茶聖とも称せられる。(2009)
- [藤原惺窩](#):戦国時代から江戸時代前期にかけての儒学者。近世儒学の祖。(2008)
- [契沖](#):江戸時代前期の国学者。真言宗の僧。徳川光圀(みつくに)の依頼で「万葉集」を注釈し、「万葉代匠記」をあらわす。(2013)(2014)
- ★[山鹿素行](#):江戸時代前期の兵法家、儒者。著作に「配所残筆」「武家事紀」など。(2014)
- [熊沢蕃山](#):江戸前期の儒学者。中江藤樹に陽明学を学び、岡山藩主池田光政に仕えた。「大学或問(わくもん)」を著した。(2014)
- ★[林羅山](#):江戸前期の朱子学者。上野忍岡に家塾を開く。(2008)
- ★[新井白石](#):江戸中期の儒者・政治家。6・7代将軍の下で「[正徳の治](#)」を行う。著書に「読史余論」「西洋紀聞」(2016)など。(2007)(2010)(2011)(2014)
- [荻生徂徠](#):江戸中期の儒者。古文辞学(古学一派)の祖。江戸に・園塾を開く。著書は「政談」など。
- ★[前野良沢](#):江戸中期の蘭医。蘭語の解剖書「[ターヘル・アナトミア](#)」(2016)を杉田玄白らと共に翻訳、「[解体新書](#)」(2016)として刊行。(2009)(2016)
- ★[杉田玄白](#):江戸中期の蘭医。「[ターヘル・アナトミア](#)」(2016)翻訳の苦労を記した「蘭学事始」はつとに知られる。(2009)(2010)(2016)
- ★[青木昆陽](#):江戸時代中期の儒学者、蘭学者。[甘藷\(現在のサツマイモ\)](#)の栽培で有名。(2009)
- ★[大槻玄沢](#):一関藩出身の江戸時代後期の蘭学者。「解体新書」の翻訳で有名な杉田玄白・前野良沢の弟子。著書「[蘭学階梯](#)」(2016)(蘭学の入門書)(2009)
- ★[稲村三伯](#):(2009)
- ★[本居宣長](#):江戸中期の国学者。「[古事記伝](#)」などを著し、儒教・仏教を排して「もののあはれ」・「古道」を賞揚した。(2010)(2011)
- ★[高野長英](#):江戸後期の蘭学者。長崎でシーボルトに学ぶ。1839年「[蛮社の獄](#)」で渡辺崋山らとともに弾圧される。(2012)
- ★[吉田松陰](#):1854年ペリー来航の際海外密航を企て幽閉。[松下村塾](#)から優秀な人材を輩出するも、安政の大獄で斬首。(2017)
- ★[岡倉天心](#):[東京美術学校](#)の設立(2010)
- [小山内薫](#):自由劇場の結成(2010)
- [辰野金吾](#):東京駅の設計(2010)
- [黒田清輝](#):白馬会の結成(2010)
- [浅井忠](#):明治美術会を設立(2010)
- ★[福澤諭吉](#):日本の武士、蘭学者、著述家、啓蒙思想家、教育者。慶應義塾の創設者。著書「[学問のすすめ](#)」(2008)(2010)(2011)(2017)
- ★[中江兆民](#):思想家、ジャーナリスト、政治家。フランスの思想家ジャン＝ジャック・ルソーを日本へ紹介して自由民権運動の理論的指導者となった。東洋のルソーと評される。(2008)
- [吉野作造](#):明治・大正の政治学者。彼が提唱した「民本主義」は大正デモクラシーの理論的支柱となった。(2010)
- [朝永振一郎](#):物理学者。東京の生まれ。東京教育大学学長。量子電磁力学の発展に寄与し、昭和40年(1965)ノーベル物理学賞受賞。同27年には文化勲章受章。(2014)
- [江崎玲於奈](#):物理学者。筑波大学学長。大阪の生まれ。昭和32年(1957)エサキダイオードを発明。昭和48

年(1973)、半導体の研究でノーベル物理学賞受賞。翌年、文化勲章受章。(2014)

●実業家

- ★**角倉了以(すみのくらりょうい)**(1554～1614):戦国期の京都の豪商。朱印船貿易の開始とともに安南国との貿易を行い、山城(京都)の大堰川、高瀬川を私財を投じて開削した。(2012)
- ★**茶屋四郎次郎**:安土桃山時代から江戸時代にかけての公儀呉服師を世襲した京都の豪商。(2013)
- ★**高田屋嘉兵衛(1769～1827)**:江戸時代後期の廻船業者、海商である。ゴローニン事件でカムチャツカに連行されるが、日露交渉の間に立ち、事件解決へ導いた。(2013)

●歌人

- ★**藤原定家**:平安末期・鎌倉初期の歌人・歌学者。「**新古今和歌集**」(共撰)、「**新勅撰和歌集**」を撰した。歌論書「近代秀歌」「毎月抄」、撰集「**小倉百人一首**」、日記「明月記など」。「**来ぬ人を松帆の浦の夕なぎに焼くや藻塩の身もこがれつつ**」(承久の変で、隠岐に流された後鳥羽上皇を偲んで、の説あり)(2011)(2014)
- ★**藤原家隆**:鎌倉初期の歌人。和歌を俊成に学び、抒情清艶な歌風で、定家とともに後鳥羽院歌壇の主要歌人。「新古今和歌集」撰者の一人。(2011)(2014)
- ★**松尾芭蕉**:江戸前期の俳人。その句の多くは「俳諧七部集」に収められている。紀行に「野ざらし紀行」「笈(おい)の小文」「**奥の細道**」「**更科紀行**」、日記に「**嵯峨日記**」など。(2007)(2009)(2011)(2014)
- ★**与謝蕪村**:蕪村句集(2007)
- ★**正岡子規**:俳人、歌人、国語学研究者。俳句、短歌、新体詩、小説、評論、随筆など多方面に亘り創作活動を行い、日本の近代文学に多大な影響を及ぼした。(2008)
- ★**与謝野晶子**:歌人、作家、思想家。「**みだれ髪**」(2009)(2007)

●歌集

- ★**懷風藻**:現存する**最古の日本漢詩集**。(2009)
- ★**万葉集**:7世紀後半から8世紀後半ころにかけて編まれた日本に現存する最古の和歌集である。さまざまな身分の人間が詠んだ歌を4500首以上も集めたもので、成立は759年以後とみられる。(2009)
- ★**古今和歌集**:醍醐天皇の詔により撰ばれた**最初の勅撰和歌集**。歌数は1111首。(2006)(2011)(2014)(2015)
- ★**後撰和歌集**:略称<後撰集>。<古今和歌集>をつぐ平安時代第2の勅撰和歌集。(2014)
- ★**拾遺和歌集**:<三代集>の一つとして第3番目の勅撰和歌集。(2014)
- ★**三代集**:平安初期の三つの勅撰和歌集、<古今和歌集><後撰和歌集><拾遺和歌集>をいう。勅撰集の最初の3集として重んぜられ、編集その他、後の模範とされた。三代とは撰集を命じた醍醐・村上・花山天皇の時代の意。
- ★**後拾遺和歌集**:第四番目の勅撰和歌集。白河法皇下命、藤原通俊撰。女流歌人の歌が多く、また叙景歌に新しい方向が示されている。(2014)
- ★**山家集**:平安末期の歌僧**西行法師**の家集。(2008)(2011)
- ★**新古今和歌集**:後鳥羽院の命によって編纂された勅撰和歌集。(2011)
- ★**金槐和歌集**:鎌倉時代前期の私家集。**源実朝**著。(2008)(2010)
- ★**みだれ髪**:**与謝野晶子**作の処女歌集。(2008)(2009)(2010)

●歴史書

- ★**古事記**:**日本最古の歴史書**である。**712年**に**太安万侶**が**穗田阿礼**とともに編纂し元明天皇に献上された。(2015)
- ★**日本書紀**:奈良時代に成立した日本の歴史書(**720年**)。日本に伝存する**最古の正史**で、六国史の第一にあたる。舎人親王らの撰で、養老4年に完成した。神代から持統天皇の時代までを扱う。(2009)
- ★**風土記**:(**713年**)一般には地方の歴史や文物を記した地誌のことをさすが、狭義には、日本の奈良時代に地方の文化風土や地勢等を国ごとに記録編纂して、天皇に献上させた報告書をさす。(2009)
- ★**愚管抄**:鎌倉時代初期の史論書。作者は天台宗僧侶の**慈円**。(2010)
- ★**吾妻鏡**:鎌倉時代に成立した日本の歴史書。鎌倉幕府の初代将軍・源頼朝から第6代将軍・宗尊親王まで6代の将軍記という構成。(2007)(2011)(2012)(2013)

●四鏡(しきょう)

平安時代後期から室町時代前期までに成立した「鏡物(かがみもの)」と呼ばれる4つの歴史物語(歴史書)。

- ・大鏡:(2007)(2012)
- ・今鏡:(2012)
- ・水鏡:(2012)(2013)
- ・増鏡:(2012)(2013)

※覚え方:「四鏡は、だいこんみずまし」

「だい」:大鏡・「こん」:今鏡・「みず」:水鏡・「まし」:増鏡

●日記・紀行

★土佐日記:紀貫之(2015)

- ・蜻蛉日記:藤原道綱の母(2010)
- ・和泉式部日記:和泉式部(2010)
- ・更級日記:菅原孝標の女(2010)
- ・十六夜日記:阿仏尼(2010)(2011)
- ・笈の小文:松尾芭蕉(2011)

●物語

- ★竹取物語:(2011)(2015)
- ★源氏物語:紫式部(2009)(2015)
- ★平家物語:(2009)
- ・伊勢物語:(2011)
- ・宇津保物語:(2011)
- ・大和物語:(2011)
- ・落窪物語:(2011)

●随筆

- ★枕草子:清少納言(2009)
- ★方丈記:鴨長明(2009)(2010)(2013)
- ★徒然草:吉田兼好(2009)(2010)

●小説家

- ★井原西鶴:江戸時代前期の俳人、浮世草子作者。「好色五人女」「好色一代女」、武家物「武道伝来記」、町人物「日本永代蔵」「世間胸算用」。(2011)(2013)(2014)
- ★近松門左衛門:江戸中期の浄瑠璃・歌舞伎作者。坂田藤十郎のために脚本を書き、その名演技と相まって上方歌舞伎の全盛を招いた。代表作「国性爺合戦」「曾根崎心中」「心中天網島」。(2008)(2011)(2012)(2013)
- ★島崎藤村:若菜集、破戒(2010)(2017)
- ★坪内逍遙:小説神髓(2008)
- ・幸田露伴:五重塔(2010)
- ・高野聖:泉鏡花(2011)
- ・長塚節:土(2011)
- ・芥川龍之介:羅生門(2011)
- ・小林多喜:蟹工船(2011)
- ・有島武郎:或る女(2011)
- ・谷崎潤一郎:痴人の愛、細雪(2014)
- ・志賀直哉:暗夜行路(2011)
- ・森鷗外:舞姫(2009)(2017)
- ・夏目漱石:(2017)
- ・尾崎紅葉:金色夜叉「宮さん、アイや、お宮。ダイヤモンドに目が眩み。よくも、よくも僕を裏切ってくれたな」(2008)(2009)
- ・二葉亭四迷:浮雲(2008)
- ・樋口一葉:たけくらべ、にごりえ(2008)(2009)

●日本に關係の深い外国人

- 朝鮮通信使:李氏朝鮮の国王が日本国王(日本の外交権者)に国書を手交するために派遣した使節。日本では朝鮮来聘(らいへい)使とも呼ぶ。(2014)
- ★鑑真(688～763):唐の僧。日本の律宗の祖。8世紀中頃に來朝、東大寺に戒壇を設け聖武上皇以下に授戒。唐招提寺を創建。(過去3回以上出題された)(2017)
- ★フランシスコ・ザビエル(1506～1552):1549年鹿児島に來日。のち平戸、山口で伝道し、日本で最初のキリスト教(カトリック)伝道者となる。(2008)(2017)
- ★ルイス・フロイス(1532～1597):16世紀半ばにイエズス会宣教師として來日。信長、秀吉と親交を深める。名著「日本史」を残した。(2006)(2013)
- ヴァリニャーニ(1539～1606):安土桃山時代から江戸時代初期の日本を訪れたイエズス会員、カトリック教会の司祭。(2008)(2011)(2013)
- オルガンティーノ(1533～1609):戦国時代末期の日本で宣教活動を行ったイタリア人宣教師。カトリック司祭。イエズス会員。織田信長や豊臣秀吉などの時の権力者とも知己となり、激動の戦国時代の目撃者。(2008)
- マテオ・リッチ(1552～1610):イタリア人イエズス会員・カトリック教会の司祭。中国にヨーロッパの最新技術を伝えると共に、ヨーロッパに中国文化を紹介し、東西文化の架け橋となった。:(2008)
- ★ウィリアム・アダムズ(1564～1620):江戸時代初期に徳川家康に外交顧問として仕えたイングランド人航海士・水先案内人・貿易家。三浦按針(みうらあんじん)の日本名でも知られる。("按針"の名は、彼の職業である水先案内人の意。姓の"三浦"は領地のある三浦郡にちなむ)(2010)
- ヤン・ヨーステン(1556～1623)は、オランダの航海士、朱印船貿易家。オランダ船リーフデ号に乗り込み、航海長であるイギリス人ウィリアム・アダムズ(三浦按針)とともに1600年4月19日、豊後に漂着。徳川家康に信任され、江戸城の内堀内に邸を貰い、日本人と結婚した。屋敷のあった場所は現在の八重洲のあたりだが、この「八重洲」の地名は彼自身の名に由来する。「ヤン=ヨーステン」が訛った日本名「耶楊子」(やようす)と呼ばれるようになり、これがのちに「八代洲」(ややす)となり、「八重洲」(やえす)になったとされる。
- ケンペル(1651～1716):ドイツ人の医師、博物学者。ヨーロッパにおいて日本を初めて体系的に記述した『日本誌』の原著者。(2011)
- シドッチ(1668～1714):イタリア人イエズス会の宣教師で、1708年に屋久島に上陸したが捕らえられ、江戸に送られ5年後に亡くなる。(2011)(2013)
- レザノフ(1764～1807):ロシアの実業家。1804年に通商を開くため遣日使節として長崎に來航したが幕府に拒絶され、報復として樺太(からふと)・択捉(えとろふ)などを攻撃した。(2010)(2014)
- ★アダム・ラクスマン(1766～1806):ロシア最初の遣日使節として、1792年にエカテリーナ号でオホーツクを出発し根室に到着した。(2010)(2013)(2015)
- クルーゼンシュテルン(1770～1846):ロシアの軍人。日本への使節レザノフをのせた世界周航艦隊を指揮して、1803年に長崎につく。通商交渉を幕府に拒否されたのち、日本海を北上、北海道、千島などの沿岸を測量。(2014)
- ゴローニン(1776～1831):ロシア帝国(ロマノフ朝)の海軍軍人、探検家、学者。(2010)
- ビッドル(1783～1848):フィラデルフィアの名門出身のアメリカ海軍の士官。1846年には東インド艦隊の司令官として日本開国を試みるが失敗した。(2011)(2014)
- ★シーボルト(1796～1866):19世紀前期に來日、長崎郊外に鳴滝塾を開き医学などを教える。1828年シーボルト事件により国外追放。(2007)(2011)(2013)(2016)
- ★ペリー(1794～1858):アメリカ海軍軍人。東インド艦隊司令官として、1853年7月8日、フィルモア大統領の將軍あて書簡をたずさえ、軍艦4隻で江戸湾に到着、威圧的に開港を迫り、翌年再び江戸へ来て日米和親条約を締結した。(2009)(2010)
- プチャーチン(1803～1883):ロシアの提督、政治家。海軍兵学校の出身。1842年カスピ海におけるロシアの権益を守るためイランに派遣された。(2014)
- ★ハリス(1804～1878):初代駐日米総領事として下田に着任。1858年日米修好通商条約の締結に成功する。(2010)
- ヘボン(1815～1911):アメリカ人宣教師。1859年來日。ヘボン式ローマ字を考案し、「英和学院」(現明治学院大学)を開いた。(過去3回以上出題された)
- シュタイン(1815～1890):ドイツの法学者・思想家。伊藤博文にドイツ式の立憲体制を薦めて、大日本帝国憲法制定のきっかけを与えた人物(2011)
- グナイスト(1816～1895):プロイセン時代のドイツの法学者で政治家。伊藤博文、伊東巳代治ら日本の憲法調査団にドイツ国法学を講義し、明治憲法にも影響を及ぼした。(2011)
- フォンタネージ(1818～1882):イタリアの画家。明治9年(1876)來日、工部美術学校教授となり、浅井忠(あさ

いちゅう)・小山正太郎などを指導。(2014)(2013)

- ★**ボアソナード(1825～1910)**:フランスの法学者で、幕末に締結された不平等条約による治外法権に代表される不平等条項の撤廃のため、日本の国内法の整備に大きな貢献を果たし、「日本近代法の父」と呼ばれている。(2011)(2012)
- ★**ウィリアム・スミス・クラーク(1826～1886)**:アメリカ合衆国の教育者。化学、植物学、動物学の教師。農学教育のリーダー。1876年(明治9年)札幌農学校(現北海道大学)開校。初代教頭。同大学では専門の植物学だけでなく、自然科学一般を英語で教えた。「Boys, be ambitious.」(2012)(2016)
- ・**ボンペ(1829～1908)**:幕末に来日したオランダの海軍軍医。日本が系統的な西洋医学を導入するのに大きな役割を果たした。(2014)
- ・**フルベッキ(1830～1898)**:オランダ出身で、アメリカ合衆国に移住し、日本に宣教師として派遣され活躍した法学者・神学者、宣教師。(2011)(2013)
- ★**モース(1838～1925)**:明治初期に来日、動物学を講じた。大森貝塚を発掘し日本の考古学の祖となる。著書「日本その日その日」。(2012)(2013)
- ・**ラダーザ(1841～1927)**:明治期に来日し、日本に近代洋風彫刻を紹介、指導したイタリア人彫刻家。(2010)(2014)
- ・**モッセ(1846～1925)**:ドイツの法律家でお雇い外国人として日本に招かれた一人。「明治憲法の父」といわれる。(2011)
- ・**キヨソネ(1832～1898)**:イタリアの銅版画家。大蔵省紙幣寮で各種紙幣・郵便切手などを製作。日本における印刷術の基礎づくりに貢献。明治天皇・西郷隆盛・大久保利通などの肖像もかいた。(2013)(2014)(2013)
- ・**クロバトキン(1848～1925)**:帝政ロシアの軍人。陸軍大臣、日露戦争時のロシア満州軍総司令官を歴任した。(2010)
- ・**ヴィッテ(1849～1915)**:帝政ロシア末期の政治家。(2010)
- ・**ラフカディオ・ハーン(1850～1904)**:明治中期に来日、帰化して小泉八雲となる。著書に「怪談」「神国日本」「人生と文学」など。(出題多数)
- ・**ジョサイア・コンドル(1852～1920)**:イギリスのロンドン出身の建築家。お雇い外国人として来日し、政府関連の建物の設計を手がけた。(2006)(2010)(2014)
- ★**フェノロサ(1853～1908)**:明治初期に来日、日本の伝統美術の復興に尽力し、岡倉天心とともに東京美術学校を創立した。(2006)(2010)(2011)(2013)(2014)(2016)

●外国船に関わる事件

- ・**アロー号事件(1856～1860)**:清とイギリス・フランス連合軍との間で起こった戦争。最終的に北京条約で終結し、清の半植民地化が決定的なものとなった。(2009)
- ・**フェートン号事件(1808)**:鎖国体制下の日本の長崎港で起きたイギリス軍艦侵入事件。(2009)
- ・**モリソン号事件(1837)**:日本人漂流民を乗せたアメリカ合衆国の商船を日本側砲台が砲撃した事件。(2009)
- ・**ノルマントン号事件(1886)**:イギリス船籍の貨物船ノルマントン号が、紀州沖で座礁沈没した事から始まった紛争事件。(2009)
- ・**サン＝フェリペ号事件(1596)**:土佐にスペインのサン＝フェリペ号が漂着した事件。豊臣秀吉の唯一のキリスト教徒への直接的迫害(日本二十六聖人殉教)のきっかけとなったとされる。(2009)

●教育機関

- ★**綜芸種智院**:空海が庶民教育や各種学芸の総合的教育を目的に、京都の左京九条に設置した私立学校。(空海)(2012)
- ★**鳴滝塾(長崎県)(1824)**:シーボルトが長崎郊外に設けた私塾。診療所も兼ねていた。(2007)(2011)(2013)
- ★**松下村塾**:幕末に、長州萩城下の松本村に吉田松陰が指導した私塾。塾生の中から、幕末より明治期の日本を主導した人材を多く輩出したことで知られる。(2007)
- ★**適塾**:蘭学者・医者として知られる緒方洪庵が江戸時代後期に大坂・船場に開いた蘭学の私塾。第10代塾頭が福澤諭吉。(2007)
- ・**古義堂**:江戸時代の1662年、京都に、伊藤仁斎がその生家で開いた儒学を教える家塾。(2007)

●重要施設

- ★**八幡製鉄所**:明治34年(1901)日本初の銑鋼一貫操業を開始した官営製鉄所。(2006)(2012)(2014)
- ・**横須賀造船所**:江戸幕府により横須賀市に開設された造船所。江戸開城後は明治政府が引き継ぎ、のちに海軍省の管轄となる。現在は在日米軍横須賀海軍施設となっている。(2012)

- ・三池炭鉱(福岡県):日本の近代化を支えてきた炭鉱であったが1997年に閉山した。2015年7月に世界文化遺産として登録された。(2006)
- ★富岡製糸場:日本初の本格的な製糸工場。「富岡製糸場と絹産業遺産群」として、2014年6月に世界文化遺産として登録された。(2006)(2017)
- ・長崎造船所:長崎県長崎市と諫早市にある三菱重工業の造船所・工場。「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として、2014年6月に世界文化遺産として登録された。(2006)
- ・東洋拓殖会社:日露戦争後の1908年に設立され、1945年の第二次世界大戦の終結まで、京城府及び満州国、モンゴル、サハリン、南洋諸島、ミクロネシアに存在した大日本帝国の特殊会社。(2006)

●重要名数

- ★三筆:嵯峨天皇、橘逸勢、空海(弘仁・貞観文化)(平安時代初期)(唐様)
- ★三蹟:小野道風、藤原佐理、藤原行成(国風文化)(平安時代中期)(和様)
- ・三管領:斯波家、細川家、畠山家
- ★御三家:尾張家、紀伊家、水戸家
- ・御三卿:田安家、一橋家、清水家
- ★江戸の三大改革:享保の改革(徳川吉宗)、寛政の改革(松平定信)、天保の改革(水野忠邦)
- ★明治維新の三傑:西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允
- ・国学四大人(うし):荷田春満、賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤
- ・四天王:持国天、広目天、増長天、多聞天
- ★五街道:東海道、中山道、日光道中、奥州道中、甲州道中

●歴史用語

- ★封建制度:中世社会の基本的な支配形態。封土の給与とその代償としての忠勤奉仕を基礎として成立する、領主・家臣の間の主従関係に基づく統治制度。また、領主が生産者である農民を身分的に支配する社会経済制度。もとは、Feudalismの訳語として、近・現代になって、中国語の「封建制」という言葉を援用・転用したもの。
- ・得宗専制:鎌倉幕府において執権を務める北条氏の惣領である得宗(とくそう)に幕府権力が集中して専制政治が行われたこと、またその時期を指す。鎌倉幕府の歴史を3つに分けた場合、源氏将軍・執権政治に続く第3の時期にあたる。(2014)
- ・荘園公領制:日本の中世における、荘園と公領(朝廷・国衙(こくが)・幕府などの領地)を土台とした、重層的な土地支配構造のことである。11世紀中後期から12世紀初期にかけて成立し、院政期を通じて発展し、鎌倉時代前後に最盛期を迎えた。その一方で、鎌倉時代には地頭による侵食を受け、室町時代には守護(守護大名)によって蚕食されるなど、武士の進出に伴って次第に解体への道を進み、戦国時代頃までにはほぼ形骸化した。最終的には太閤検地で消滅する。
- ・院政:上皇、法皇の執政を常態とする政治形態。律令政治が天皇と貴族の共同統治的官僚政治であり、摂関政治が上級官僚貴族の寡頭政治的色彩が強いのに対し、白河上皇の専制的な権勢のもとに定着した政治形態を、後世の史家が院政と名付けたのである。(2014)(2011)

●博物館

- ★東京国立博物館(1872):日本最古の博物館。国宝87件、重要文化財633件を含む収蔵品の総数は115,653件ある。日本と東洋の文化財の収集保管、展示公開、調査研究、普及などを目的としている。(2014)
- ・国立科学博物館(1877):「自然科学及び社会教育の振興を図る」ことを目的とした博物館である。(2014)
- ・奈良国立博物館(1895):仏教美術を中心とした文化財の収集、保管、研究、展示を行う。毎年秋に実施される「正倉院展」の会場でもある。(2014)
- ・京都国立博物館(1897):主に平安時代から江戸時代にかけての京都の文化を中心とした文化財を、収集・保管・展示するとともに、文化財に関する研究、普及活動を行っている。(2014)
- ・国立民族学博物館(1977):民族学・文化人類学を中心とした研究・展示を行っている、博物館を持った研究所である。大阪府吹田市の万博記念公園にある。(2014)
- ・九州国立博物館(2005):福岡県太宰府市石坂にある歴史系の博物館。独立行政法人国立文化財機構が運営する博物館の1つで、太宰府天満宮裏の同宮所有の丘陵地に建設された。(2016)

日本と世界との関わりは、通訳案内士試験<日本歴史>の重要テーマである。詳細まで覚える必要はないが、**大きな流れ**はしっかり押さえておく必要がある。

●南蛮貿易開始から鎖国を経て開国への流れ

<南蛮貿易の開始>

明朝中国は海禁政策をとっていたが、勘合貿易により日明間の貿易は行われていた。しかし、1549年(嘉靖28年)を最後に勘合貿易が途絶えると、両国間の貿易は密貿易のみとなってしまった。ここに登場したのがポルトガルであった。ポルトガルはトルデシヤス条約およびサラゴサ条約によってアジアへの進出・植民地化を進め、1511年にはマラッカを占領していたが、1557年にマカオに居留権を得て中国産品(特に絹)を安定的に入手できるようになった。ここからマカオを拠点として、日本・中国・ポルトガルの三国の商品が取引されるようになった。

徳川家康が政権を握ると、オランダ、イギリスに親書を送り、オランダは1609年、イギリスは1613年に平戸に商館を設立した。しかしながら、両国とも中国に拠点を持っているわけではなく、日本に輸出するものはあまりなかった。結果イギリスは1623年に日本を撤退、オランダの場合も、日本への進出は商業的というよりむしろ政治的な理由であった。なお、当時のスペインの関心はフィリピンとメキシコ間の貿易であり、1611年にセバステイアン・ビスカイノが使節として駿府の家康を訪れたが、貿易交渉は不調に終わっている。

※南蛮とは

古代中国において、異民族の支配を含め、中国大陸を制した朝廷が自らのことを「中国」、「中華」と呼んだ。また、中華の四方に居住し、朝廷に帰順しない周辺民族を「東夷(とうい)」「北狄(ほくてき)」「西戎(せいじゅう)」「南蛮(なんばん)」と呼び、「四夷(しい)」あるいは「夷狄(いてき)」と総称した。

<キリスト教の禁止>

ポルトガル船が来航するようになると、「物」だけではなくキリスト教も入ってきた。**1549年のフランシスコ・ザビエルの日本来航**以来、イベリア半島(スペインやポルトガル)の宣教師の熱心な布教によって、また戦国大名や徳川幕府下の藩主にもキリスト教を信奉する者が現れたため、キリスト教徒(当時の名称では「切支丹」)の数は九州を中心に広く拡大した。当時の権力者であった織田信長はこれを放任、豊臣秀吉も当初は黙認していたが、1587年にバテレン追放令を出し、1596年にサン＝フェリペ号事件が発生すると、切支丹に対する直接迫害が始まった(日本二十六聖人殉教事件)。

家康は当初貿易による利益を重視していたが、**プロテスタント国家のオランダは「キリスト教布教を伴わない貿易も可能」と主張**していたため、家康にとって積極的に宣教師やキリスト教を保護する理由はなくなった。また、1612年の岡本大八事件をきっかけに、諸大名と幕臣へのキリスト教の禁止を通達、翌1613年に、キリスト教信仰の禁止が明文化された。また、国内のキリスト教徒の増加と団結は徳川將軍家にとっても脅威となり、締め付けを図ることとなったと考えるのも一般的である。

当時海外布教を積極的に行っていたキリスト教勢力は、キリスト教の中でも専らカトリック教会であり、その動機として、宗教改革に端を発するプロテスタント勢力の伸張により、ヨーロッパ本土で旗色の悪くなっていたカトリックが海外に活路を求めざるを得なかったという背景がある。一方、通商による実利に重きを置いていたプロテスタント勢力にはそのような宗教的な動機は薄く、特に当時、スペインからの独立戦争(八十年戦争)の只中にあつたオランダは、自身が直近までカトリックのスペインによる専制的支配と宗教的迫害を受け続けたという歴史的経緯から、カトリックに対する敵対意識がとりわけ強かったことも、徳川幕府に対して協力的であった理由と言える。

とは言うものの、中国に拠点を持たないオランダやイギリスが直ちにポルトガルの代替にならない以上、ポルトガルとの交易は続けざるを得なかった。

なお、キリスト教に関しては、単に国内で禁止するだけでなく、海外のスペイン・ポルトガルの根拠地を攻撃する計画もあった。当時オランダ商館の次席であつたフランソワ・カロンは1637年9月、長崎奉行榊原職直に対して、日蘭が同盟してマカオ、マニラ、基隆を攻撃することを提案した。その後まもなく長崎代官の末次茂貞は、商館長のニコラス・クーケバッケルに対し、翌年にフィリピンを攻撃するため、オランダ艦隊による護衛を要請している。しかし、この計画は翌年の島原の乱で立ち消えとなった。

＜島原の乱＞

徳川幕府が鎖国に踏み切った決定的な事件は、1637年(寛永14年)に起こった島原の乱である。この乱により、キリスト教は徳川幕府を揺るがす元凶と考え、新たな布教活動が今後一切行われることのないようイベリア半島勢力を排除した。ポルトガルは1636年以降出島でのみの交易が許されていたが、1639年にポルトガルが追放されると出島は空き地となっていた。1641年、平戸のオランダ商館倉庫に「西暦」が彫られているという些細な理由で、オランダは倉庫を破却し平戸から出島に移ることを強制された(ポルトガルは出島使用料を年額銀80貫払っていたが、オランダは55貫にまけさせている)。また、徳川幕府に対して布教を一切しないことを約束した。

しかし、島原の乱からポルトガル追放までは2年の間がある。これはオランダがポルトガルに代わって中国製品(特に絹と薬)を入手できる保証がなかったことと、日本の商人がポルトガル商人にかなりの金を貸しており、直ちにポルトガル人を追放するとその回収ができなくなることが理由であった。

＜貿易の管理＞

戦国時代から江戸初期にかけて、国内各地で大量に金と銀(特に銀)を産出していたため、交易においてもその潤沢な金銀を用いた。他方、江戸初期においては特に輸出するものもなく圧倒的に輸入超過であり、徐々に金銀が流出していった。このため、幕府は1604年に糸割符制度を設けて絹の価格コントロールを試みた。17世紀後半になると金銀の産出量が減り、このため1685年には貿易量を制限するための定高貿易法が定められ管理貿易に移行した。

また現代的視点では、長崎の出島・堺を始めとした有力港湾を徳川幕府の直轄領(天領)、若しくは親藩・譜代大名領に組み入れることによって、徳川幕府による管理貿易を行い収益を独占した、という研究がある[要出典]。しかし、幕府は藩の直接的な貿易を禁止したが、幕府自身も直接的な貿易を行っているわけではなく、また「鎖国」成立当初において幕府が長崎貿易から利潤を得ていたわけでもない。貿易の管理・統制については、貿易都市長崎および商人を通して間接的に行っていた。

＜鎖国完成まで＞(2017年に出題された)

「鎖国」体制は、第2代将軍秀忠の治世に始まり、第3代将軍家光の治世に完成した。

1612年(慶長17年)幕領に禁教令(2017)

1616年(元和2年)明朝以外の船の入港を長崎・平戸に限定する。

1623年(元和9年)イギリス、業績不振のため平戸商館を閉鎖。

1624年(寛永元年)スペインとの国交を断絶、来航を禁止。

1628年(寛永5年)タイオワン事件の影響で、オランダとの交易が4年間途絶える。

1631年(寛永8年)奉書船制度の開始。朱印船に朱印状以外に老中の奉書が必要となった。

1633年(寛永10年)第1次鎖国令。奉書船以外の渡航を禁じる。また、海外に5年以上居留する日本人の帰国を禁じた。

1634年(寛永11年)第2次鎖国令。第1次鎖国令の再通達。長崎に出島の建設を開始。

1635年(寛永12年)第3次鎖国令。中国・オランダなど外国船の入港を長崎のみに限定。東南アジア方面への日本人の渡航及び日本人の帰国を禁じた。

1636年(寛永13年)第4次鎖国令。貿易に関係のないポルトガル人とその妻子(日本人との混血児含む)287人をマカオへ追放、残りのポルトガル人を出島に移す。

1637年～1638年(寛永14年～15年)島原の乱。幕府に武器弾薬をオランダが援助。(2017)

1639年(寛永16年)第5次鎖国令。ポルトガル船の入港を禁止。それに先立ち幕府はポルトガルに代わりオランダが必需品を提供できるかを確認している。(2017)

1640年(寛永17年)マカオから通商再開依頼のためポルトガル船来航。徳川幕府、使者61名を処刑。

1641年(寛永18年)オランダ商館を平戸から出島に移す。

1643年(寛永20年)プレスケンス号事件。オランダ船は日本中どこに入港しても良いとの徳川家康の朱印状が否定される。

1644年(正保元年)中国にて明が滅亡し、満州の清が李自成の順を撃破して中国本土に進出。明再興を目指す勢力が日本に支援を求め、徳川幕府は拒絶を続けた。

1647年(正保4年)ポルトガル船2隻、国交回復依頼に来航。徳川幕府は再びこれを拒否。以後、ポルトガル船の来航が絶える。

1673年(延宝元年)リターン号事件。イギリスとの交易の再開を拒否。以降100年以上、オランダ以外のヨーロッパ船の来航が途絶える。

鎖国実施以前から、幕府は貿易の管理を試みていた。1604年には糸割符制度を導入し、生糸の価格統制を行った。糸割符は1655年に廃止され、長崎では相対売買仕方による一種の自由貿易が認められて貿易量は増大したが、1672年に貨物市法を制定して金銀流出の抑制を図り、さらに1685年には定高貿易法により、金・銀による貿易決済の年間取引額を、清国船は年間銀6000貫目・オランダ船は年間銀3000貫目に限定した。のちに、これを超える積荷については、銅・俵物・諸色との物々交換による決済(代物替)を条件に交易を許すようになったが、1715年の海舶互市新例により代物替が原則とされた。また、定高は1742年と1790年の2回にわたり引き下げられたため、代物替による交易が中心となっていった。

いわゆる「鎖国」政策は、徳川幕府の法令の中では徹底された部類ではあったが、特例として認められていた松前藩、対馬藩や薩摩藩では、徳川幕府の許容以上の額を密貿易(抜け荷)として行い、それ以外の領内を大洋に接する諸藩も密貿易をたびたび行っていた。これに対して、新井白石や徳川吉宗ら歴代の幕府首脳はこうした動きにたびたび禁令を発して取締りを強めてきたが、財政難に悩む諸藩による密貿易は続けられていた。中には、石見浜田藩のように、藩ぐるみで密貿易に関わった上に、自藩の船団を仕立てて東南アジアにまで派遣していた例もあった(竹島事件)。

<開国までの動きと鎖国の終焉>

18世紀後半から19世紀中頃にかけて、ロシア帝国、イギリス、フランス、アメリカ合衆国などの艦船が日本に來航し、交渉を行ったが、その多くは拒否された。しかし、1853年7月8日には浦賀へアメリカのマシュー・ペリー率いる黒船が來航し、翌1854年3月31日には日米和親条約が締結され、終に開国に至った。その後、日米修好通商条約(1858年)を初めとする不平等条約が続々と締結され、「鎖国」は崩壊したのである。

1778年(安永7年)ヤクーツクの商人パベル・レベデフ＝ラストチキンが蝦夷厚岸に到着。松前藩に、交易を求めたが拒否された。幕府には報告されず。

1787年(天明7年)ラ・ペルーズ伯ジャン＝フランソワ・ド・ガローが日本近海を航海、千島列島、琉球列島を探検した。宗谷海峡の国際名称ラ・ペルーズ海峡は、彼にちなんだものである。

1791年(寛政3年)米国の探検家ジョン・ケンドリックが2隻の船と共に紀伊大島に到着、11日間滞在した。日本を訪れた最初の米国人。

・ロシアによる開国要求

1792年(寛政4年)アダム・ラクスマンが大黒屋光太夫ら3名を連れて根室に上陸、通商交渉を求めも徳川幕府は拒否。しかし、長崎への入港許可証である信牌を与えた。

1804年(文化元年)9月、アダム・ヨハン・フォン・クルーゼンシュテルンが率いたロシアの世界一周遠征隊が津太夫ら4名を連れ、信牌を持って長崎に來航。特使ニコライ・レザノフが交易を求め、翌年春まで幕府と交渉するものの最終的に拒否される。

1806年(文化3年)「文化の薪水給与令」が出される。

1806年(文化3年)～1807年(文化4年)レザノフの部下であるフヴォストフが樺太の久春古丹や利尻島、択捉島の番屋を襲撃(フヴォストフ事件、文化露寇)、中川五郎治と佐兵衛がロシアに連行される。この事件は幕府が蝦夷地防衛に乗り出すきっかけとなり、日露間の緊張が高まった。薪水給与令は1年で取り消される。

1811年(文化8年)ヴァーシリー・ゴローニン大尉が国後島に上陸、捕らえられその後2年間抑留された(ゴローニン事件)。

1812年(文化9年)8月、ディアナ号が国後島に來航する。日露間で捕虜交換交渉が行われるが、日本側の捕虜である中川五郎治と歓喜丸漂流民6名が脱走したために交渉が決裂。帰途、ディアナ号艦長ピョートル・リコルド(ロシア語版)は報復として附近を航行していた歓世丸を襲撃、高田屋嘉兵衛を拘束し、翌年6月まで抑留する。

1813年(文化10年)9月、ディアナ号がゴローニンの解放交渉と日本人漂流民の久蔵の送還のために箱館に來航する。なおこの時、ロシアに帰化した善六がロシア側の通訳として使節に同行していた。

・フランス革命戦争とナポレオン戦争の余波

1797年(寛政9年)から1809年(文化6年)にかけて、本国がフランスに占領されてしまったため、オランダ商館長ヘンドリック・ドゥーフの依頼で数隻の米国船がオランダ国旗を掲げて出島での貿易を行った。

1808年(文化5年)オランダと敵対関係にあった英国の帆走フリゲート・フェートン号が、オランダ国旗を掲げ長崎に入港。フェートン号事件を起こす。その後も英国船出現が相次いだ。

1837年(天保8年)商船モリソン号が音吉を含む漂流民を日本に送り届けるために浦賀に來航したが、異国船打払令に基づき日本側砲台が砲撃した(モリソン号事件)。この事件後、幕府内部でも異国船打払令に対する

批判が強まった。

1842年(天保13年)アヘン戦争における清朝の敗北による南京条約の締結に驚愕した徳川幕府は、政策を転換し、遭難した船に限り給与を認める天保の薪水給与令を発令した。

1844年(天保15年)フォニエル・デュプラン大佐が率いるフランス海軍の遠征隊が琉球王国に来航、通商を求めるが拒否された。しかし、テオドール・フォルカード神父と通訳が那覇に残った。

1844年8月14日(弘化元年7月2日)オランダ軍艦パレンバン号がオランダ国王ウィレム2世の將軍宛の親書を携えていた長崎に入港。この親書はシーボルトの起草によるもので、開国を求めたが幕府はこれを拒否した。

1845年(弘化2年)捕鯨船マンハッタン号が、22人の日本人漂流民を救助し、マーケイター・クーパー船長は浦賀への入港を許可され、浦賀奉行と対面した。

1846年7月20日(弘化3年閏5月27日)アメリカ東インド艦隊司令官ジェームズ・ビドル代将は戦列艦コロンバスおよび戦闘スループ・ビンセンスを率いて、開国交渉のために浦賀に入港した。しかし、条約の締結は浦賀奉行に拒否され、数日の滞在で退去した。

1846年7月24日(弘化3年6月2日)フランスのセシル提督が長崎に来航したが上陸を拒否された。このとき、那覇に留まっていたフォルカード神父を伴っていた。

1848年(弘化5年/嘉永元年)ラナルド・マクドナルドが、日本人に英語を教えたいと自らの意志で、遭難を装って利尻島に上陸した。その後長崎に送られ、崇福寺大悲庵に収監され、本国に送還されるまでの半年間の間、ここで通詞14人に英会話を教えた。帰国後は、日本の情報をアメリカ合衆国本土に伝えた。

1849年4月17日(嘉永2年3月27日)ジェームズ・グリーン大尉が艦長を務める米国の帆走戦闘スループ・プレブル(USSPreble)が、アメリカ捕鯨船員を救出のため長崎に来航、軍事介入の可能性をほのめかしつつ、交渉を行った。結果、船員とラナルド・マクドナルドが解放された。帰国後、グリーンは米国政府に対し、日本を外交交渉によって開国させること、また必要であれば「強さ」を見せるべきとの建議を提出した。彼のこの提案は、マシュー・ペリーによる日本開国への道筋をつけることとなった。

1849年(嘉永2年)英国海軍のブリッグ・マリナー号が浦賀に来航し、地誌的調査を行った。マリナー号には音吉が通訳として乗艦していた。音吉は日本とのトラブルを避けるため、中国人であると偽っていた。

1853年(嘉永6年)マシュー・ペリー率いるアメリカ艦隊が来航。開国を要求した。蒸気船の来航はこのときが初めてであった。

1854年(嘉永7年/安政元年)ペリーが再来航し、日米和親条約を締結。下田と函館を開港し、鎖国が終わる。

1858年(安政5年)タウンゼント・ハリスと徳川幕府が日米修好通商条約を締結し、鎖国が完全に終わる。

なお、学問や商業目的の海外渡航が解禁されたのは1866年5月21日(慶応2年4月7日)のことであった。また、外国人の居住が自由になるのは、正式には内地雑居が認められる1899年(明治32年)7月16日である。

当初の「鎖国」の主目的であった「キリスト教の禁止」は、日米修好通商条約において居留地における教会建設と居留アメリカ人の信教の自由が認められたが、明治政府もしばらくは禁教政策を続けており、日本人に対する禁教が解かれたのは1873年(明治6年)であった。

●明治維新

<改革までの経緯>

明治維新は、黒船来航に象徴される欧米列強の経済的・軍事的進出に対する抵抗運動(攘夷運動)に起源を持つ。阿片戦争以後、東アジアで欧米による帝国主義の波が強まる中で、長年の国是であった鎖国体制を極力維持し、旧来の体制を維持しようとする思想が現れた。しかし江戸幕府は、朝廷の意に反する形で開国・通商路線を選択したため、攘夷運動は尊王論と結びつき、朝廷の権威のもと幕政改革と攘夷の実行を求める尊王攘夷運動として広く展開されることとなった。

一方、開国・通商路線を是認する諸藩の中にも、いわゆる雄藩を中心に、幕府による対外貿易の独占に反対し、あるいは欧米列強に対抗すべく旧来の幕藩体制の変革を訴える勢力が現れた。これらの勢力もまた朝廷を奉じてその要求を実現させようとしたため、幕末は京都を舞台に朝廷を巡る複雑な政争が展開されることとなった。尊王攘夷運動は、薩英戦争や下関戦争などにおいて欧米列強との軍事力の差が改めて認識されたことで、観念的な攘夷論を克服し、国内統一・体制改革(近代化)を優先して、外国との交易によって富国強兵を図り、欧米に対抗できる力をつけるべきだとする「大攘夷」論が台頭し、尊王攘夷運動の盟主的存在だった長州藩も開国論へと転向していくことになった。

幕府は、公武合体政策のもと朝廷の攘夷要求と妥協しつつ旧体制の存続を志向したため、次第に雄藩らの離反を招いた。また、黒船来航以来の威信の凋落もあって国内の統合力を著しく低下させ、幕末は農民一揆

が多発するようになった。このような情勢の中、諸侯連合政権を志向する土佐藩・越前藩らの主張(公議政体論)や、より寡頭的な政権を志向する薩摩藩の主張など、幕府を廃し、朝廷のもとに権力を一元化する国内改革構想が現れてくることとなる。また、それは旧弊な朝廷の抜本的な改革を伴う必要があった。結果として、この両者の協力により王政復古が行われ、戊辰戦争による旧幕府勢力の排除を経て権力を確立した新政府は、薩摩・長州両藩出身の官僚層を中心に急進的な近代化政策を推進していくこととなった。

<改革の時期>

開始時期については諸説あるが、狭義では明治改元に当たる明治元年旧9月8日(1868年10月23日)となる。しかし、一般的にはその前年にあたる慶応3年(1867年)の大政奉還、王政復古以降の改革を指すことが多い(維新体制が整う以前の政治状況については幕末の項で扱うものとする)。終了時期についても、廃藩置県の断行(明治4年、1872年)、西南戦争の終結(明治10年、1877年)、内閣制度の発足(明治18年、1885年)、立憲体制の確立(明治22年、1889年)までとするなど諸説ある。

この期間の政府を特に明治政府(めいじせいふ)、新政府(しんせいふ)、維新政府(いしんせいふ)などと呼称することが多い。「藩閥政府」と揶揄されることもあるが、中級官僚以上でも旧親藩・旧幕臣などから採用された者も少なくなく、一概に一部雄藩のみが主導したともいえない。当時の人々からは主に大政奉還と廃藩置県を指して御一新と呼ばれていた。

<五箇条の御誓文>

江戸幕府による大政奉還を受け、王政復古によって発足した明治新政府の方針は、天皇親政(旧来の幕府・摂関などの廃止)を基本とし、諸外国(主に欧米列強国を指す)に迫りつづけるための改革を模索することであった。その方針は、翌慶応4年(1868年)3月14日に公布された五箇条の御誓文で具体的に明文化されることになる。合議体制、官民一体での国家形成、旧習の打破、世界列国と伍する実力の涵養などである。なお、この『五箇条の御誓文』の起草者・監修者は「旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ」を全く新たに入れた総裁局顧問・木戸孝允(長州藩)であるが、その前段階の『会盟』五箇条の起草者は参与・福岡孝弟(土佐藩)であり、更にその前段階の『議事之体大意』五箇条の起草者は参与・由利公正(越前藩)である。

その当時はまだ戊辰戦争のさなかであり、新政府は日本統一後の国是を内外に呈示する必要があった。そのため、御誓文が、諸大名や、諸外国を意識して明治天皇が百官を率いて、皇祖神に誓いを立てるという形式で出されたのである。さらに国民に対しては、同日に天皇の御名で「億兆安撫国威宣揚の御宸翰」が告示され、天皇自身が今後善政をしき、大いに国威を輝かすので、国民も旧来の陋習から捨てるように説かれている。これらの内容は、新政府の内政や外交に反映されて具体化されていくとともに、思想的には自由民権運動の理想とされていく。

また、この目的を達するための具体的なスローガンとして「富国強兵」「殖産興業」が頻用された。

<改革の内容>

(1)岩倉使節団の影響

1871年12月23日から1873年9月13日にかけて[7]維新政府は不平等条約改正ならびに西洋の諸制度を研究するため岩倉具視を正使、大久保利通・木戸孝允・伊藤博文らを副使とする岩倉使節団を欧米へ派遣した。使節団は条約改正には失敗するものの、西洋の諸制度の研究・吸収には成功し、この後の維新の動きに大きな影響を与えた。一方、日本国内においては「留守政府」と呼ばれた日本残留組の西郷隆盛・井上馨・大隈重信・板垣退助・江藤新平・大木喬任らの手によって、次々と改革は進んでいった。このような改革には積極的に西洋文明の先進制度が取り入れられ、その過程で、「お雇い外国人」と呼ばれる外国人が、技術指導、教育分野、官制・軍制整備など様々な分野で雇用され、近代国家建設を助けた。

(2)改革された諸制度

留守政府が行った主な改革としては、学制改革、地租改正、徴兵令、グレゴリオ暦の採用、司法制度の整備、断髮令などがある。ただし、これらの改革は急激に行われたため矛盾も少なくなく、士族や農民の不満を招いたため、後の征韓論につながったとも言われる。欧米使節から帰国した岩倉や大久保が明治六年政変によって征韓論を退け、さらに大久保の下に内務省が設立されたことで諸改革の整理が行われることになる。ただし留守政府の行った改革のほとんどは政変後も存続し、明治維新の根幹の政策となっていた。

(3)軍隊

1930年代の海軍省徴兵令を導入し、近代的な常備軍を最初に作ろうとしたのは大村益次郎であったが、彼が暗殺されてしまったため、山縣有朋に引き継がれた。明治3年、徴兵規則がつくられ、翌年の明治4年に廃藩

により兵部省が全国の軍事力を握ることとなり、明治5年には徴兵令が施行され、陸軍省と海軍省が設置される。こうして近代的な常備軍が創設された。

(4)身分制度

江戸幕府下の武士・百姓・町人(いわゆる士農工商)の別を廃止し、「**四民平等**」を謳った。しかし、明治4年に制定された戸籍法に基づき翌年に編纂された壬申戸籍では、旧武士階級を士族、それ以外を平民とし、旧公家・大名や一部僧侶などを新たに**華族**として特権的階級とすると同時に、宮内省の支配の下に置くことになった。

華族と士族には政府から家禄が与えられ、明治9年の秩禄処分まで支給された。同年、廃刀令が出され、これにより士族の特権はなくなり、のちの**不平士族の反乱(佐賀の乱、萩の乱、秋月の乱、神風連の乱)**につながる。しかしこれらの反乱はいずれもほどなくして鎮圧され、1877年に維新の元勳の一人である西郷隆盛が率いた最大の士族反乱であった**西南戦争**が鎮圧されると、士族による反乱は後を絶った。

(5)経済産業

維新を進めるに当たり、大きな問題となったのが税収の確保であった。それまでの年貢は収量を基本とする物納が基本であり、また各藩領において税率の不均衡があったことから、土地を基本とする新たな税制が構想された。1871年には田畑永代売買禁止令が廃止されて土地の売買が可能となり、さらに1874年に地租改正条例が布告されることで土地は私有となり、土地所有者に地券が発行されることとなり、所有する土地に対し地租が課せられることとなった。これにより、土地の所有権がはじめて法的に認められたことによって土地の売買や担保化が容易になり、私有財産権が完全に確立することで資本主義の発展の基礎条件が成立した。

富国強兵・殖産興業のスローガンの下、工部省(のちに内務省)が中心となり、政府主導の産業育成が始まる。富岡製糸場をはじめとする官営模範工場が作られるなど、西洋式工業技術が導入された。しかし西南戦争後の財政難のため、1880年には「官営工場払下概則」が制定され、造幣局や通信、軍事関係を除く官営工場や鉱山が民間に払い下げられていった。これによって民間の工業は大きく発展することとなり、1890年ごろから産業革命が進行し、工業化が進展していくこととなった。

金融制度でも旧幕府時代の貨幣制度を改めて、通貨単位として「円」を導入(明治4年(1871年))。新貨条例を参照)、また国立銀行条例による国立銀行(ナショナルバンク)を経て、**通貨発行権を独占する中央銀行としての日本銀行設立**(明治15年、1882年)など、資本主義的金融制度の整備も行われた。

流通分野では、1871年には前島密によって郵便制度が創設され、1872年には新橋駅から横浜駅間において日本初の鉄道が開通し、電信網の整備や船舶運輸(民間の郵便汽船三菱会社と国策会社の共同運輸会社の競合を経て日本郵船会社)などの整備も行われた。これらの資本活動には、職を失った代わりに秩禄を得た華族の資産による投資活動も背景にあった。

(6)思想

幕末から活発になっていた佐久間象山などの「倫理を中核とする実学」から「物理を中核とする実学」への転回が行われ、横井小楠の実学から物理を中核とする福澤諭吉の文明論への転回といった思想史の転換が行われた。これに民間の知識人やジャーナリズムが連動し、**文明開化**の動きが加速する。

明治新政府は国民生活と思想の近代化もすすめ、具体的には、**福澤諭吉・森有礼・西周・西村茂樹・加藤弘**らによる**明六社**の結成と『明六雑誌』、福澤諭吉の『学問のすすめ』や中村正直の『西国立志編』『自由之理』が刊行され、啓蒙活動が活発になった。また土佐藩の自由民権運動の動きと連動して中江兆民や植木枝盛、馬場辰猪といった革新的な勢力と、佐々木高行、元田永孚、井上毅、品川弥二郎といった官吏の保守的な勢力との対立が鮮明になってきた。

教育機関の整備では始めは大学寮をモデルにした「学舎制」案を玉松操・平田鐵胤・矢野玄道・渡辺重石丸らの神道学者に命じて起草させたが、大久保利通や木戸孝允の意向の下、明治中期からは方針を変えて近代的な教育機関の整備が行われるようになり、幕末以来の蘭学塾や漢学塾、それに幕府自身がつくった洋学教育機関である開成所や蕃書調所が直接の誘因となって、明治期の高等教育が発達した。

維新まで松前藩による支配下にあり開発の進んでいなかった北海道の開発にも明治政府は着手し、1869年にはそれまでの蝦夷地から北海道と改名し、同年開拓使が置かれて、積極的な開発が進められた。北海道の札幌農学校や、三田育種所など、各種の学校や研究所があいついで設置された。このように、ありとあらゆるインフラが整備されていった。

(7)宗教

宗教的には、祭政一致の古代に復す改革であったから、慶応3年(1867年)旧暦正月17日に制定された職

制には神祇を七科の筆頭に置き、3月(旧暦)には神仏分離令が布かれた。そして当時の復古的機運や特権的階級であった寺院から搾取を受けていると感じていた民衆によって、仏教も外来の宗教として激しく排斥する**廃仏毀釈**へと向かった。

また、キリスト教(耶蘇教)は、新政府によって引き続き厳禁された。キリスト教の指導者の総数140人は、萩(66人)、津和野(28人)、福山(20人)に分けて強制的に移住させた。

慶応4年4月21日、勅命により湊川神社に**楠木正成**を祭ったのをはじめとして、それまでは賊軍とされ、顧みられることが少なかった**新田義貞**、菊池武時、名和長年、北島親房、北島頭家ら南朝の忠臣を次々と祭っていった。

明治2年(1869年)12月7日には、キリスト教信者約3,000人を、金沢以下10藩に分散移住させた。しかし、明治4年(1871年)旧11月、岩倉具視特命全権大使一行が欧米各国を歴訪した折、耶蘇教禁止令が各国の非難を浴びて、条約改正の交渉上障碍になるとの報告により、明治5年(1872年)に大蔵大輔の職にあった井上馨は、長崎府庁在任時に関わった事から、明治5年正月に教徒赦免の建議をした。

神道国教化政策との絡みや、キリスト教を解禁しても直ちに欧米が条約改正には応じないとする懐疑的な姿勢から来る、政府内の保守派の反対のみばかりでなく、宗教界や一般民衆からも「邪宗門」解禁に反対する声が強くなり紛糾したものの、明治6年(1873年)2月24日禁制の高札を除去し、その旨を各国に通告した。各藩に移住させられた教徒は帰村させ、ようやく終結した。

(8)法律

明治初期の日本は、不平等条約撤廃という外交上の目的もあり、民法、刑法、商法などの基本法典を整備し、近代国家としての体裁を整えることが急務であった。そこで、日本は、法学研究目的での海外留学を積極的に推し進めたほか、いわゆるお雇い外国人として**フランスの法学者エミール・ボアソナード**を起用するなどし、フランス法及びドイツ法を基礎に、日本特有の慣習や国情にも配慮しつつ、法典の整備を進めた。刑法は1880年(明治13年)に制定、2年後に施行され、民法は1896年(明治29年)に制定、1898年(明治31年)に施行された。日本は、アジアで初めて近代法の整備に成功した国となり、不平等条約の撤廃も実現したが、近年グローバル化の進展の中で、アジア各国が日本に法整備支援を求めていることには、このような歴史的背景があるとも言われている。

(9)文化

新時代「明治」の雰囲気醸成されていき、人力車や馬車の普及、鉄道の開通、シルクハット・燕尾服・革靴・こうもり傘などの洋装やザンギリ頭、パン・牛乳・牛鍋・ビールなど洋食の流行、ガス灯の設置や煉瓦造りの西洋建築などである。

自由民権運動がしだいに活発となり、徳富蘇峰が平民主義と欧化主義を唱え、民友社の設立し、『国民之友』を創刊し、それに対して三宅雪嶺は国粹保存主義を唱えて政教社を設立し『日本人』を発刊、志賀重昂らが参加した。陸羯南は日刊新聞『日本』で国民主義を唱え、近代俳句の祖である正岡子規らが記者を務めた。この『日本』のような新聞が、徐々にさまざまな人々によって発刊されていくことになる。民間新聞のはじめは幕末に創刊された浜田彦蔵の『海外新聞』であり、沼間守一の『横浜毎日新聞』、福地源一郎の『東京日日新聞』、栗本鋤雲の『郵便報知新聞』、末広重恭の『朝野新聞』などがつく。

(10)教育

それまでは各藩ごとに独自の教育制度があったが、地域差が大きく、与えられる教育も異なっていた。それまでの教育では身分等で分けられており、学校教育の偏りが一部存在していた。明治になり、政府は日本を強国にするためには、西洋のような一般国民にまで広く門戸を開いた、全国一律の教育制度が必要との認識に立ち、義務教育が開始された。

1872年(明治5年)に学制が公布され、1886年(明治19年)には小学校令や帝国大学令が發布された結果、全国に尋常小学校や高等小学校、大学が設立され、徐々に一般民衆も高度な教育を受けられる環境が整った。

また、明治になると女子教育の必要性も叫ばれるようになった。特に海外渡航の経験があって、欧米の女子教育を目の当たりにした**渋沢栄一**や**伊藤博文**たちは、その必要性を痛感しており、彼らによって女子教育奨励会が設立された。同じく女子教育に理解のあった黒田清隆は、欧米に10年単位の長期間、留学生を海外に派遣する岩倉使節団に、女子留学生も加えさせた。この時の留学生、永井しげ、津田うめ(後に津田塾大学の関係者となる)、大山捨松は、日本の女子教育に大きな功績を残すこととなる。

1874年(明治7年)に女子師範学校が設立された。女子への教育は、老若男女を問わず、学問に対する批評

が根強かったため、男子への教育に比べるとその歩みは遅々としていた。しかし、徐々に女性への教育の必要性は広く浸透していき、女子も義務教育、高等教育を受けられるようになっていった。

(11)外交政策

新政府にとって、最大の目標は欧米列強に追いつくことであり、そのためにも旧幕府時代に締結された不平等条約の改正が急務とされた。上記の岩倉使節団は西欧諸制度の調査も目的であったが、条約改正のための下準備という面もあり、実際交渉も準備されたが、日本を近代国家と見なしていない欧米諸国からは相手にされず、まだ、時期尚早であった。そのため、欧化政策など日本が西洋と対等たらしとする様々な政策が行われたが、条約改正自体は半世紀におよぶ不断努力を必要とした(→条約改正)。

一方、不平等条約の失敗を鑑とした政府は、アジア諸国に対しては、平等以上の立場を確保することを旨とした。清との間には明治4年(1871年)対等条約である日清修好条規が締結される。明治7年(1874年)には台湾における宮古島民殺害事件をきっかけに台湾出兵が行われ、両国の間で台湾・沖縄の帰属が決定されることになった。

李氏朝鮮との間では国書受け入れを巡って紛争が起こり、明治6年(1873年)には政府を二分する論争(いわゆる征韓論)となったが、明治8年(1875年)に起きた江華島事件を契機として日朝修好条規(江華島条約)を締結し、朝鮮を自主国として認め、開国させるに至る。

琉球に対しては、明治5年に琉球藩を設置し、明治12年には琉球処分が行われる。

また、ロシア帝国との間では明治8年(1875年)に、千島樺太交換条約が締結され、それまで日露雑居地とされた樺太および千島列島における日露国境が確定した。

●日本における産業革命

<その意義と時期>

鉱工業や運輸業に機械が導入されることにより、資本家と賃金労働者からなる資本主義的な生産様式が発展し、小規模生産を駆逐して、日本経済全体の中心を占めるようになった画期。機械の導入そのものは、幕末の幕藩営工業においてもみられたが、民間の綿糸紡績業や鉱山業などに次々と機械が導入されたのは、**1886年(明治19)の銀本位制移行**を契機とする企業設立ブームにおいてであり、このときに日本産業革命が始まったとみてよい。終了時点については、機械制綿糸紡績業の確立(1897年に綿糸の輸出量が輸入量を上回ったことを指標とする)をもって終了とみる説もあるが、**日露戦争(1904~1905)**を経て、民間の鉄鋼業や機械工業が発展し始め、織物業に力織機(りきしょつき)が導入されて手織機(ておりき)を圧倒し始める1907年(明治40)ころをいちおうの終了時点とみるのが通説である。

<発展のアンバランス>

日本の産業革命は、産業部門ごとの発展が不均等であり、部門の間のつながりも不十分であった。農業部門では大規模農場へ発展するものがまったくなく、商品貨幣経済に巻き込まれて競争に敗れ土地を失った農民たちは、高い現物小作料を払って地主から土地を借り、小規模生産を続けた。小作農家の生活は苦しかったため、娘たちの多くは繊維工場へ出かけて安い賃金で働かなければならなかった。小作農からさらに転落した者は、近くの都市などで仕事にありつけない限り、炭鉱や金属鉱山へ流れ込んで地底での重労働に従事した。産業革命が終了したころの資本主義的生産の状態は、繊維工業と鉱山業に500人以上の大規模作業場が数多くみられ、賃金労働者(職工・鉱夫)も両分野に集中していた(表1)。これらの分野の労働は比較的単純なため、低賃金労働者が豊富な後進国日本は国際競争で有利な位置にあった。これに対して、重工業(=金属・機械工業)のように多額の設備投資と熟練度の高い労働者が必要な分野は、なかなか発展できなかった。急成長を遂げた綿糸紡績業は、必要とする紡績機械をもつばらイギリスから輸入しており、日本の機械工業はせいぜい修理を担当する程度であった。もっとも、製糸業の繰糸器械はほとんどが国産であり、織物業の機械化に際しては豊田佐吉(とよだささきち)らの発明した安価な国産力織機が普及するなど、繊維工業と機械工業の間のつながりは、しだいに強まっていったことも見落としてはならない。以下、おもな部門の発展のようすをみてゆこう。

<繊維工業>

日本産業革命を代表する工業部門は綿糸紡績業であった。渋沢栄一らが設立した大阪紡績が、最新式の輸入機械と安い輸入綿花を使い、女工を昼夜二交替で働かせて高利益をあげたのに刺激されて、1880年代後半に大阪、東京、名古屋などの大都市商人が出資する大規模紡績が続々と設立された。国産の機械制綿糸は、輸入インド綿糸を数年のうちに国内市場から駆逐しただけでなく、中国・朝鮮へと輸出され、1913年(大正

2)には中国市場においてインド糸輸入量を超えるまでになる。しかし、昼夜二交替制労働は女工の体重を減少させ結核患者を多発させたため、1911年制定の工場法(1916施行)において、女工の夜業禁止が定められた(ただし同法施行から15年間の適用猶予付き)。

養蚕農家がつくった繭を原料として生糸を製造する製糸業は、最大の輸出産業として多額の外貨を稼いだ。富岡(とみおか)製糸場のフランス式鉄製繰糸機などをモデルに軽便かつ安価な木製繰糸機がつくられ、1870年代後半から長野・山梨・岐阜などの農村にたくさんの器械製糸場が設立された。製糸家は輸出港横浜の生糸売込問屋や地方銀行から借金をして原料繭を仕入れ、出稼ぎ女工を長時間働かせて生糸を生産した。女工の賃金は、工場内の全女工の賃金総額を固定したまま彼女らの繰糸成績によって分配されるという等級賃金制であったため、女工は長時間にわたって緊張した仕事を続けねばならず、しかも能率上昇の成果は全体として製糸家のものとなった。製糸業の中心地長野県諏訪(すわ)では、製糸家が同盟して女工の登録制度をつくり工場間の移動を禁止したので、彼女らは厳しい労働条件を耐えなければならなかった。

< 鉱山業 >

石炭と銅は当時の重要な輸出品であった。1890年代から諸鉱山の主要坑道に巻揚機械が導入されたが、切羽(きりば)での採掘と主要坑道までの運搬は手労働であり、地底での労働はたいへん厳しかった。筑豊(ちくほう)の炭鉱では夫婦が仕事の単位となり、夫が狭い切羽で掘り出した石炭を妻が竹籠(かご)に入れて炭車まで引きずってゆく姿がみられた(女子坑内労働禁止は1933年)。こうした危険な重労働に従事する労働者を集め、彼らの生活を会社にかかわって管理したのが、納屋頭(なやがしら)とか飯場頭(はんばがしら)とよばれる人々である。金属鉱山では鉱毒水や亜硫酸ガスによる鉱害がかならずといってよいほど発生し、周辺住民との間にトラブルを生んだ。鉱夫の酷使に支えられ、周辺住民へ鉱害を及ぼしながら、鉱山経営は大きな利益をもたらしたため、三井、三菱(みつびし)、住友、古河(ふるかわ)などの大財閥の最大の蓄積基盤となった。

< 重工業 >

職工3000人以上の大工場は、官営の陸海軍工廠(こうしょう)と八幡(やはた)製鉄所が、紡績工場群を押さえて上位を独占していた。これら巨大軍工廠を中心として、日露戦争直後には兵器・軍艦の国産化が達成された。鉄鋼業の発展においても官営八幡製鉄所の設立(1901)は決定的な画期をなし、同製鉄所はレール製造などを行うとともに軍艦建造用の鋼材を供給した。一方、民間重工業もそれなりの発展を開始していた。1896年に欧米定期航路を開設した日本郵船など海運諸会社と結び付いて、三菱、川崎などの造船所がとくに発展し、また、1906年の鉄道国有化の直後には蒸気機関車の国産化も達成された。さらに、住友鑄鋼場、神戸製鋼所、川崎造船所鑄鋼工場、日本鋼管などの主要民間製鋼メーカーも日露戦争前後に発足した。そして、1897年には、東京砲兵工廠、新橋鉄道局、日本鉄道大宮(おおみや)工場などの鉄工(鉄を加工する旋盤工・仕上工・鍛工など)を横断的に組織した鉄工組合が、日本最初の労働組合として結成される。産業革命を通じて生み出された階級対立が早くも重要な社会問題となったわけであるが、政府は治安警察法(1900)を制定して幼弱な労働組合を抹殺した。

< 貿易赤字と外資依存 >

以上のような日本産業革命は、外国からの資本輸入に頼ることなくほとんど自力で進められた。鉄道、鉱山、銀行などへの外資導入は政府によって排除され、日清(にっしん)戦争後に規制が緩められたが、流入した外資は限られていた。そして、日露戦争の戦費調達のための巨額の外債発行が契機となって公債の形での外資依存が一举に強まったが、1894年から恒常化していた貿易赤字はなかなか解消せず、第一次世界大戦直前の日本は破産寸前の状態に陥っていたのである。

以上

日本歴史—1 (解答番号 ~) 平成 29 年度

各問題に対する解答は配付したマークシートの解答欄にマークすること。例えば と表示のある問題に対して④と解答する場合は、解答番号 の解答欄の④にマークすること。

次の(1)~(17)の写真や説明文について、それぞれの問いに答えなさい。

- (1) 「露坐の大仏」として名高い鎌倉大仏は、 の本尊で、国宝の銅造阿弥陀如来坐像である。
鎌倉市の「歴史的風土特別保存地区」に建長寺、円覚寺、、鎌倉大仏等が指定されている。



問 1 空欄 に入る語句として、最も適切なものはどれか、次の①~④から一つ選びなさい。

(2点)

- ① 奥の院 ② 妙法院 ③ 高德院 ④ 平等院

問 2 空欄 に入る語句として、最も適切なものはどれか、次の①~④から一つ選びなさい。

(2点)

- ① 熱田神宮 ② 鶴岡八幡宮 ③ 榎田神社 ④ 春日大社

- (2) 明治新政府の政策の中で、教育の近代化と近代産業の育成のために、1872年、学制を公布して、国民に対する小学校教育の普及を目指した。また、 等の 工場を作り、 を推し進め、近代工業の育成に努めた。



問 1 空欄 は、2014年に世界文化遺産に登録されたものである。最も適切なものはどれか、次の①~④から一つ選びなさい。

(2点)

- ① 小菅修船場 ② 富岡製糸場 ③ 三菱長崎造船所 ④ 八幡製鉄所

問 2 空欄 に当てはまる語句で最も適切なものはどれか、次の①~④から一つ選びなさい。

(3点)

- ① 官営 ② 軍需 ③ 製鉄 ④ 民間

問 3 空欄 に当てはまる語句で最も適切なものはどれか、次の①~④から一つ選びなさい。

(3点)

- ① 国民皆兵 ② 殖産興業 ③ 廃仏毀釈 ④ 文明開化

問 4 空欄 の設立にあたり、海外より技術指導を受け、機械を導入した。これに関連した国で最も適切なものはどれか、次の①~④から一つ選びなさい。

(3点)

- ① アメリカ ② イギリス ③ フランス ④ ロシア

- (3) 「お伊勢さん」と呼ばれる伊勢神宮は、正式には「神宮」といい、
a 天照大御神を祀る内宮（皇大神宮）と b 豊受大御神を祀る外宮（豊受大神宮）、および両社に所属する 123 の宮社からなっている。c 40 年ごとに行われる「式年遷宮」が始まったのは d 794 年の持統天皇の時代であるといわれる。



問 1 上記の説明の中で、下線部 a~d について正しいものを選んだ組み合わせを次の①~④から一つ選びなさい。 (3 点)

- ① a と b ② a と c ③ b と d ④ c と d

7

問 2 「伊勢参り」についての記述の中で正しいものはどれか、次の①~④から一つ選びなさい。 (3 点)

- ① 天皇以外が参拝出来るようになったのは室町時代である。
 ② 庶民の移動が厳しかった江戸時代に、伊勢神宮参詣を目的の通行手形では京や大坂に寄ることは出来なかった。
 ③ 「お蔭参り」とは江戸時代の伊勢神宮への民衆の集団参拝のことである。
 ④ 「伊勢参り」の賑わいを描いた浮世絵「伊勢参宮・宮川の渡し」の作者は葛飾北斎である。

8

- (4) 右の写真は、真言宗御室派総本山の寺院にある五重塔である。この寺院は、888 年に先帝の遺志を引き継いだ宇多天皇によって完成された。宇多天皇が譲位後、この寺院に御室を設けて住んだことから御室御所と称され、以降、皇室出身者が代々門跡を務める門跡寺院として高い格式を保った。1994 年に世界文化遺産に登録され、境内の「御室桜」でも著名なこの寺院の名称として正しいものはどれか、次の①~④から一つ選びなさい。 (3 点)



- ① 仁和寺 ② 東寺 ③ 知恩院 ④ 広隆寺

9

- (5) 右の写真の城は、徳川家康が西国の諸大名に築城を課し、1603年に完成した。1611年には家康が豊臣秀頼と会見したことで知られている。この城を舞台に行われた歴史上、最も大きな出来事は、1867年10月に徳川慶喜が二の丸御殿大広間に在京諸藩の重臣を集め、「大政奉還」の意思を表明したことである。1994年に世界文化遺産に登録されたこの城の名称として正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。



(3点)

- ① 亀山城 ② 二条城 ③ 伏見城 ④ 淀城

- (6) 右の写真の寺院は、南都六宗の一つである律宗の総本山、唐招提寺である。この寺院のはじまりは、苦難の末、来日を果たした唐の高僧が759年にこの地に修行道場を開いたことによる。その高僧とは誰か。次の①～④から一つ選びなさい。



(3点)

- ① 行基 ② 玄奘 ③ 鑑真 ④ 最澄

- (7) 「明治維新胎動之地」として知られる萩（山口県）及び長州藩（萩藩）に関する事柄について、以下の問いに答えなさい。



- 問1 後に明治維新の原動力となる多くの逸材を輩出した「松下村塾」を主宰した人物を次の①～④から一つ選びなさい。 (3点)

- ① 吉田松陰 ② 久坂玄瑞 ③ 木戸孝允 ④ 伊藤博文

- 問2 1863年、高杉晋作によって編成された軍事組織の名称を次の①～④から一つ選びなさい。 (3点)

- ① 陸援隊 ② 海援隊 ③ 歩兵隊 ④ 奇兵隊

- (8) a 戊辰戦争とは、旧幕府軍と薩摩藩（鹿児島藩）・長州藩（萩藩）を中心とする新政府軍が 1868 年 1 月に始まった鳥羽・伏見の戦いを皮切りとして、会津戦争、b 箱館戦争で旧幕府軍を降伏させた戦争をいう。



問 1 下線部 a に関連した記述の中で正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。 (3 点)

- ① 鳥羽・伏見の戦いとは、土佐藩（高知藩）を中心とした旧幕府側が新政府軍に負けた戦いである。
 ② 彰義隊の戦いとは、旧幕府軍の彰義隊が徳川慶喜を擁護するため、浅草寺にて新政府軍に反抗した戦いである。
 ③ 甲州勝沼の戦いとは、勝海舟が甲陽鎮撫隊の隊長になり甲州勝沼にて一戦を交えた戦いである。
 ④ 会津戦争では、白虎隊の若い隊士が飯盛山で自刃した。

14

問 2 下線部 b に関連して、箱館戦争で戦死した人物は誰か、次の①～④から一つ選びなさい。 (2 点)

- ① 沖田総司 ② 近藤勇 ③ 永倉新八 ④ 土方歳三

15

- (9) 尾張の戦国大名であった織田信長は、a 桶狭間の戦いで今川義元を破り、b 長篠の戦いでは鉄砲を有効に使用した戦法で c 甲斐の上杉謙信を破り、翌年、d 豪華な天守閣の大坂城を築いた。その城下では市や座で特権を持っていた商工業者の権利を取り上げ、自由に商工業ができる政策をすすめた。



問 1 下線部 a～d で、正しいものの組合せはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。 (3 点)

- ① a・b ② b・c ③ c・d ④ a・d

16

問 2 織田信長が行った、「城下で市や座で特権を持っていた商工業者の権利を取り上げ、自由に商工業ができる政策」で最も適切なものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。 (2 点)

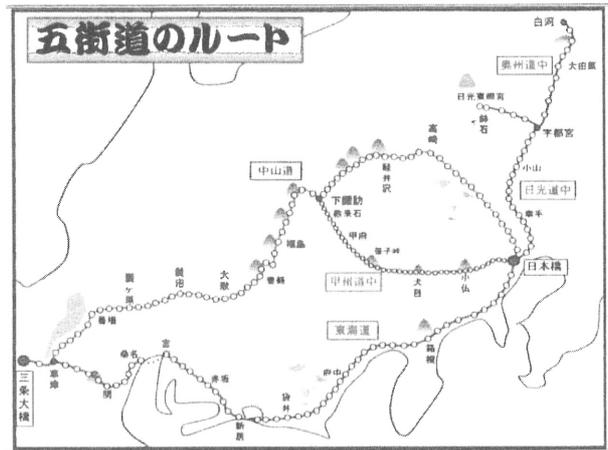
- ① 太閤検地 ② 地租改正 ③ 楽市楽座 ④ 兵農分離

17

問 3 1582 年、織田信長は家臣の明智光秀の謀反により京都に滞在していた時、自害に追い込まれた。その滞在していた施設の名前で最も適切なものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。 (2 点)

- ① 石山本願寺 ② 聚楽第 ③ 建仁寺 ④ 本能寺

18



(10) 徳川幕府は、江戸と地方を結ぶ重要な交通路として江戸の日本橋を起点に a 東海道、中山道、甲州道中（街道）、奥州道中（街道）、b 日光道中（街道）、の五街道を整備した。その沿道には宿場町が発達し、現在もその町並みを残す宿場町は、今では多くの外国人観光客が訪れる観光スポットとなっている。

問 1 下線部 a に関連して、次の文章の空欄に入る人物で最も適切なものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。 (3 点)

中山道にある「馬籠宿」は、木曾十一宿の一つで美濃との境にあり、急な坂道の両側に石を積んで家を建て、旅籠や飯屋が軒を並べていた。その宿場町の本陣跡には 記念館がある。

- ① 島崎藤村 ② 夏目漱石 ③ 福沢諭吉 ④ 森鷗外 19

問 2 下線部 a に関連して、次の文章の空欄に入ることがらで最も適切なものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。 (3 点)

東海道の箱根関所では、特に の監視が関所の重要な役割とされていた。

- ① 通行手形 ② 「浮世絵」又は「浮世絵(春画)」 ③ 入鉄砲に出女 ④ 抜荷 20

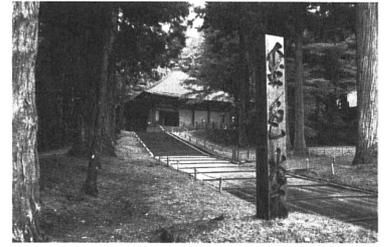
問 3 下線部 a に関連して、次の文章で正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。 (3 点)

- ① 『富嶽三十六景』の作者は、松尾芭蕉である。
 ② 『東海道五十三次』の作者は、葛飾北斎である。
 ③ 『甲州道中膝栗毛』の作者は、仮名垣魯文である。 21
 ④ 『奥の細道』の作者は、歌川(安藤)広重である。

問 4 下線部 b に関連して、2017 年に「平成の大修理」を終了した日光東照宮についての文章で正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。 (3 点)

- ① 日光東照宮の祭神は徳川家光である。
 ② 日光東照宮を造営したのは徳川家康である。
 ③ 日光東照宮の「眠り猫」の作者は俵屋宗達といわれる。
 ④ 日光東照宮の「陽明門」は「日暮の門」といわれる。 22

(11) 世界文化遺産の a 中尊寺のある平泉は、東北地方を治めていた奥州藤原氏一族が 4 代にわたり統治し、平安時代の約 100 年もの間栄えた。豊富だった金や馬等を利用して、当時の都をしのぐ都市を平泉に築いたとされている。

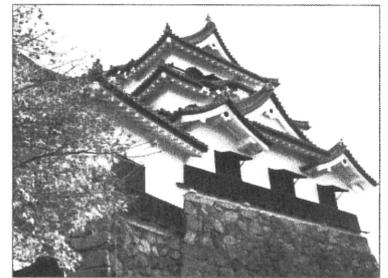


下線部 a に関連して、次の文章の空欄に入る人物で最も適切なものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

中尊寺は、850 年に比叡山延暦寺の高僧 によって開かれたとされる。その後、12 世紀初めに奥州藤原氏初代清衡によって大規模な堂塔造営が行われた。

- ① 弘法大師空海 ② 慈覚大師円仁 ③ 親鸞上人 ④ 伝教大師最澄

(12) 右の写真は、「関ヶ原の戦い」後に入封した井伊氏によって 1622 年に完成したとされる で、その天守は国宝に指定されている。歴代藩主の中には幕末期に大老となった井伊直弼がいる。開国論を展開、尊王攘夷派の志士等を厳しく取り締まった直弼は、1860 年に水戸の浪士らによって暗殺された。この事件は、 と呼ばれる。



問 1 空欄 に入る語句で正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ① 長浜城 ② 佐和山城 ③ 彦根城 ④ 安土城

問 2 空欄 に入る語句で正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ① 坂下門外の変 ② 桜田門外の変 ③ 天誅組の変 ④ 蛤御門の変

(13) 右の写真は、足利尊氏を開基とし、夢窓疎石を開山として京都嵐山に建つ臨濟宗の寺院、 である。この寺に関連する問 1～問 3 の各問に答えなさい。



問 1 空欄 は、足利尊氏が敵対関係にあった人物の菩提を弔うことを目的に建立された。その人物と空欄 の組み合わせで正しいものを次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ① 楠木正成—観心寺 ② 後醍醐天皇—天龍寺 ③ 新田義貞—大光院 ④ 北条高時—東勝寺

問 2 空欄 造営費用の捻出のため、後に「 船」と呼ばれる貿易船を中国に派遣することになるが、当時の中国の国名を次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ① 宋 ② 元 ③ 明 ④ 清

問 3 空欄 は、1386 年には「京都五山」の第一位と位置付けられたといわれている。その時以来「五山」の上に置かれたとされ、琵琶湖疎水の水道橋（水路閣）や参道の「湯豆腐」で有名な寺院はどこか、次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ① 南禅寺 ② 相国寺 ③ 東福寺 ④ 大徳寺

(14) 厳島（宮島）に関する①～④の記述の中で、正しいものを一つ選びなさい。(3 点)



- ① 厳島神社は、平清盛によって創建された。
② 後白河法皇・高倉上皇・建礼門院ら多くの皇族・貴族が厳島神社を参詣した。
③ 1185 年、「厳島の戦い」によって平氏は滅亡した。
④ 厳島神社は 1996 年にユネスコの「世界自然遺産」に登録された。

(15) 右の写真は太宰府天満宮である。以下、太宰府天満宮に関連する問 1～問 3 の各問に答えなさい。



問 1 太宰府天満宮の祭神である菅原道真に関する①～④の記述の中で正しいものを一つ選びなさい。

(3 点)

- ① 886 年に讃岐守となるが、現地には赴任していない。
② 唐の国情や航海の危険などを理由に遣唐使停止を建議した。
③ 藤原道長の讒言によって大宰府に左遷された。
④ 宇多天皇の命で「続日本後紀」を編纂した。

問 2 菅原道真が詠んだ和歌にも登場し、太宰府のみならず多くの天満宮・天神社の神紋になっている花木を①～④から一つ選びなさい。(2 点)

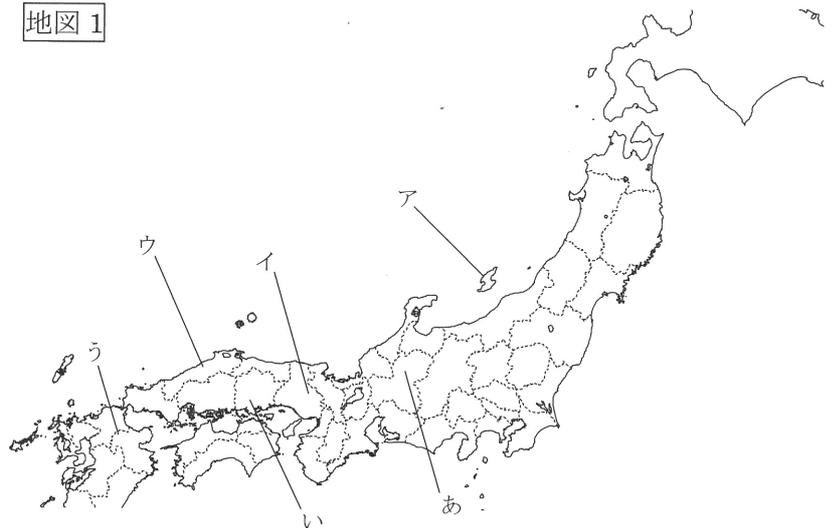
- ① 桜 ② 梅 ③ 桃 ④ 椿

問 3 太宰府天満宮と並んで全国の天満宮・天神社の総本社とされている神社を次の①～④の中から一つ選びなさい。(3 点)

- ① 北野天満宮（京都府） ② 長岡天満宮（京都府）
③ 防府天満宮（山口県） ④ 滝宮天満宮（香川県）

(16) 「天領」とは本来、天皇、朝廷の直轄地を指すものであったが、明治維新以降は、江戸幕府が直轄していた領地も「天領」とよぶことが定着した。江戸幕府は、金銀など豊かな鉱物資源を産出する地や交通の要衝などを「天領」としたが、この「天領」においては、繁栄がもたらされると同時に独自の文化を開花させ、今日でも、外国人旅行者にも魅力的な観光地となっているところが多い。

地図 1



問 1 次の A は「天領」となった鉱山に関する記述であるが、その内容に当てはまる名称を①～③から一つ選び、地図上の位置をア～ウから一つ選びなさい。(各 2 点)

A 1601 年、江戸幕府は大久保長安を初代奉行に任命した。当時、世界の産銀量の約 3 分の 1 を占めた日本銀のかなりの部分がここで産出されたと考えられている。支配の中心地区であった大森は、1800 年の大火により町の大半が焼失するが、新しい町づくりが始まり、建物のほとんどが特徴的な瓦屋根に再建された。1866 年には幕府の制裁に対抗して長州軍が大森に進駐した。

- ① 佐渡金山 ② 生野銀山 ③ 石見銀山

名称：33

地図上の位置：34

問 2 次の B は「天領」となった要地に関する記述であるが、その内容に当てはまる地名を①～③から選び、地図上の位置を「あ」～「う」から一つ選びなさい。(各 2 点)

B 1642 年に江戸幕府直轄の「天領」となり代官所が置かれたこの地は、物資輸送の集積地として、川沿いには塗屋造りの町家や白壁土蔵造りを中心とする町並みが形成された。江戸時代中後期には、周辺地域で行われていた綿作の発展により綿加工業が展開され、後の繊維産業発展の礎となった。当地は明治維新によって不振に陥ったが、大原氏が中心となり 1888 年に創設された紡績所の隆盛とともに再び発展していくことになる。

- ① (飛騨) 高山 ② (備中) 倉敷 ③ (豊後) 日田

地名：35

地図上の位置：36

(17) 1549 年に来日したフランシスコ・ザビエルと日本におけるキリスト教に関する事柄について以下の問いに答えなさい。



問 1 ザビエルに関する①～④の記述の中で正しいものを一つ選びなさい。 (3 点)

- ① ザビエルが来日するきっかけとなったのは、オランダ国王の要請を受けインドに派遣されたことによる。
- ② ポルトガル人により種子島に火縄銃が伝わったのは、ザビエルの来日後である。
- ③ 天皇と室町幕府の許可を得て、京都で布教活動を行った。
- ④ ザビエルを豊後府内 (現：大分市) に招いた大友宗麟は、後にキリスト教の洗礼を受けた。

問 2 以下の A～C は徳川幕府成立後に起きた事柄である。A～C を起こった順に正しく並べたものを、①～④から一つ選びなさい。 (3 点)

- A 禁教令 (キリスト教を禁止する法令) が全国に及ぼされた。
- B キリスト教徒の農民らによる島原の乱 (島原・天草一揆)
- C 寛永十六年禁令 (第五次鎖国令ともいわれる、ポルトガル船の来航禁止)

- ① A-B-C
- ② A-C-B
- ③ B-A-C
- ④ C-B-A

日本歴史—1 (解答番号 ~) 平成 28 年度

各問題に対する解答は配付したマークシートの解答欄にマークすること。例えば と表示のある問題に対して⑤と解答する場合は、解答番号 の解答欄の⑤にマークすること。

1 次の(1)~(11)は、日本の観光地等の写真とそれに関する説明である。それらを参照しつつ、それぞれの問いに答えなさい。



(1) この写真は、聖徳太子（厩戸皇子）が住んでいた斑鳩宮跡に行信僧都という高僧が聖徳太子の遺徳を偲び8世紀に建設した上宮王院（法隆寺東院伽藍）の中心となる建物で、八角円堂の中央の厨子には聖徳太子等身と伝えられる秘仏救世観音像が安置されている。この建築物の名称として適当なものはどれか。次の①~④から選びなさい。 (2点)

- ① 西円堂 ② 大宝蔵院 ③ 伝法堂 ④ 夢殿



(2) この写真は、680年天武天皇が皇后（後の持統天皇）の病氣平癒を祈願するために寺院の建立を発願し、天武天皇が崩御された後、持統天皇により藤原京に建設された寺院の金堂であり、この寺院は、平城京遷都に伴い718年に現在の西ノ京に移転されたものである。730年に建てられた東塔（現在修理解体中）を除き多くの堂宇が火災や戦乱によって焼失したものの、往時の姿に戻りつつある。この建築物のある寺院の名称として適当なものはどれか。次の①~④から選びなさい。 (2点)

- ① 元興寺 ② 唐招提寺 ③ 室生寺 ④ 薬師寺



(3) 下記の説明の中で、下線部 a~d のうち、誤っているものはどれか。次の①~④から選びなさい。

この写真は、東大寺の正倉院で、756年に a 光明皇后 が、b 桓武天皇 の冥福を祈念して天皇の遺品を奉獻したのが始まりで、同寺の大仏開眼供養や重要な法会に用いられた仏具や什器類などが多数保存されてきた。c 中国の唐との交流から国際色豊かな文化が最も栄えた時期の文化は、この天皇が治めた年号をとって d 天平文化 と呼ばれている。 (2点)

- ① a ② b ③ c ④ d



(4) この写真は、奈良時代（8世紀）に制作された仏像である。この仏像の名称を①~④から選び、この仏像を収蔵している寺院を①~④から選びなさい。

(各2点×2)

- 仏像： ① 阿修羅像 ② 迦楼羅像 ③ 帝釈天像 ④ 梵天像
寺院： ① 興福寺 ② 東大寺 ③ 室生寺 ④ 薬師寺



- (5) この写真は、794年の平安京造営の2年後国家鎮護のために羅城門の東に創建された寺院の講堂である。この講堂は弘法大師空海に下賜された後に真言密教の根本道場として創建されたが、1486年焼失したため1491年に再建された。この建築物のある寺院の名称として適当なものはどれか。次の①～④から選びなさい。(2点)

① 教王護国寺 (東寺)

② 高山寺

③ 西芳寺

④ 清水寺



- (6) この写真は、1052年関白藤原頼通が父の道長より譲り受けた別業(別荘)を仏寺としたものであり、翌年の1053年にはこの阿弥陀堂が落慶し、室内には平安時代の仏師定朝が制作した阿弥陀如来座像が安置された。約1000年前の建築物や仏像が今に伝えられている。この寺院の名称として適当なものはどれか。次の①～④から選びなさい。(2点)

① 西大寺

② 仁和寺

③ 平等院

④ 蓮華王院



- (7) この写真は、ある寺院の御影堂である。この寺院の前身は、平安初期に嵯峨天皇が皇后と御成婚された時に離宮として建立されたのが始まりで、離宮嵯峨院と呼ばれていた。その後、876年に天皇の皇孫恒寂入道親王が開山(寺院の創始者)として開創し寺院となった。弘法大師空海のおすすめにより嵯峨天皇が浄書された般若心経が勅封され、般若心経の写経の根本道場として知られている。この寺院の名称として適当なものはどれか。次の①～④から選びなさい。(2点)

① 神護寺

② 大覚寺

③ 天龍寺

④ 妙心寺



- (8) この写真は、593年に建立された寺院である。『日本書紀』によると、蘇我馬子と物部守屋との合戦の際、崇仏派の蘇我氏についての聖徳太子が形勢の不利を打破するための誓願をして、勝利の後にその誓いを果たすために建立されたと伝えられている。この寺院の伽藍配置は、南から北へ向かって、中門、五重塔、金堂、講堂を一直線に並べ、それを回廊が囲む形式で、6～7世紀の大陸の様式を今日に伝える貴重な建築様式といわれる。この寺院の名称として適当なものはどれか。次の①～④から選びなさい。(2点)

① 広隆寺

② 四天王寺

③ 橘寺

④ 法起寺



- (9) この写真は、1185 年平家滅亡の際に平家とともに崩御された安徳天皇をお祀りした神社である。この神社は、かつては阿弥陀寺と称していたが、明治時代に寺を廃し、神社となり現在に至っている。この神社の名称を①～④から、この阿弥陀寺が舞台となった物語を①～④から選びなさい。

(各 3 点×2)

神社： ① 赤間神宮

② 宇佐神宮 ③ 大山祇神社 ④ 香椎宮

物語： ① 浦島太郎

② 笠地蔵 ③ 舌切り雀 ④ 耳なし芳一



- (10) この写真は、北海道札幌市にある札幌市時計台（正式名称は旧札幌農学校演武場）である。札幌市を代表する観光名所として広く知られている。札幌農学校は a 北海道大学 の前身であり、開拓使によって 1876 年に開校された。卒業生には、『代表的日本人』を英文で著した内村鑑三や b 『武士道』 を英文で著した新渡戸稲造、後には c 『羅生門』 を著した有島武郎などがいる。学校の設置母体である開拓使には多くの官営工場が開設され、ビールを製造した開拓使麦酒醸造所もその 1 つである。この麦酒醸造所は、開拓使の象徴であった星印をビールの瓶や缶に付けて売り出した d 麒麟麦酒株式会社 の前身である。

- 問 1 上記の説明の中で、下線部 a～d のうち、誤っているものの組み合わせとして適当なものはどれか。次の①～④から選びなさい。 (3 点)

① a と b ② b と c ③ c と d ④ 誤っているものはない

- 問 2 札幌農学校の初代教頭として来日、日本を離れる際に「Boys, be ambitious」(少年よ大志を抱け)と語ったといわれている人物は誰か。次の①～④から選びなさい。 (2 点)

① クラーク ② ケプロン ③ フェノロサ ④ メーソン

- 問 3 この時期には北海道で最初の鉄道が開業し、北海道開拓に貢献している。1880 年に着工し、蒸気機関車「弁慶号」による試運転を経て、同年 11 月に官営幌内鉄道が札幌まで開通した。同鉄道が着工された現在の都市はどこか。次の①～④から選びなさい。 (2 点)

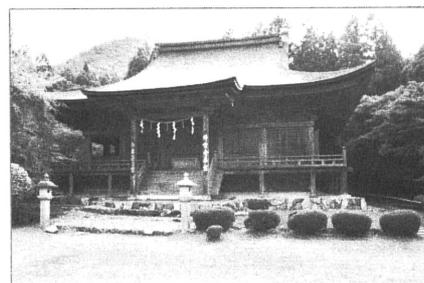
① 江別市 ② 余市町 ③ 小樽市 ④ 函館市

(11) 福井県小浜市は若狭町とともに、2015 年 4 月に「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～」として文化庁から日本遺産に認定された。この小浜市は、かつての若狭国の中心であり、現在の福井県は若狭国と越前国によって構成されている。この説明に関連する問 1～問 4 の各問いに答えなさい。

問 1 小浜には、江戸時代に小浜藩が置かれ、小浜藩の藩医の子であり、自身も小浜藩医となった人物に杉田玄白がいる。杉田玄白が前野良沢らと、オランダから伝えられた『ターヘル＝アナトミア』を翻訳して出版したものはどれか。次の①～④から選びなさい。(2 点)

- ①『解体新書』 ②『西洋紀聞』 ③『ハルマ和解』 ④『蘭学階梯』

問 2 この写真は神宮寺（若狭神宮寺）である。神宮寺では毎年 3 月 2 日に「お水送り」の神事が行われている。このお香水により「お水取り」が行われる奈良の寺院はどこか。次の①～④から選びなさい。(2 点)



- ① 興福寺 ② 東大寺 ③ 法隆寺 ④ 薬師寺

問 3 この神宮寺（若狭神宮寺）は現存する数少ない神宮寺の 1 つであり、全国にあった多くの神宮寺は、明治時代の初めに起こった廃仏毀釈により破壊された。1868 年に出され、廃仏毀釈の激化に影響を与えたといわれるものはどれか。次の①～④から選びなさい。(3 点)

- ① 王政復古の大号令 ② 神仏分離令 ③ 大教宣布の詔 ④ 大政奉還

問 4 現在の越前市を中心に良質のものが古くから生産されていたが、福井藩（越前藩）が専売制を敷いた生産品は何か。次の①～④から選びなさい。(2 点)

- ① 藍玉 ② 藺草 ③ 黒砂糖 ④ 和紙

2 日本の歴史(世界との関わりを含む)について、それぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の A~C の写真は、どの時代と関係が深いか。次の①~④から最も関係の深い時代を選びなさい。
(各 2 点×3)



① 旧石器時代

② 古墳時代

③ 縄文時代

④ 弥生時代

A 19

B 20

C 21

(2) 次の A~C の記述の内容に当てはまる古墳・遺跡の名称を①~⑥から選び、それらの古墳・遺跡の地図上の位置を地図上のア~カから選びなさい。
(各 2 点×6)

- A 長期間にわたって定住生活が営まれていた縄文時代の最大級の集落跡で、竪穴住居跡、大人の墓、子どもの墓、大型掘立柱建物跡、貯蔵穴、道路跡などが見つかった。
- B 国内最大の前方後円墳で、5 世紀頃に述べ 680 万人が約 15 年かけてつくったと推定され、仁徳天皇陵であると治定されている。
- C 弥生時代における最大級の環濠集落跡で、物見やぐら、竪穴住居、祭殿など多くの建物が復元されている。

① 岩宿遺跡 ② 三内丸山遺跡 ③ 大仙陵古墳 ④ 登呂遺跡 ⑤ 箸墓古墳 ⑥ 吉野ヶ里遺跡



名称: A 22 B 23 C 24

地図上の位置: 25 26 27

- (3) 中国の漢（後漢・東漢）の歴史書（『後漢書』東夷伝）によれば、倭の奴国王が 1 世紀中ごろ後漢に使いを送り、光武帝から印綬を授けられたとある。「漢委奴国王」と印されたその金印が発見された場所を①～④から選び、金印が保管されている博物館を①～④から選びなさい。 (各 3 点×2)

発見場所：

- ① 長崎県壱岐島 ② 福岡県志賀島 ③ 長崎県平戸島 ④ 福岡県能古島

博物館名：

- ① 一支国博物館（壱崎市） ② 九州国立博物館（太宰府市）
 ③ 福岡市博物館（福岡市） ④ 長崎歴史文化博物館（長崎市）

- (4) 次の記述から、空欄に当てはまるものを①～④から選びなさい。 (3 点)

は、645 年中大兄皇子（後の天智天皇）とともに蘇我氏を倒して、天皇を中心とする中央集権国家の建設を目指し、政治の改革（大化の改新）を進めた。 の臨終に際し、天智天皇から大織冠位と藤原の姓を賜り、藤原氏隆盛の基礎を築いた。

- ① 橘諸兄 ② 中臣鎌足 ③ 長屋王 ④ 和気清麻呂

- (5) 以下の資料は、九州の御家人 竹崎季長が自らの元寇での活躍を記録するために作成した絵巻物（『蒙古襲来絵詞』）である。次の①～④の記述から誤っているものを選び、またこれらの戦いに関する遺構を①～④から選びなさい。 (各 3 点×2)



記述：

- ① 元軍は十数人が一組になって攻める集団戦法で、日本軍は 1 対 1 で戦う一騎打ち戦法であった。
 ② 元軍は、「てつはう（火薬を詰めた陶製の玉が大きな爆発音とともに破裂するもの）」という武器を使用した。
 ③ 元軍は 2 度日本に大軍を送り込み、この 2 度にわたる元軍の襲撃を元寇といい、それぞれの戦いは文永の役（1274 年）、弘安の役（1281 年）と呼ばれた。
 ④ 元寇があった当時の元の皇帝はチンギス=ハン（成吉思汗）であった。

遺構：

- ① 名護屋城跡 ② 防塁 ③ 防人 ④ 平戸城

- (6) 平安時代までの仏教は貴族を中心とした信仰であったが、鎌倉時代(12~14世紀)になって武士や民衆にも分かりやすい教えを説く新しい仏教が現れ、現代にも続いている。次の a~c の宗派と開祖(宗祖)並びに特徴的な教えの組み合わせのうち、正しいものだけをすべて選んでいる組み合わせを、次の①~④から選びなさい。(3点)

- a 浄土真宗(一向宗) — 親鸞 — 阿弥陀仏の教えを信じれば、悪人でも仏の慈悲で救われる(悪人正機)と説いた。
 b 浄土宗 — 法然 — 南無阿弥陀仏の念仏を唱えれば、誰でも救われるという教え。
 c 法華宗(日蓮宗) — 日蓮 — 南無妙法蓮華經の題目を唱えれば、国家も人も救われるという教え。

- ① a と b ② a と c ③ b と c ④ a と b と c

33

- (7) 下記の説明の中で、下線部 a~f のうち、誤っているものはどれか。次の①~⑥から選びなさい。(3点)

a 足利義詮の子で、室町幕府第三代将軍足利義満は、1392年 b 南北朝の合一を果たし、1401年中国の明と国交を回復し c 「日本国王」として冊封を受け、d 朱印船貿易を開いて室町幕府の最盛期を現出した。e 能楽の保護や金閣寺の建立などに見られるこの時代の文化を f 北山文化という。

- ① a ② b ③ c ④ d ⑤ e ⑥ f

34

- (8) この絵画は、円山応挙の描いた『長崎港図』である。中央下に扇型をした出島が正確に描かれている。出島は1634年に築造され、1636年にポルトガル人が収容された。しかし、翌1637年から1638年にかけておこった a 応仁の乱の後、ポルトガル船は来航禁止となる。そこで、それまで b 唐津にあったオランダ商館が出島に移され、長崎奉行の監視下に置かれた。オランダからは c 中国産の生糸などが日本にもたらされ、日本からは銅や俵物(煎りナマコ、干あわび、フカヒレなどの海産物)などが輸出された。また、オランダ商館長からは、江戸幕府に d オランダ風説書が提出され、それにより幕府は海外の事情を知ることができた。



- 問1 上記の説明の中で、下線部 a~d のうち、誤っているものの組み合わせとして適当なものはどれか。次の①~④から選びなさい。(3点)

- ① a と b ② b と c ③ c と d ④ 誤っているものはない

35

問 2 オランダ商館付きの医師として 1823 年に来日したシーボルトが、長崎郊外に開いた塾はどれか。
次の①～④から選びなさい。 (3 点)

- ① 気吹舎 ② 咸宜園 ③ 芝蘭堂 ④ 鳴滝塾

36

問 3 長崎に遊学し、オランダ人医師のもとで医学を学び、1838 年に大坂に適々齋塾 (適塾) を開いたのは誰か。次の①～④から選びなさい。 (3 点)

- ① 緒方洪庵 ② 佐久間象山 ③ 二宮尊徳 ④ 福沢諭吉

37

問 4 オランダから様々な技術がもたらされた長崎で生まれた高島秋帆はオランダ流の砲術を学び、それは江川太郎左衛門英龍に伝えられた。その後蘭学にも強い関心を示した江川太郎左衛門英龍が、現在の静岡県の韮山に築いたものはどれか。次の①～④から選びなさい。 (3 点)

- ① 台場 ② 造船所 ③ 反射炉 ④ 紡績工場

38

(9) 以下は伊達政宗に関連する記述である。問 1～問 3 の各問に答えなさい。

問 1 この絵画は、仙台藩主伊達政宗の命により 1613 年にメキシコ経由でヨーロッパに渡り、1620 年に帰国した伊達政宗の家臣の肖像画である。この人物は誰か。次の①～④から選びなさい。 (3 点)

- ① 高山右近 ② 田中勝介 ③ 支倉常長 ④ 山田長政

39



問 2 1590 年に伊達政宗は、豊臣秀吉と面会し秀吉に服属した。当時豊臣軍が北条軍と戦いを行っていた最中だったが、その戦いの舞台となった城はどこか。次の①～④から選びなさい。 (3 点)

- ① 小田原城 ② 春日山城 ③ 竹田城 ④ 松本城

40

問 3 伊達政宗は、藩の基盤を作るために積極的な新田開発を行った。あわせて治水事業を行うことで、米の輸送など水運も発達し、中継地点となる石巻が発達するきっかけとなった。この治水事業が行われた場所はどこか。次の①～④から選びなさい。 (3 点)

- ① 阿武隈川 ② 北上川 ③ 仙台港 ④ 松島湾

41